

1. 意識調査の概要

(1) 調査の目的

本市における男女共同参画に関する現状や課題、市民の意識を把握し、「第3次寒河江市男女共同参画計画」の策定や今後の施策の参考とすることを目的に実施

(2) 調査方法等

- 調査期間：令和3年7月27日から令和3年8月9日まで
- 調査対象者：寒河江市内に在住する18歳以上の男女
- 抽出方法：住民基本台帳より900名を無作為に抽出
 - ※「20代」「30代」「40代」「50代」はそれぞれ150名（男女各75名）、また、「10代」「60代」「70代」はそれぞれ100名（男女各50名）
- 調査方法：郵送による回答用紙配付
本人選択による郵送による回答用紙回収又は電子申請による回答

(3) 回答結果

- 回答数：289名（男性：130名、女性：157名、その他：1名、性別未回答：1名）
- 回答率：32.1%（郵送・持参回答26.4%（238名）、電子申請回答5.7%（51名））

(4) 調査項目

- ◇男女共同参画に関する用語の認知度について（問1）
- ◇家庭生活や職場などでの男女の立場について（問2）
- ◇家庭生活の状況について（問3）
- ◇家庭における夫婦の役割分担について（問4）
- ◇管理職や役員の状況について（問5）
- ◇役職の要請への対応について（問6）
- ◇女性の活躍について（問7）
- ◇男女共同参画社会を実現するうえで重要なことについて（問8）
- ◇男女共同参画社会を実現するうえで行政に必要な取組みについて（問9）
- ◇家庭生活、仕事、地域活動のバランスについて（問10）
- ◇仕事と生活の調和のために必要な取組みについて（問11）
- ◇職場における男女間差別の理由について（問12）
- ◇女性が職業につく、または働き続けていくうえで必要な取組みについて（問13）
- ◇男性の育児休業・介護休業の取得について（問14）
- ◇配偶者・パートナーからの暴力について（問15、16）

(5) その他

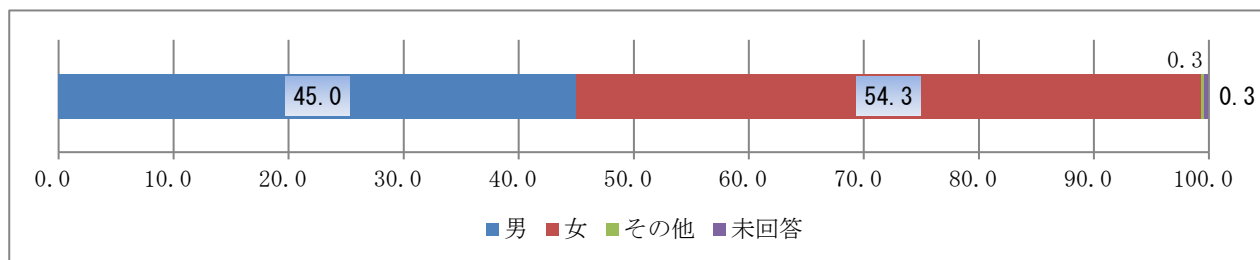
- ①比率については、原則、各設問の未回答を含む全回答に対する割合(%)としている。
(注) 問6-1、問14-1については回答者が限定されているので、「未回答」を除いている。
- ②割合(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。
- ③掲載している県の調査結果の出典は次のとおりである（設問内容や調査年度が異なることから、参考値）。
 - ・県……令和元年度ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識調査結果(山形県子育て推進部・令和元年8～9月調査)

2. 意識調査の結果

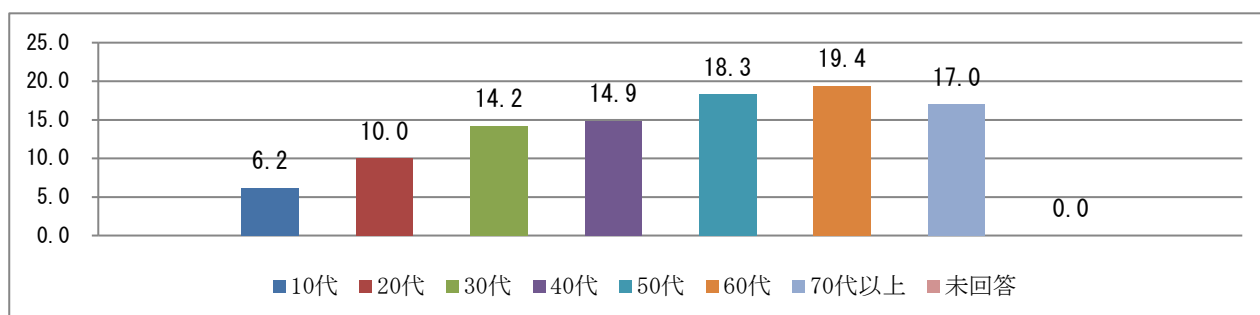
☆回答者の属性

回答者の属性を見ると、4.5割が男性、5.5割が女性となった。また、年代が高いほど回答率が高い傾向にある。職業は「常用雇用者」「無職」「パート・アルバイト」の順となっており、家族構成は親と子の「2世代世帯」の割合が最も高くなっている。

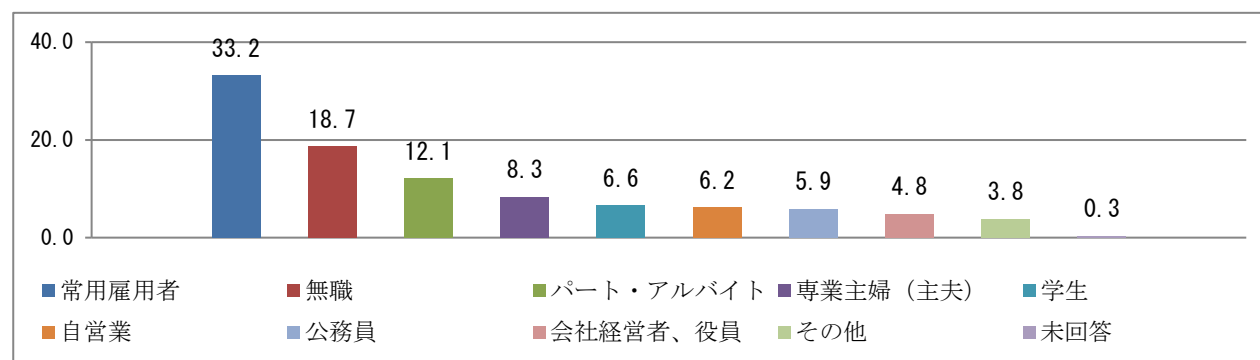
◇性別



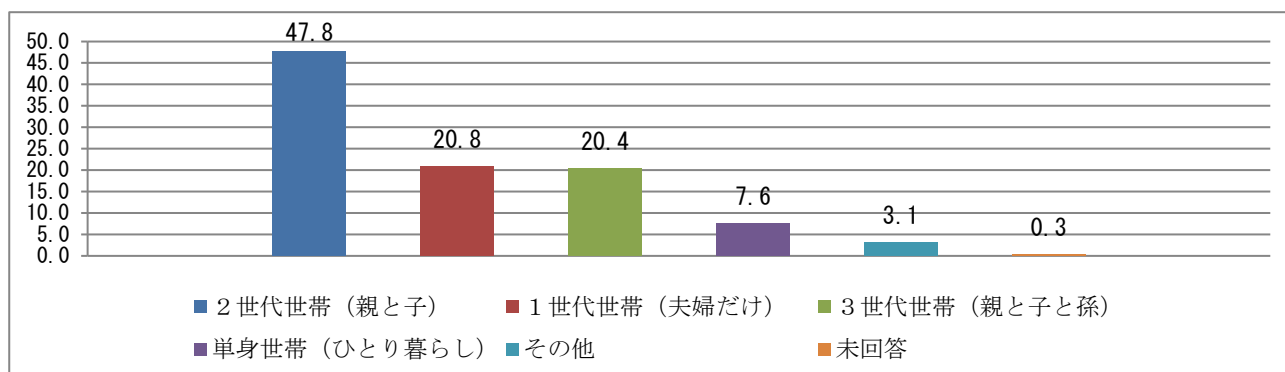
◇年齢



◇職業

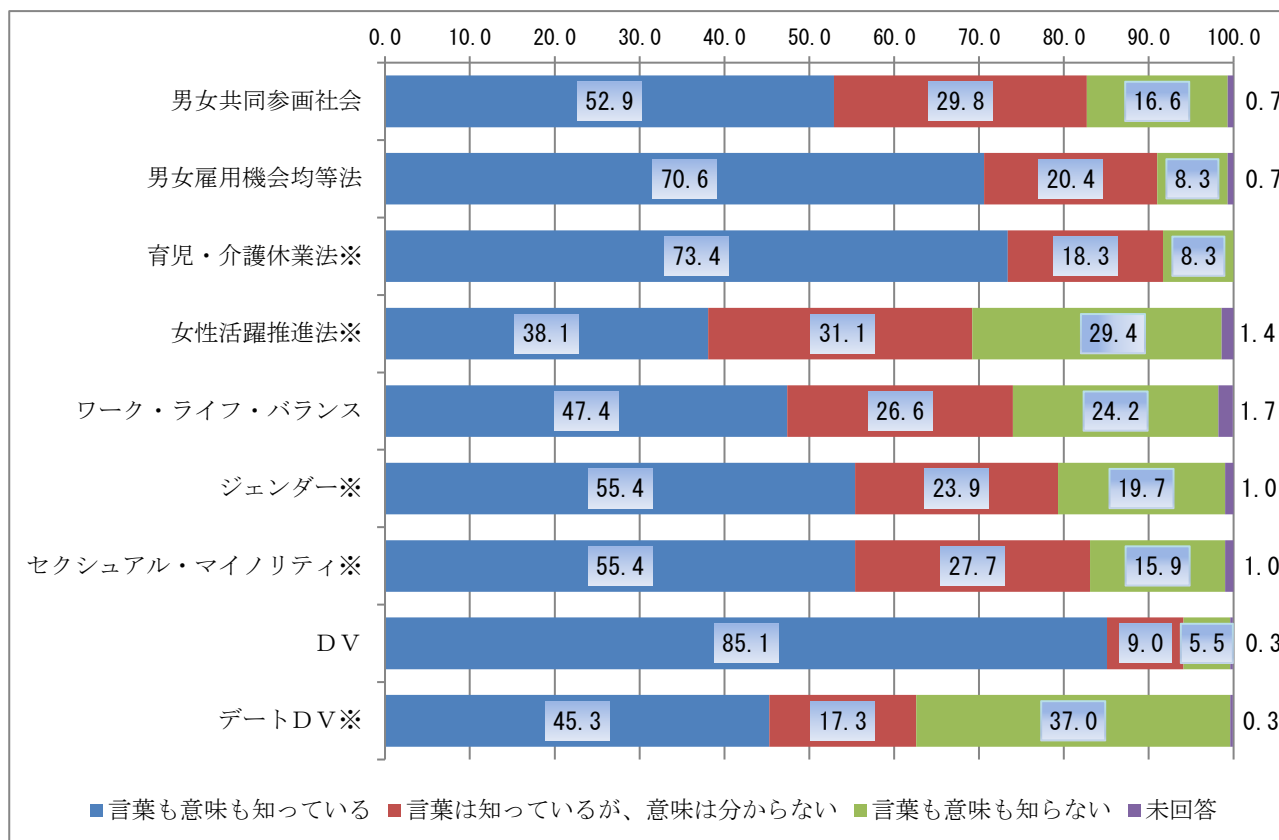


◇家族構成



(1) 男女共同参画に関する用語の認知度について

問1. あなたは、次の言葉や意味を知っていますか。



※は、今回調査から新たに設けた設問

◎ 「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は分からない」の合計（以下「言葉を知っている」という。）は、「女性活躍推進法」「デートDV」を除き、7割以上となっており、前回調査と同程度となっている。

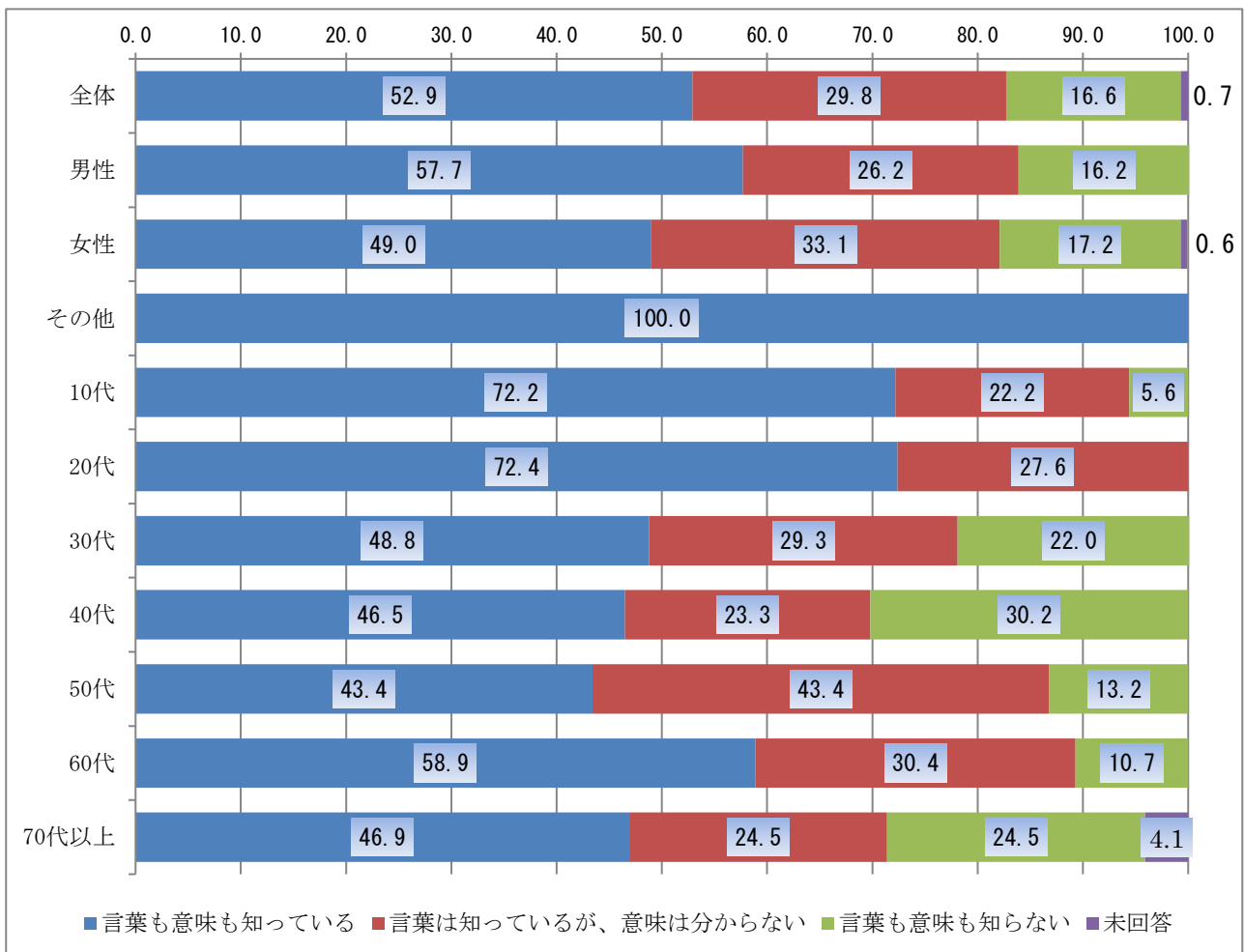
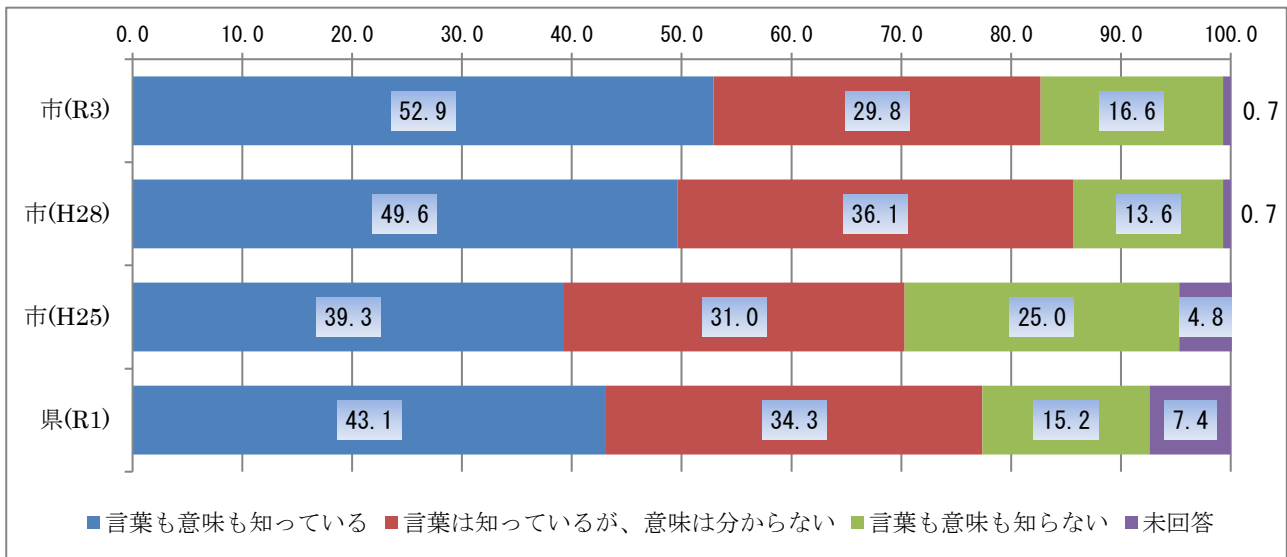
「言葉も意味も知っている」は、「女性活躍推進法」「ワーク・ライフ・バランス」「デートDV」を除き、5割以上となっており、前回調査と同程度となっている。

年代別では言葉を知っている割合に差があるものの、「女性活躍推進法」「ワーク・ライフ・バランス」を除き、男女別では大きな差はないものとなっている。なお、各項目について、「デートDV」を除き、県調査を上回っている。

【男女共同参画社会】

82.7%が言葉を知っていると答えており、前回調査から3ポイント減少したが、「言葉も意味も知っている」が3.3ポイント上昇し、県調査を9.8ポイント上回っている。

年代別では、10代・20代が「言葉も意味も知っている」が7割を超える一方、30代の5人に1人、40代の3人に1人、70代以上の4人に1人が「言葉も意味も知らない」と回答している。

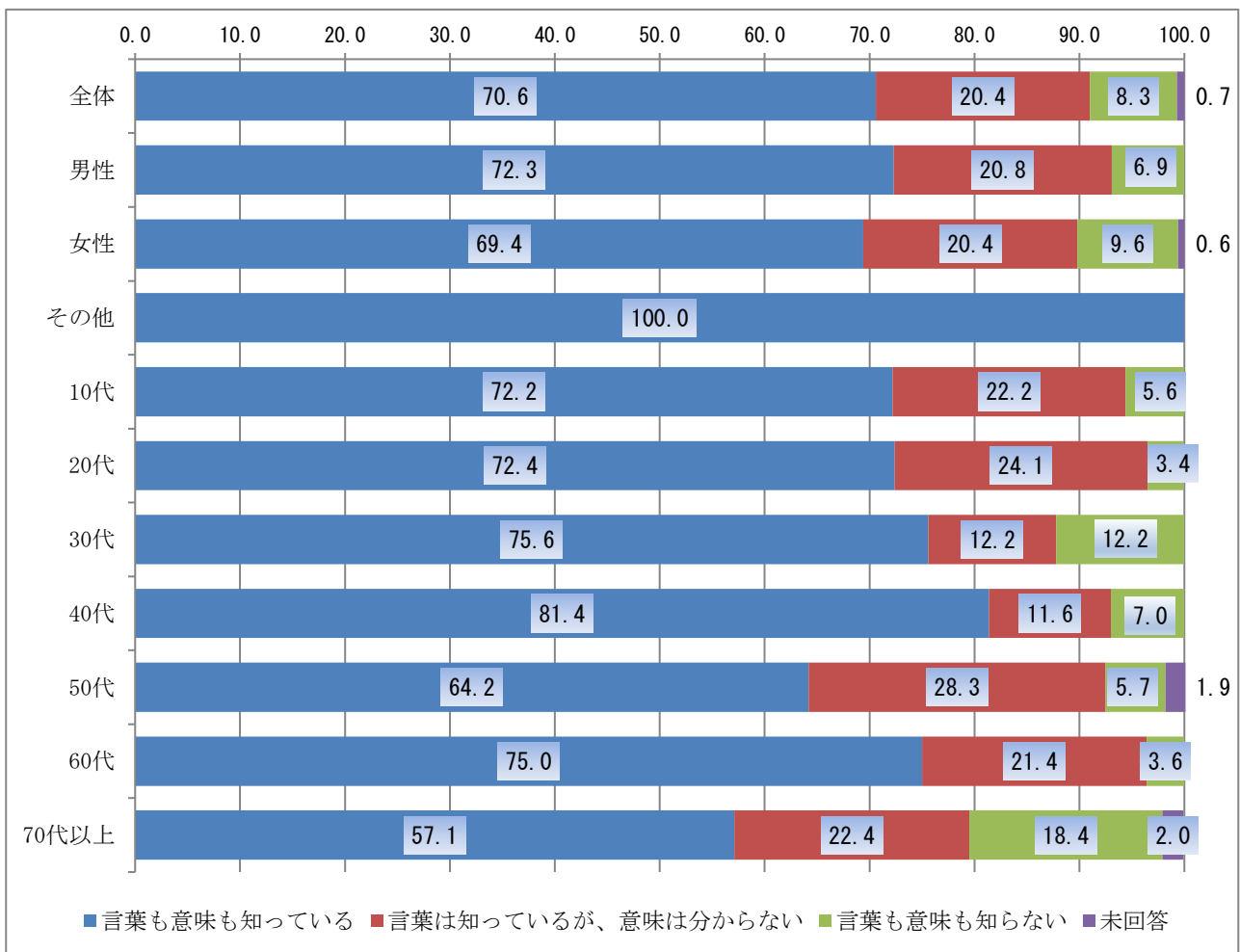
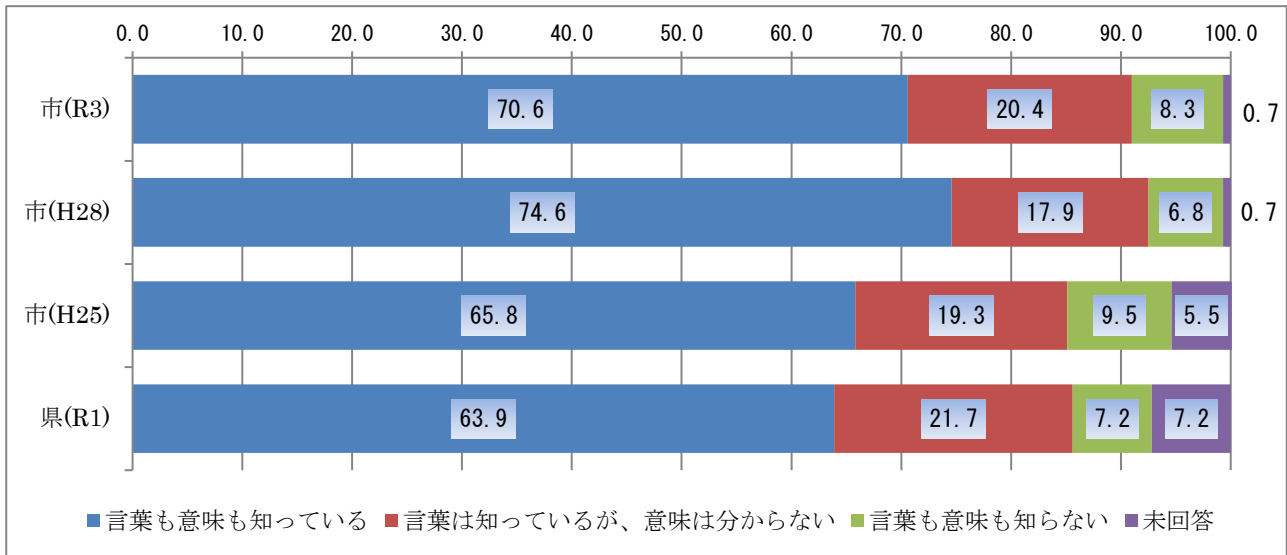


【男女雇用機会均等法】

91%が言葉を知っていると答えており、前回調査から1.5ポイント減少している。

また、「言葉も意味も知っている」は4ポイント減少しているが、県調査を6.7ポイント上回っている。

年代別では、40代まで年代が高くなるにつれて、「言葉も意味も知っている」が高くなっているが、50代以降は認知度が低くなっている。



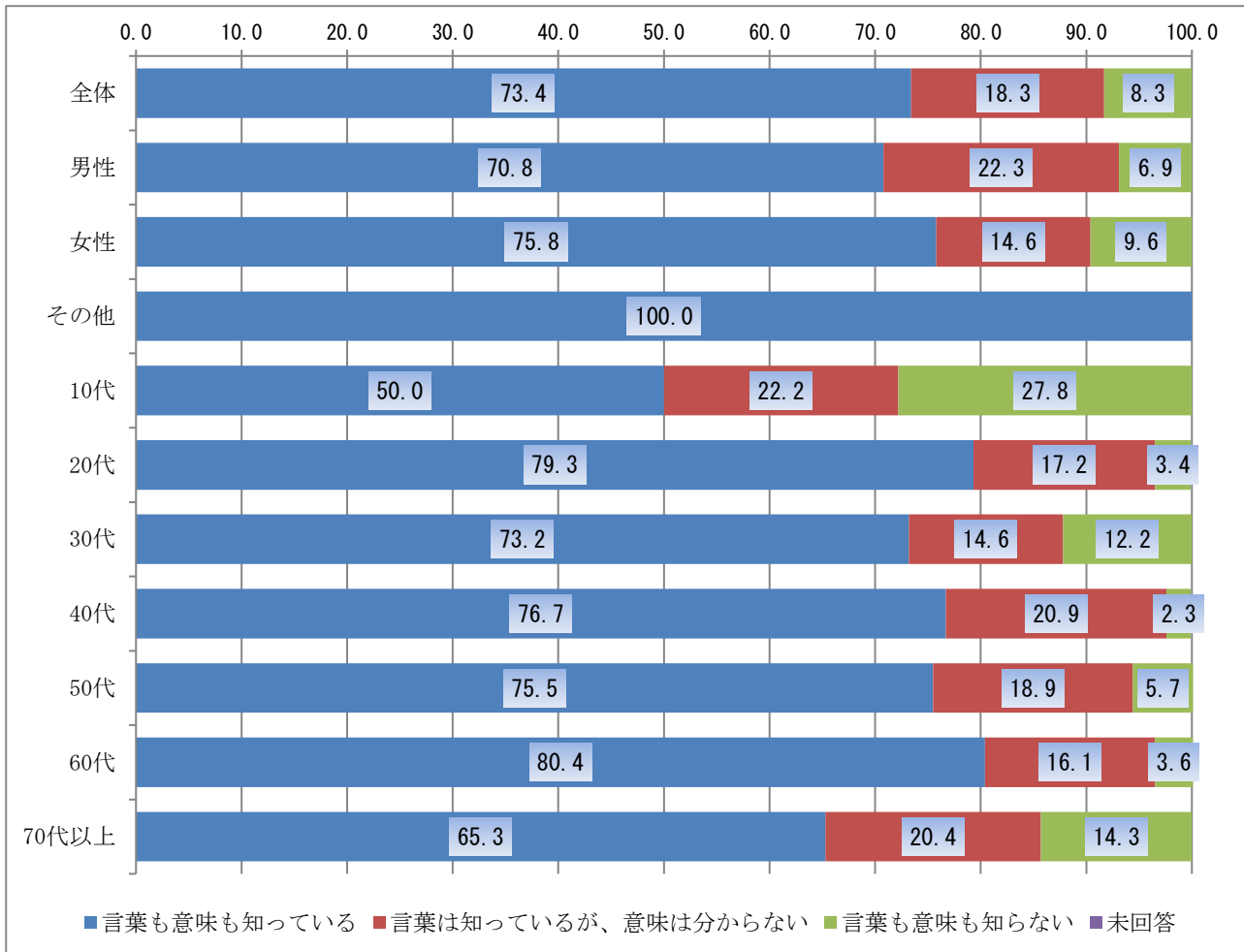
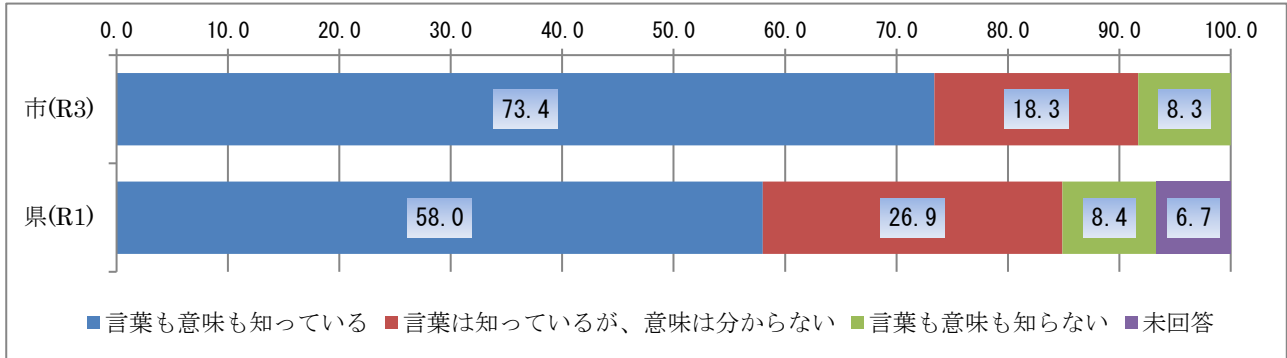
【育児・介護休業法】

今調査から設けた設問。

91.7%が言葉を知っていると答えており、県調査を6.8ポイント上回っている。

また、「言葉も意味も知っている」は、県調査を15.4ポイント上回っている。

年代別では、20代から60代までは「言葉も意味も知っている」が7割を超えているが、10代は5割と極端に低くなっている。



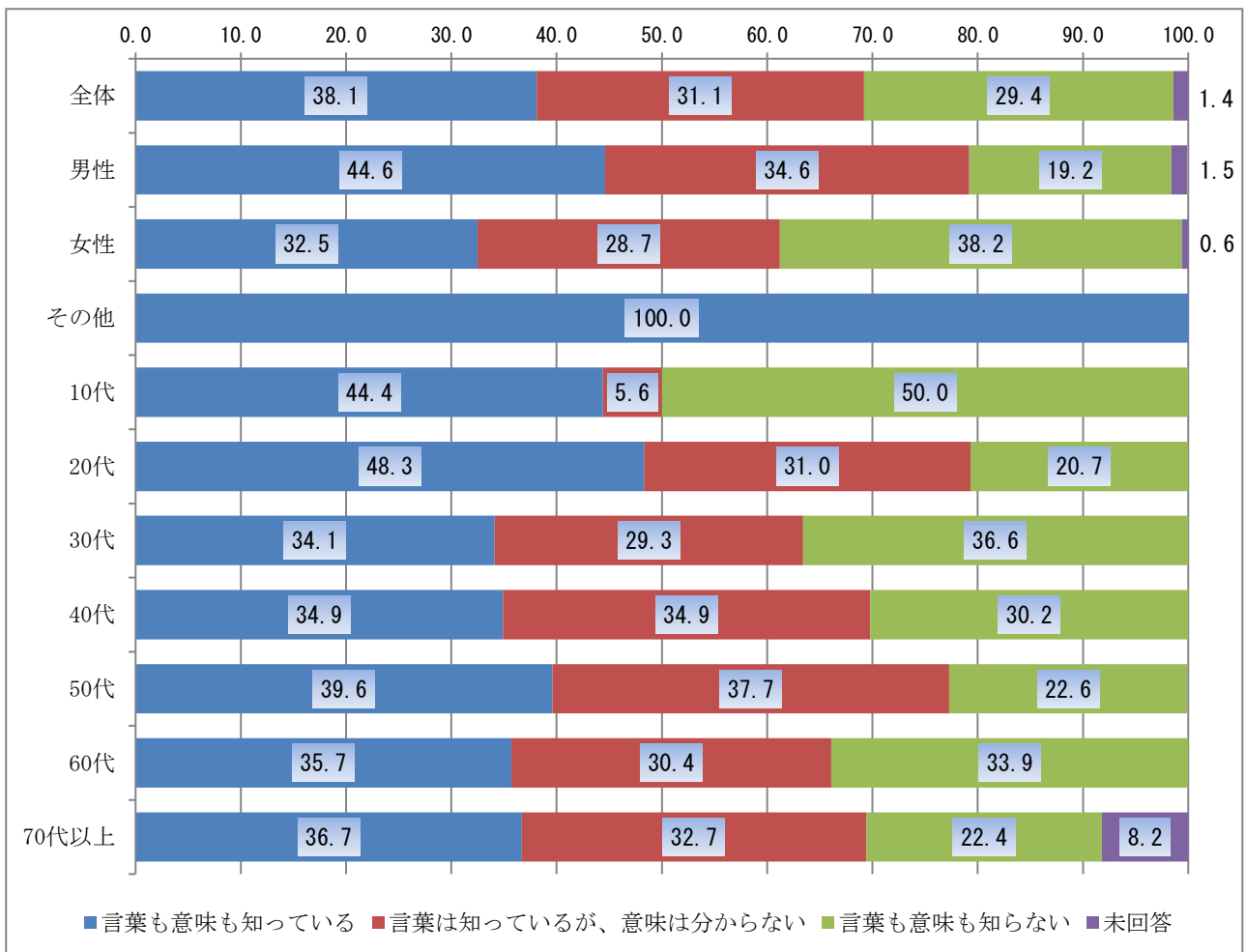
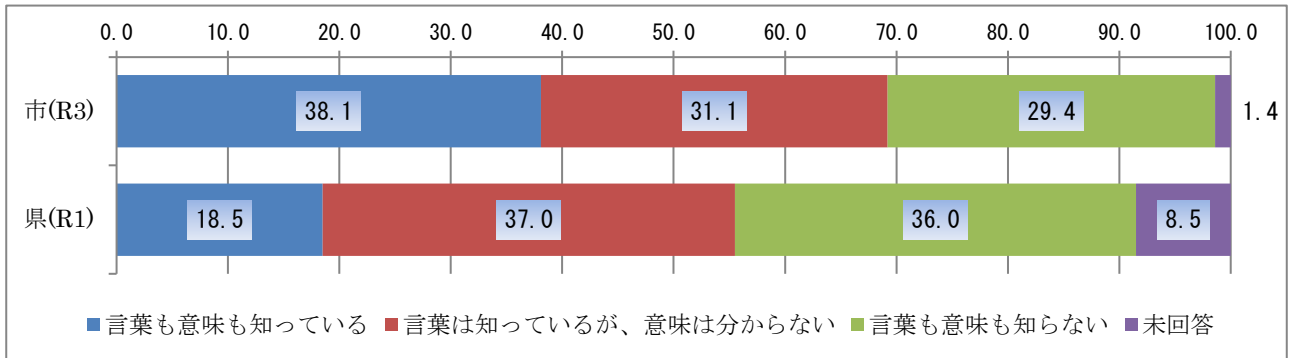
【女性活躍推進法】

今調査から設けた設問。

69.2%が言葉を知っていると答えており、県調査を13.7ポイント上回っている。

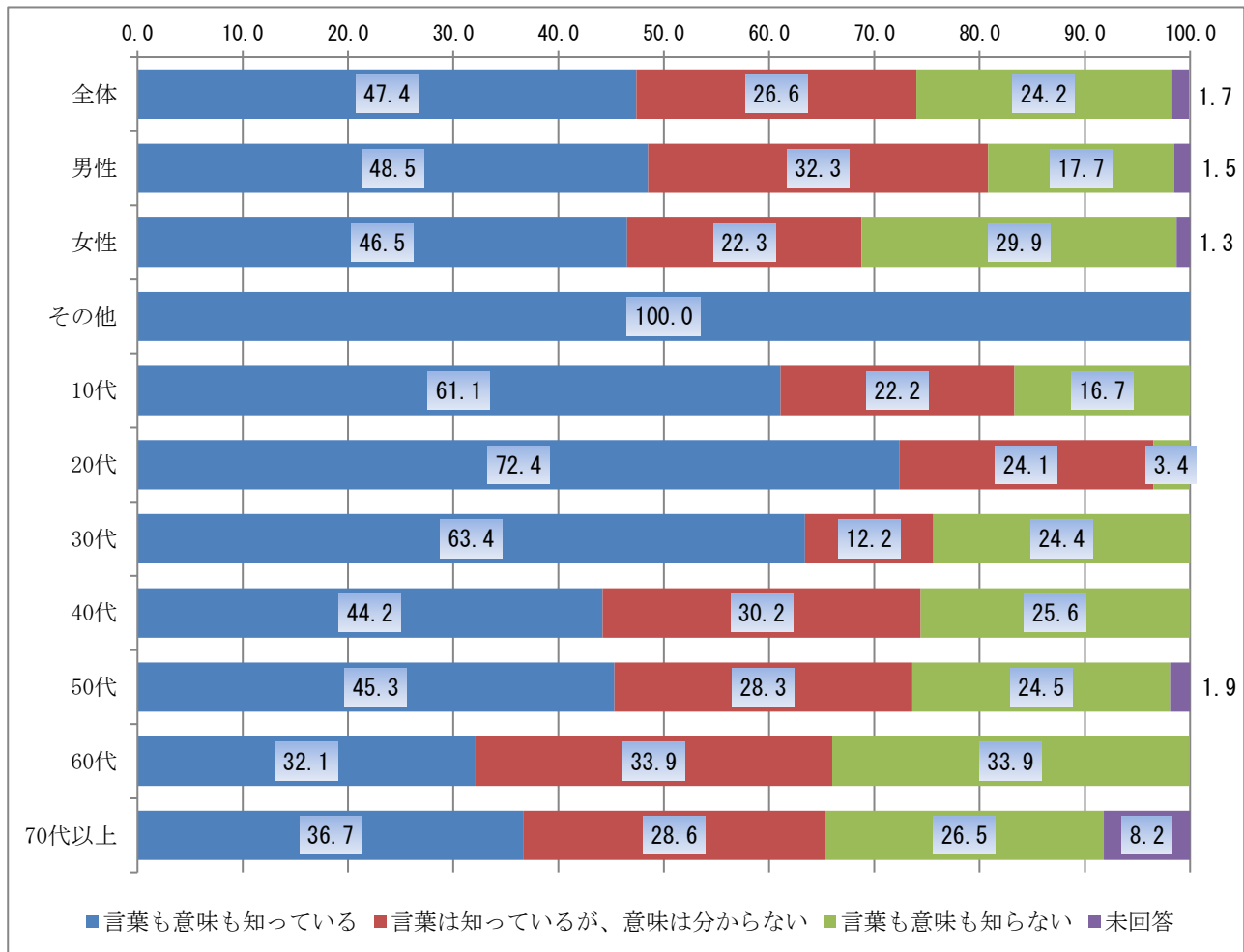
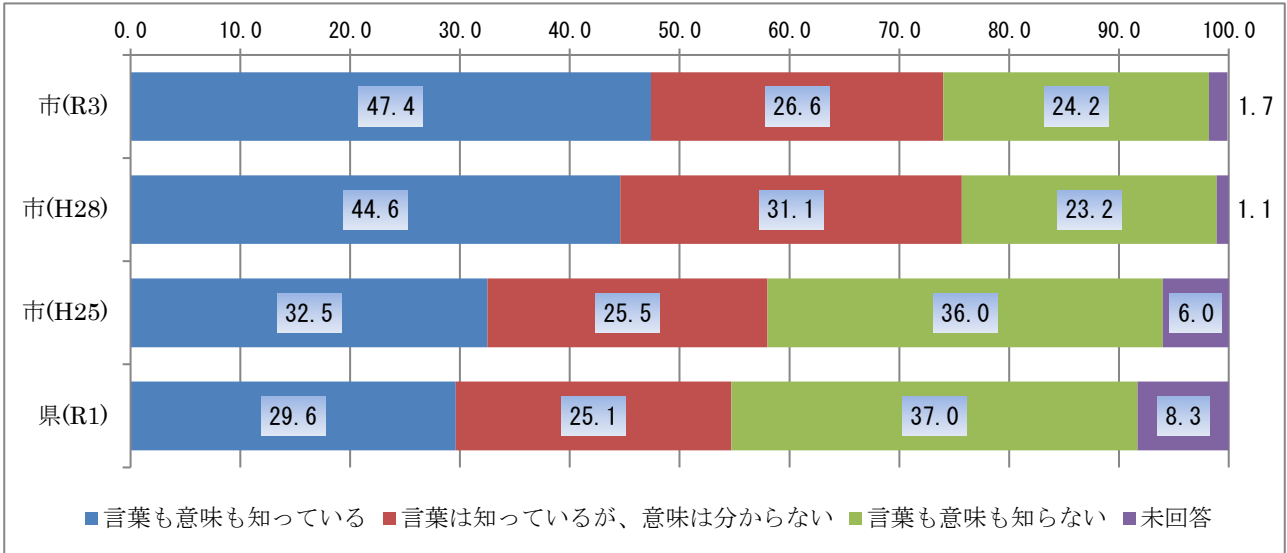
また、「言葉も意味も知っている」は、県調査を19.6ポイント上回っている。

年代別では、10代、20代は「言葉も意味も知っている」が4割を超えているが、他世代は4割を下回っている。



【ワーク・ライフ・バランス】

74%が言葉を知っていると答えており、前回調査から1.7ポイント減少している。
 また、「言葉も意味も知っている」は2.8ポイント上昇し、県を大きく上回っている。
 年代別では、年齢が高くなるにつれて「言葉も意味も知っている」が低くなる傾向となっている。



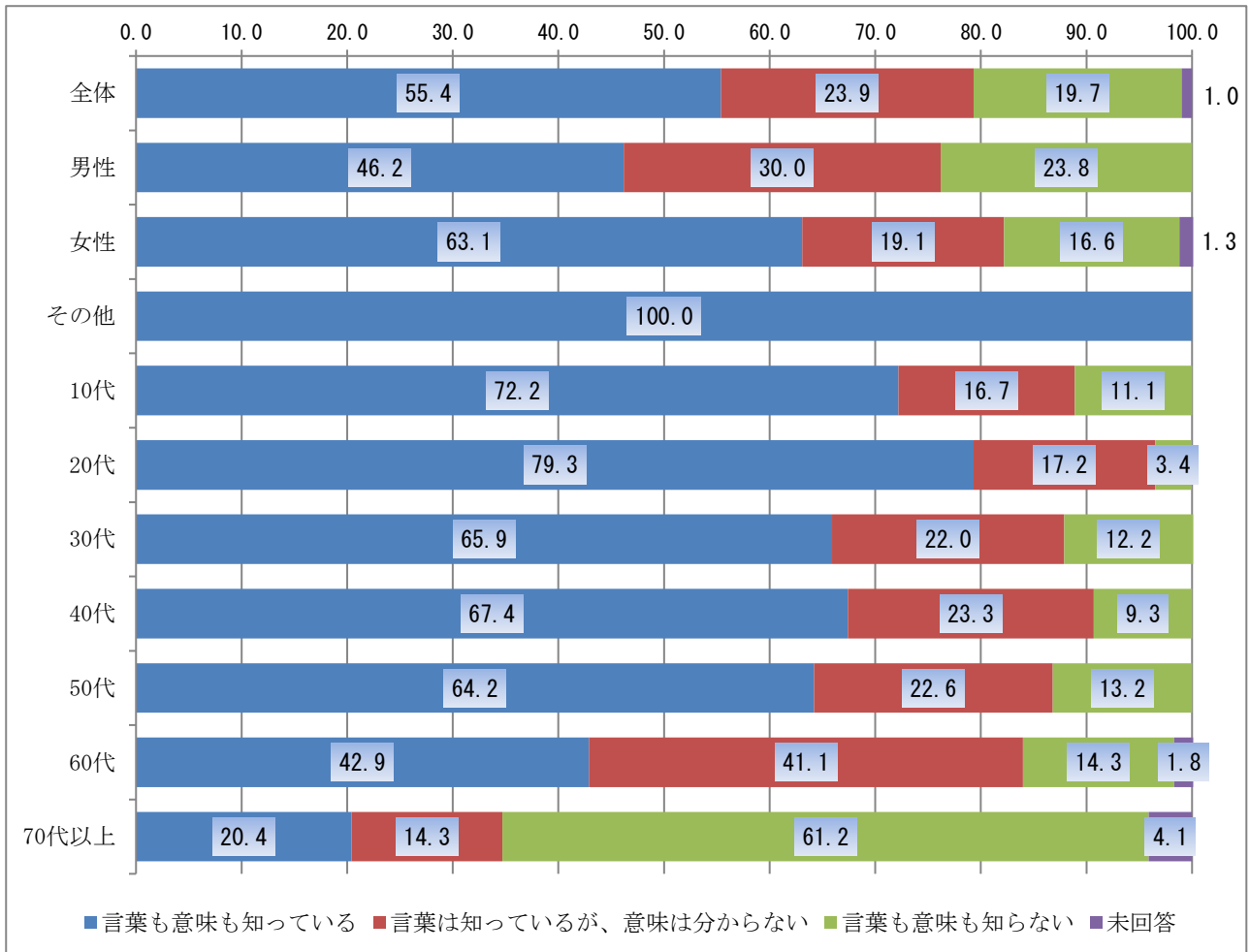
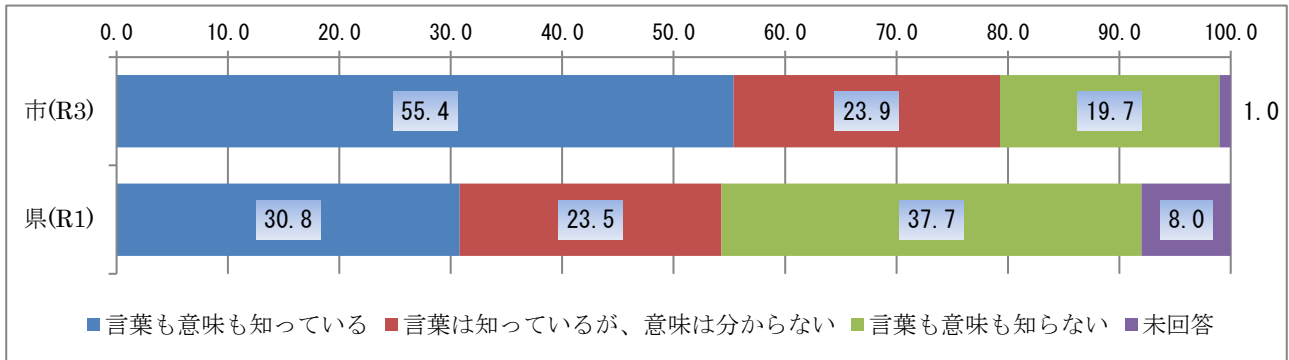
【ジェンダー】

今調査から設けた設問。

79.3%が言葉を知っていると答えており、県調査を25ポイント上回っている。

また、「言葉も意味も知っている」は、県調査を24.6ポイント上回っている。

年代別では、50代以下は「言葉も意味も知っている」が6割を超えているが、60代は4割、70代以上は2割と認知度が低くなっている。



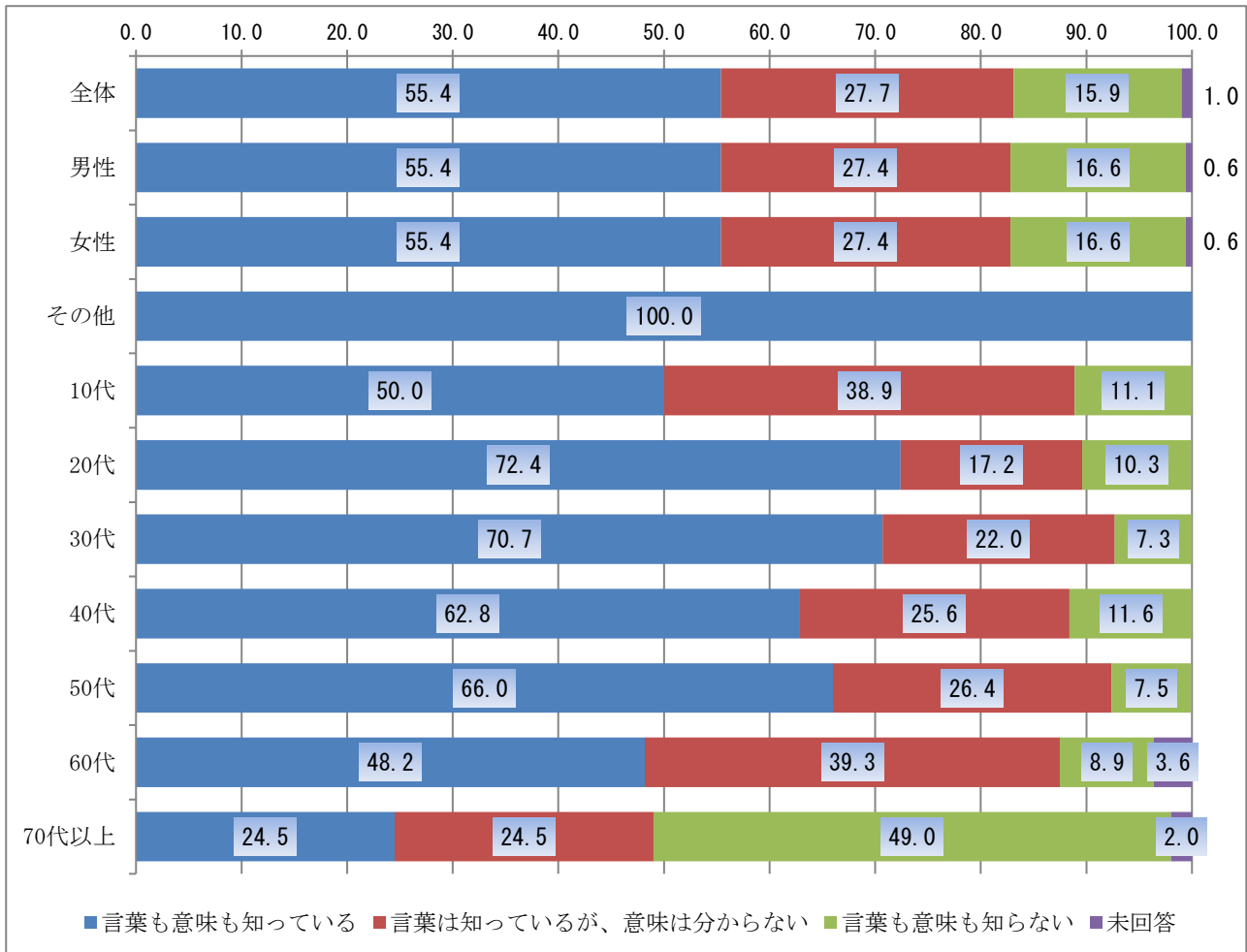
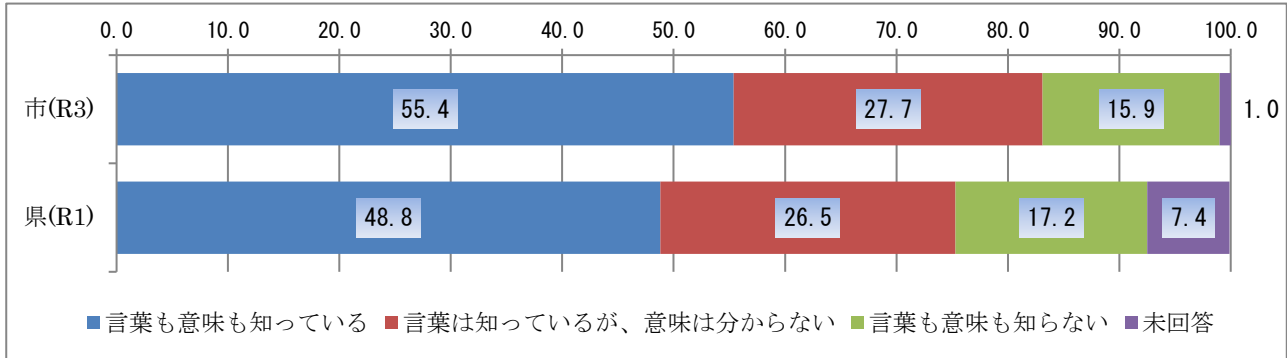
【セクシュアル・マイノリティ】

今調査から設けた設問。

83.1%が言葉を知っていると答えており、県調査を7.8ポイント上回っている。

また、「言葉も意味も知っている」は、県調査を6.6ポイント上回っている。

年代別では、20代から50代までは「言葉も意味も知っている」が6割を超えているが、10代及び60代は5割、70代以上は2.5割と認知度が低くなっている。

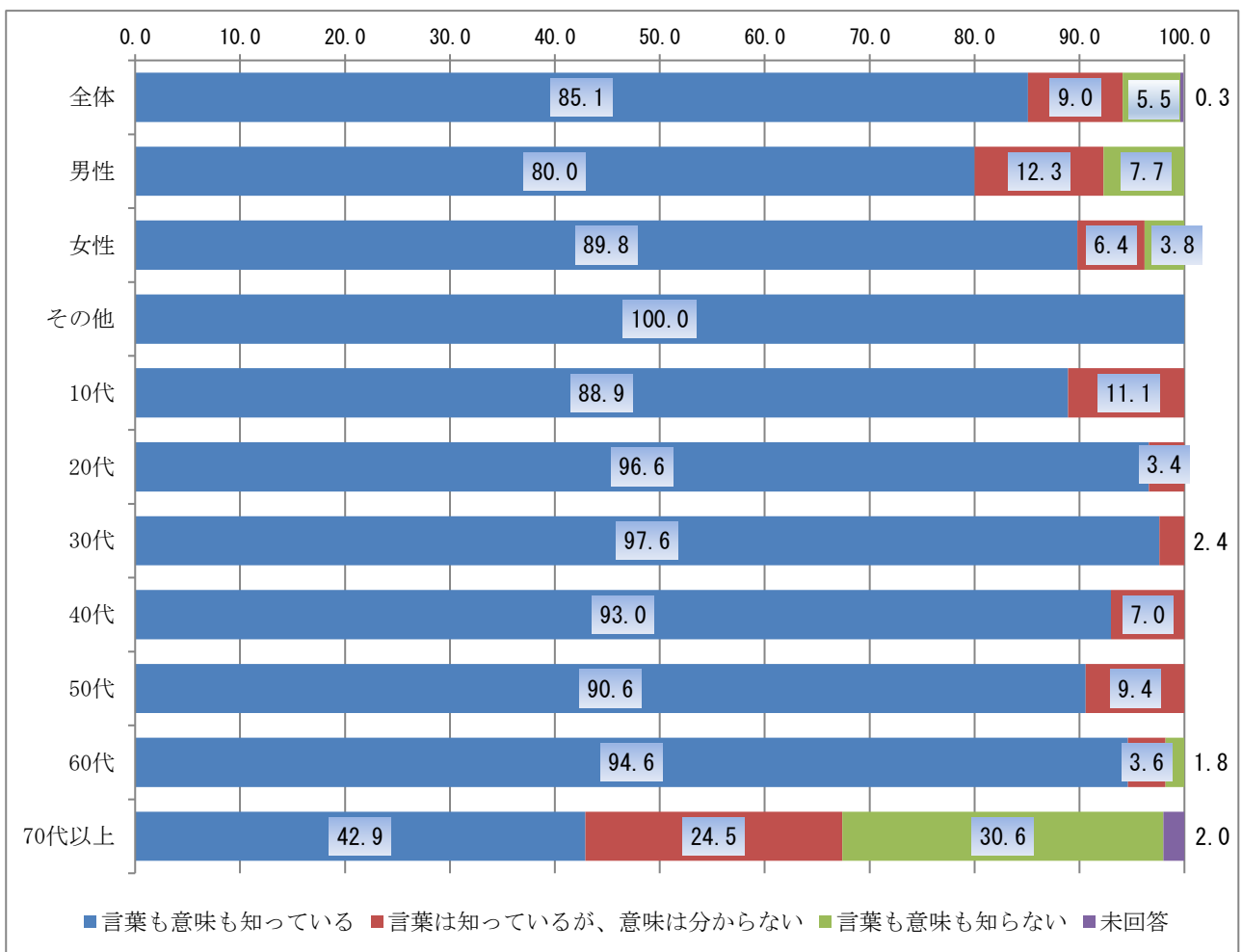
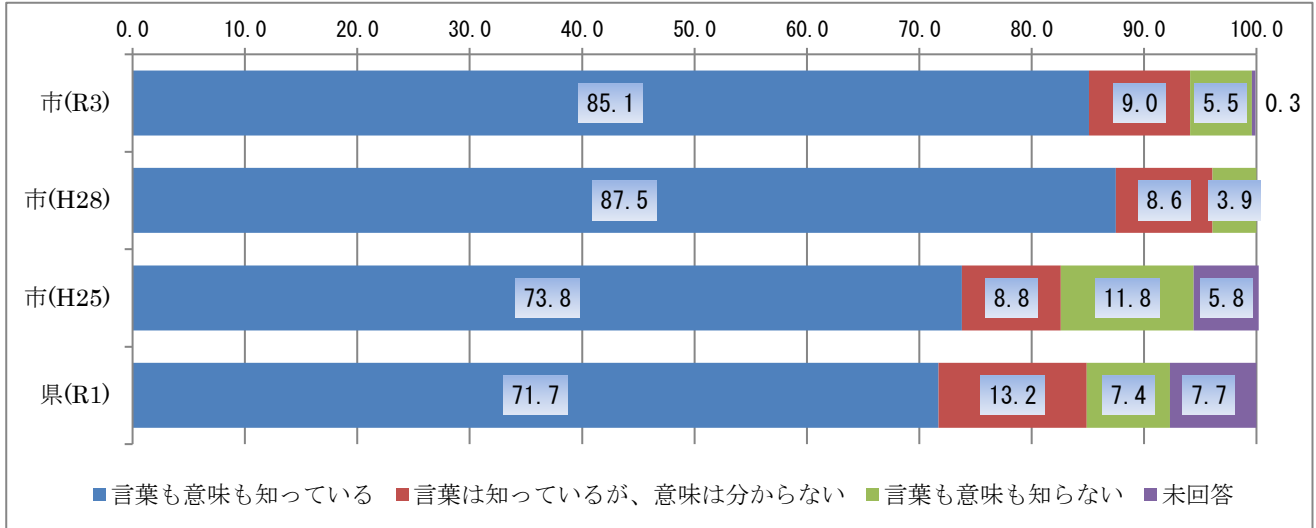


【DV】

94.1%が言葉を知っていると答えており、前回調査から2ポイント減少している。

また、「言葉も意味も知っている」は2.4ポイント減少しているが、県調査と比べ13.4ポイント上回っている。

年代別では、70代以上を除く全ての世代で「言葉も意味も知っている」は8割を上回るなど前回の調査に引き続き最も認知度・理解度の高い用語となっている。



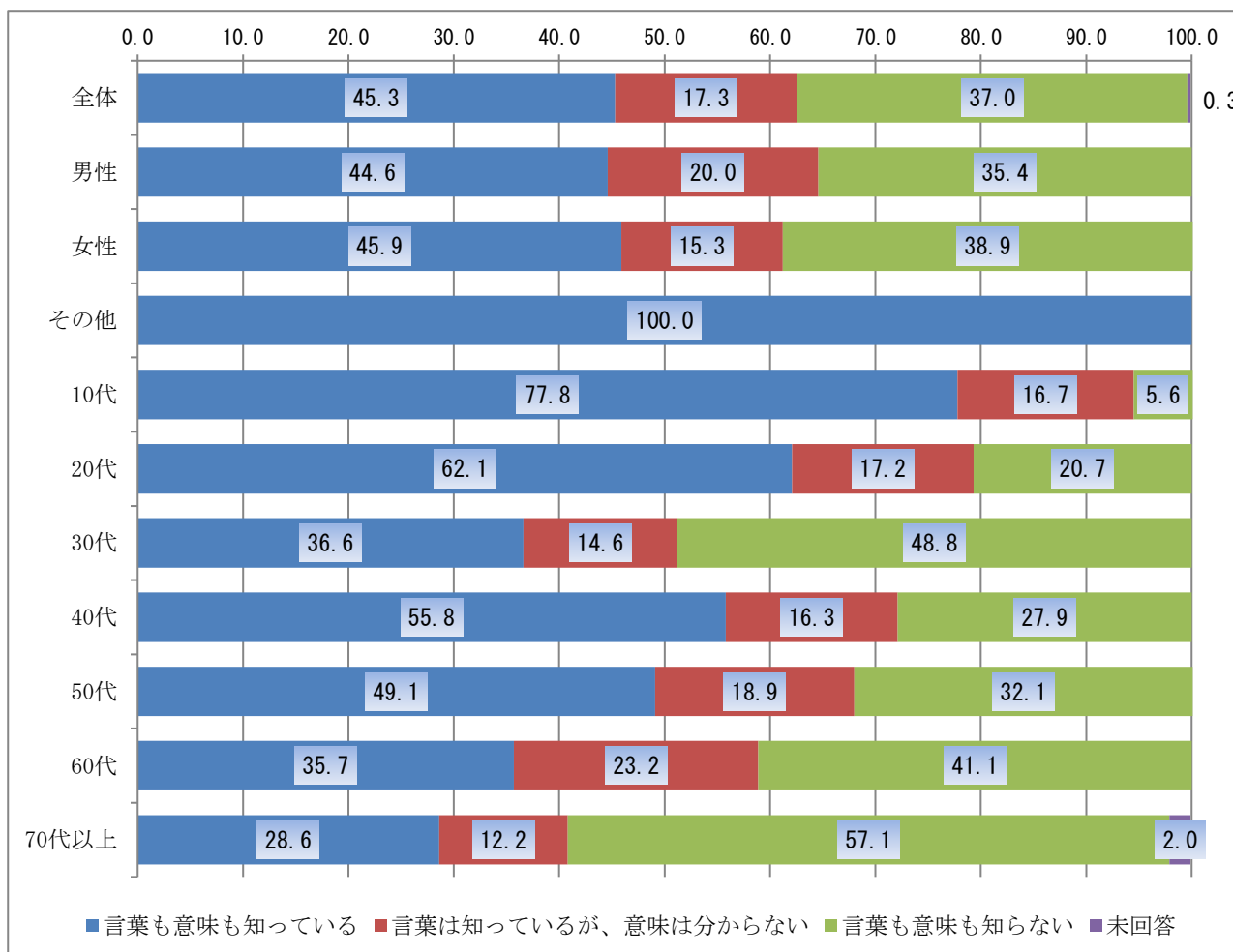
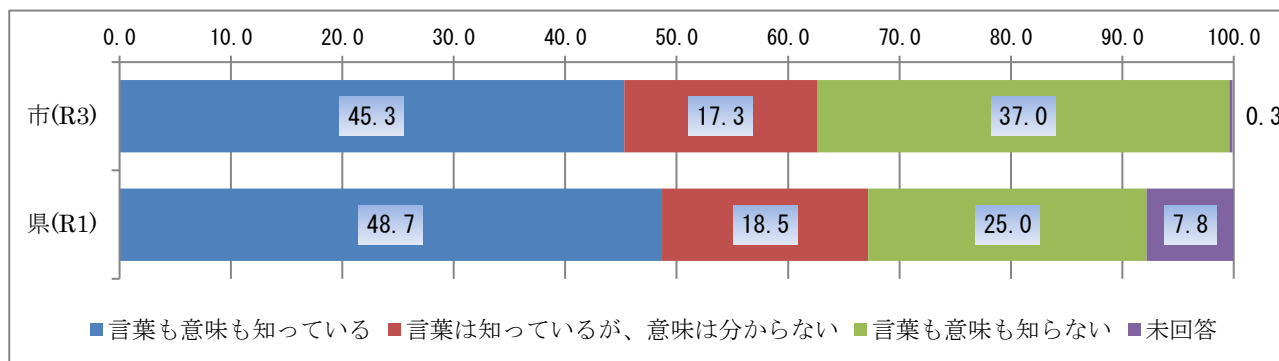
【デートDV】

今調査から設けた設問。

62.6%が言葉を知っていると答えており、県調査を4.6ポイント下回っている。

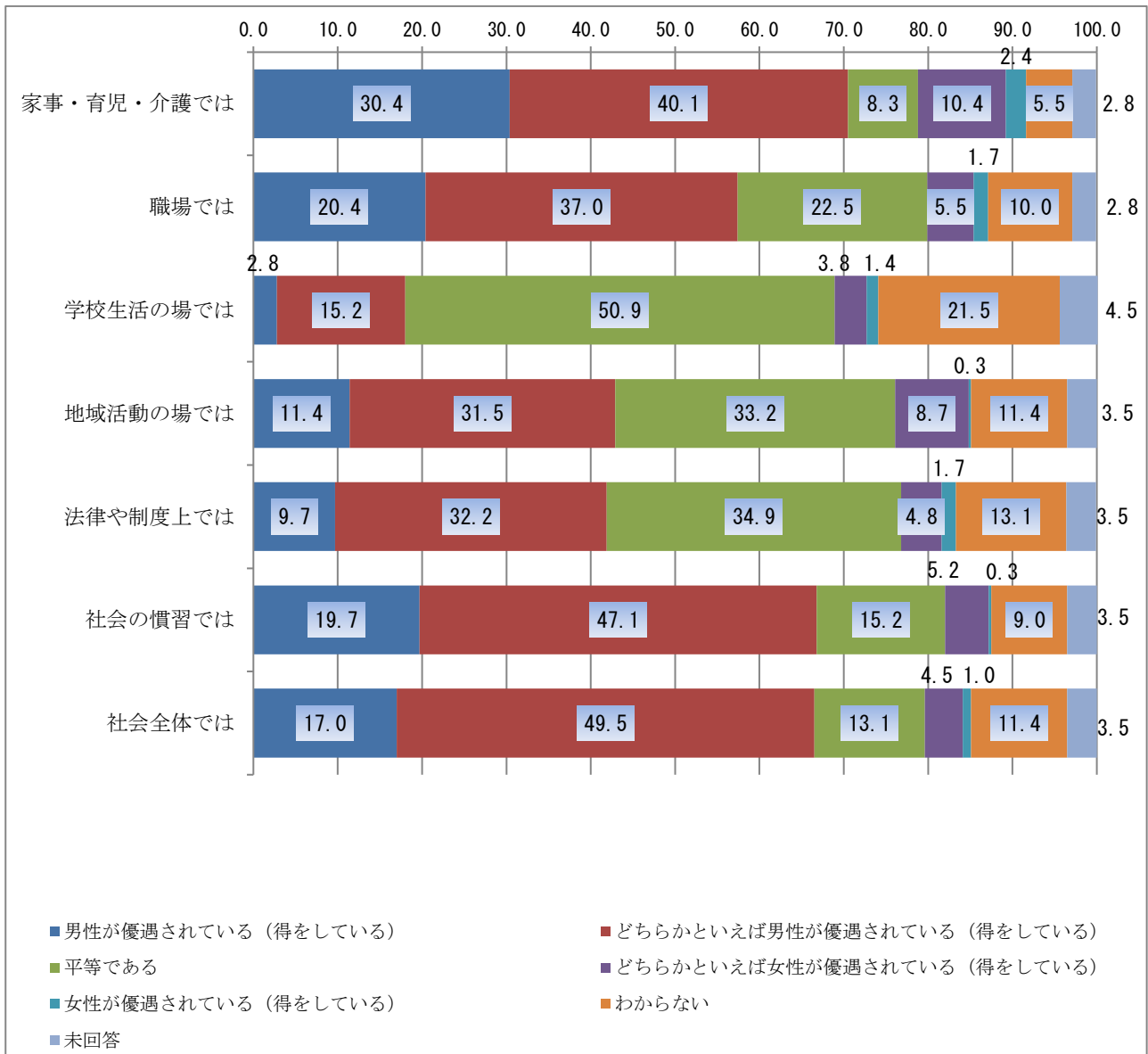
また、「言葉も意味も知っている」も、県調査を3.4ポイント下回っている。

年代別では、10代は「言葉も意味も知っている」が約8割となり、年齢が高くなるにつれ認知度が低くなる傾向となっている。



(2) 家庭生活や職場などでの男女の立場について

問2. あなたは次にあげる分野で、男女の立場は平等になっていると思いますか。



◎ 前回調査と比べて、「学校生活の場」、「法律や制度上」について「平等である」は大きく減少しているが、「学校生活の場」は前回調査同様に最も割合が高くなっている。

「家事・育児・介護」「職場」「社会の慣習」「社会全体」について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた割合が約6割から約7割と高く、「平等である」は、「学校生活の場」が最も割合が高くなっており、前回調査結果と同様の傾向となった。

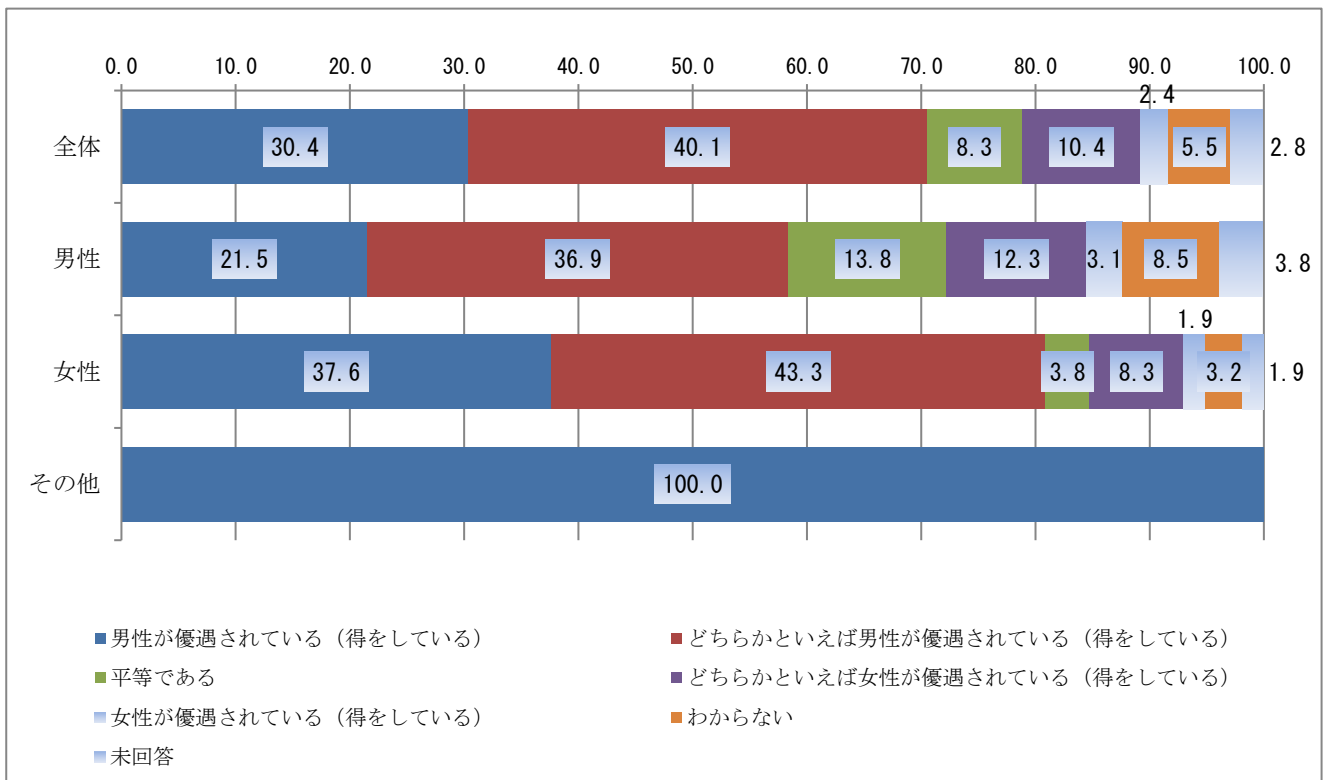
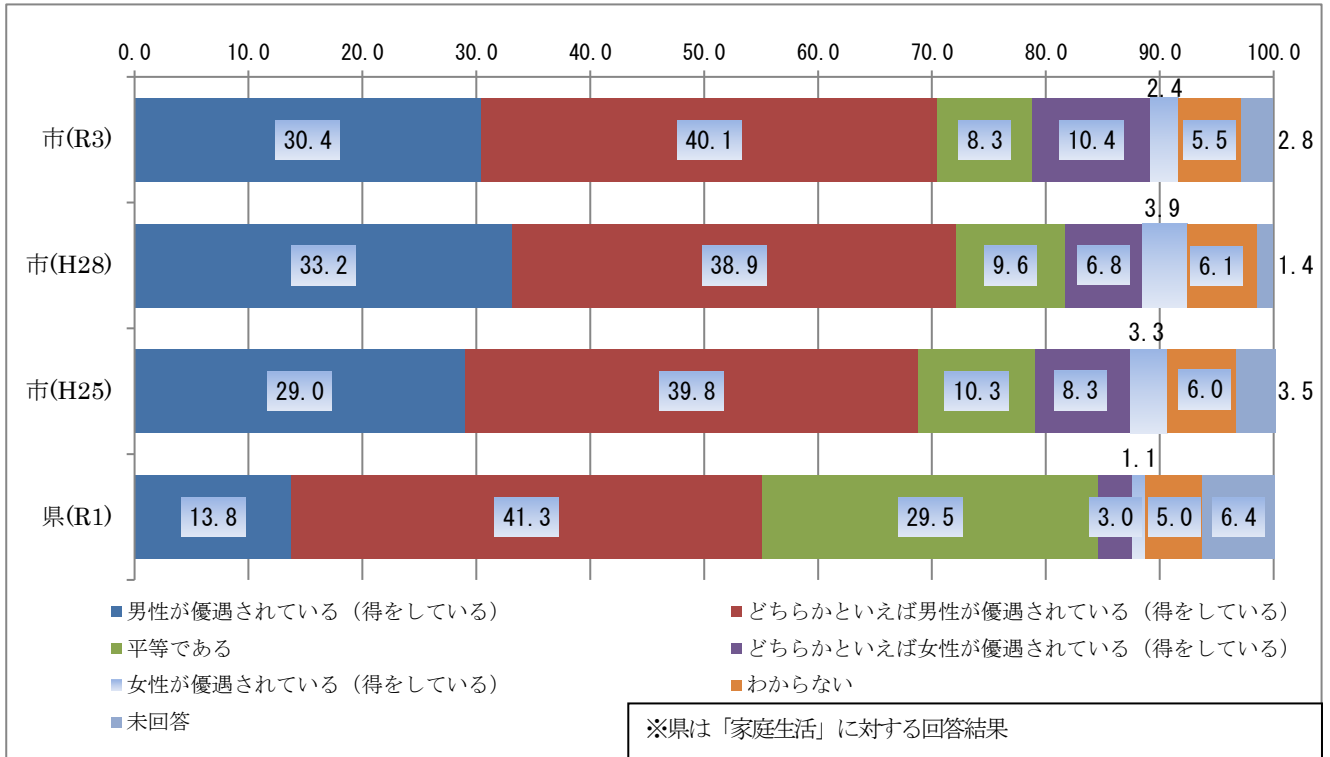
すべての項目について「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた割合が、男性より女性の方が高くなっている。特に「家事・育児・介護」「法律や制度上」について約2割高くなっている。

【家事・育児・介護の場では】

前回調査と比べて「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は若干減少しているものの、「平等である」も若干減少し、「どちらかといえば女性が優遇されている」が増加した。

県調査と比べて「平等である」は大きく下回っている。

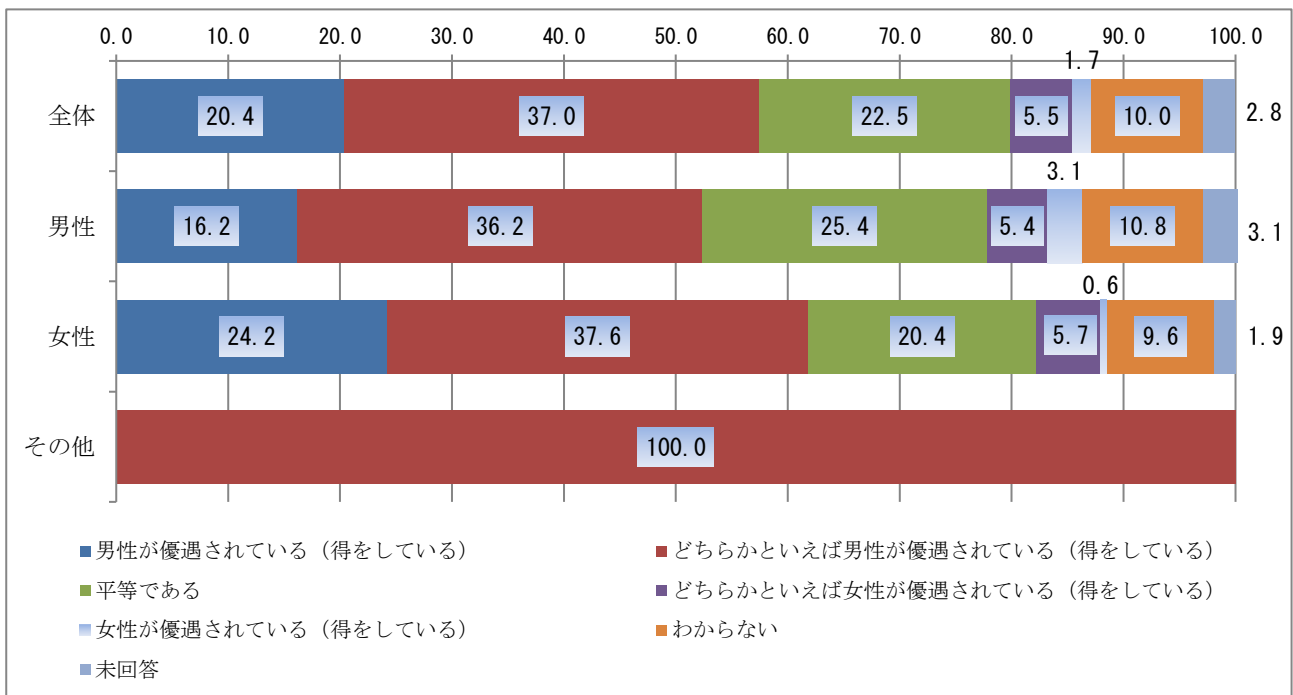
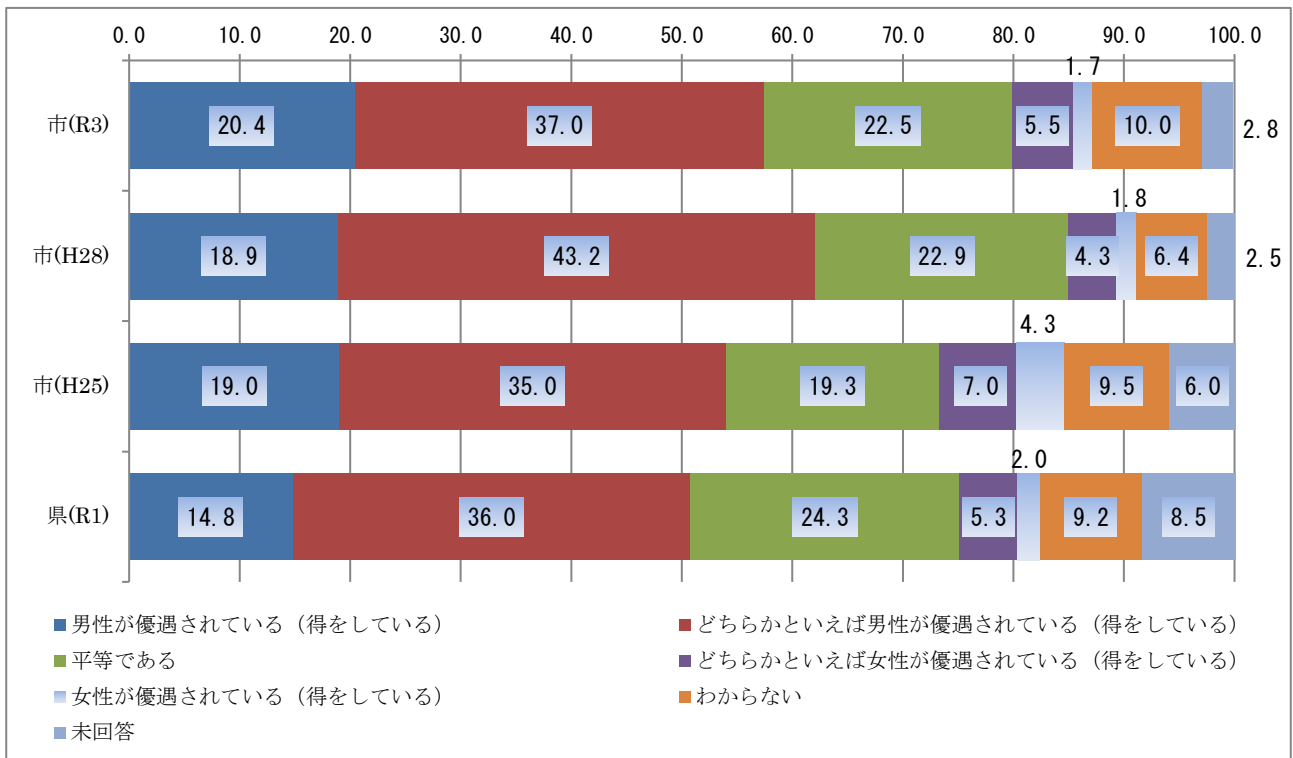
なお、「平等である」は、男性が13.8%であるのに対し、女性は3.8%と低くなっている。



【職場では】

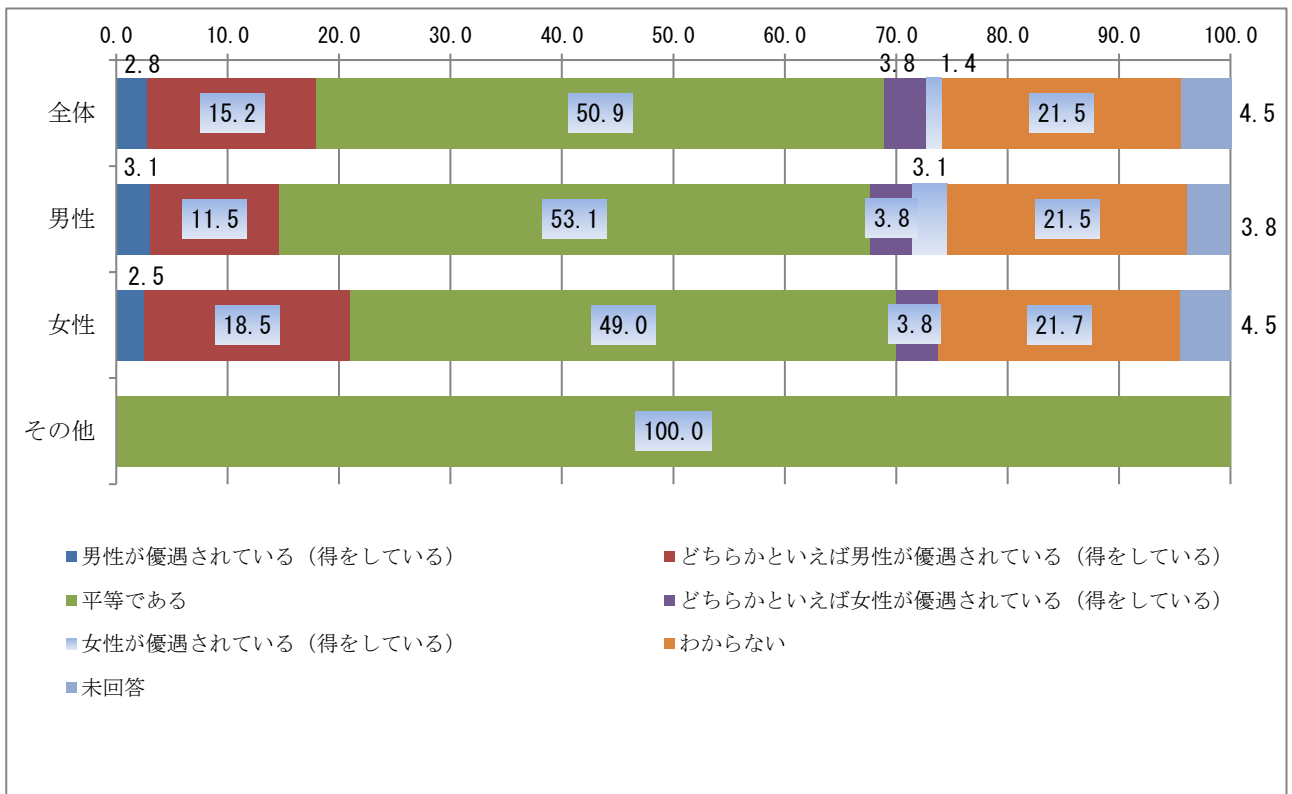
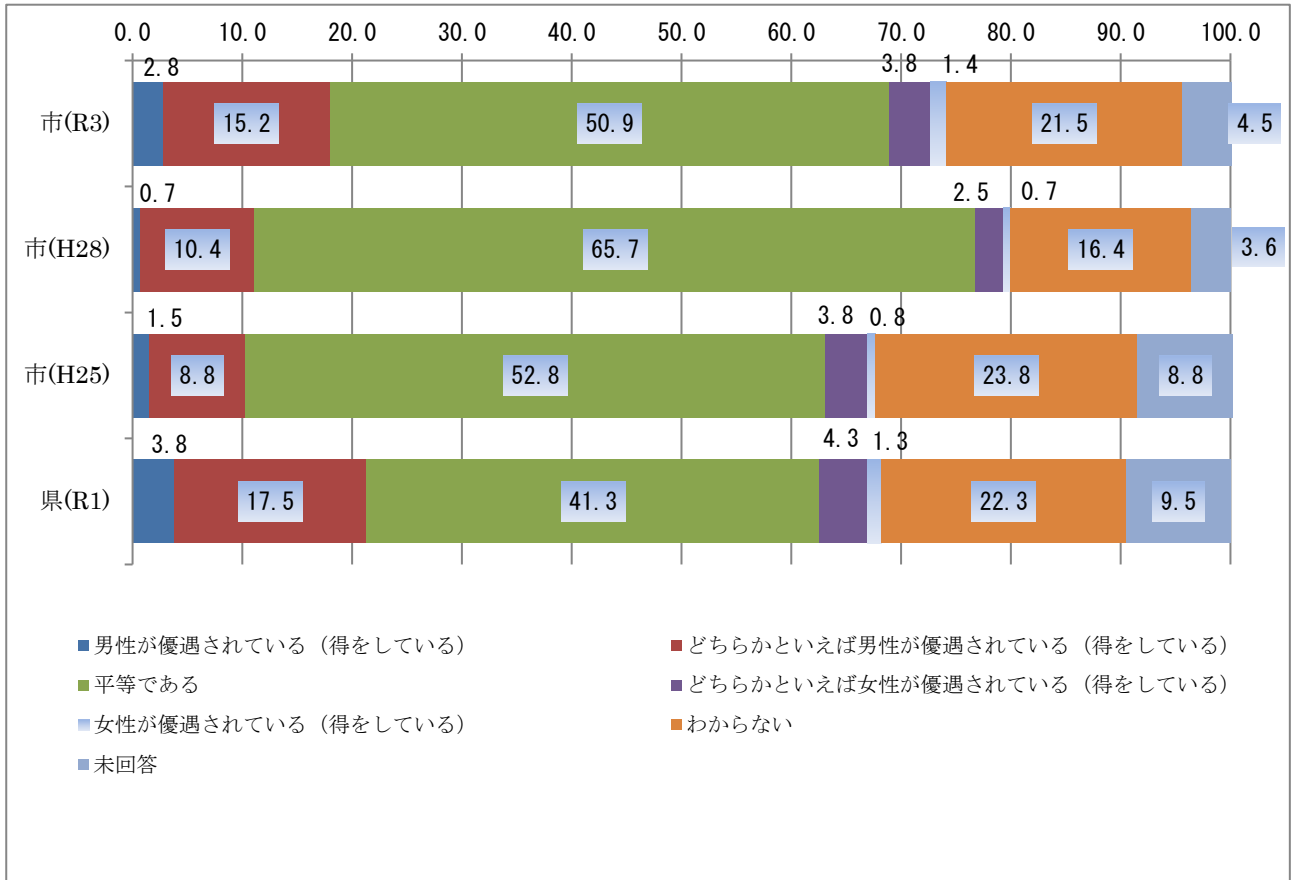
前回調査と比べて、「どちらかといえば男性が優遇されている」は減少したが、「平等である」に大きな変化はない。

県調査と比べて「男性が優遇されている」は高くなっている。



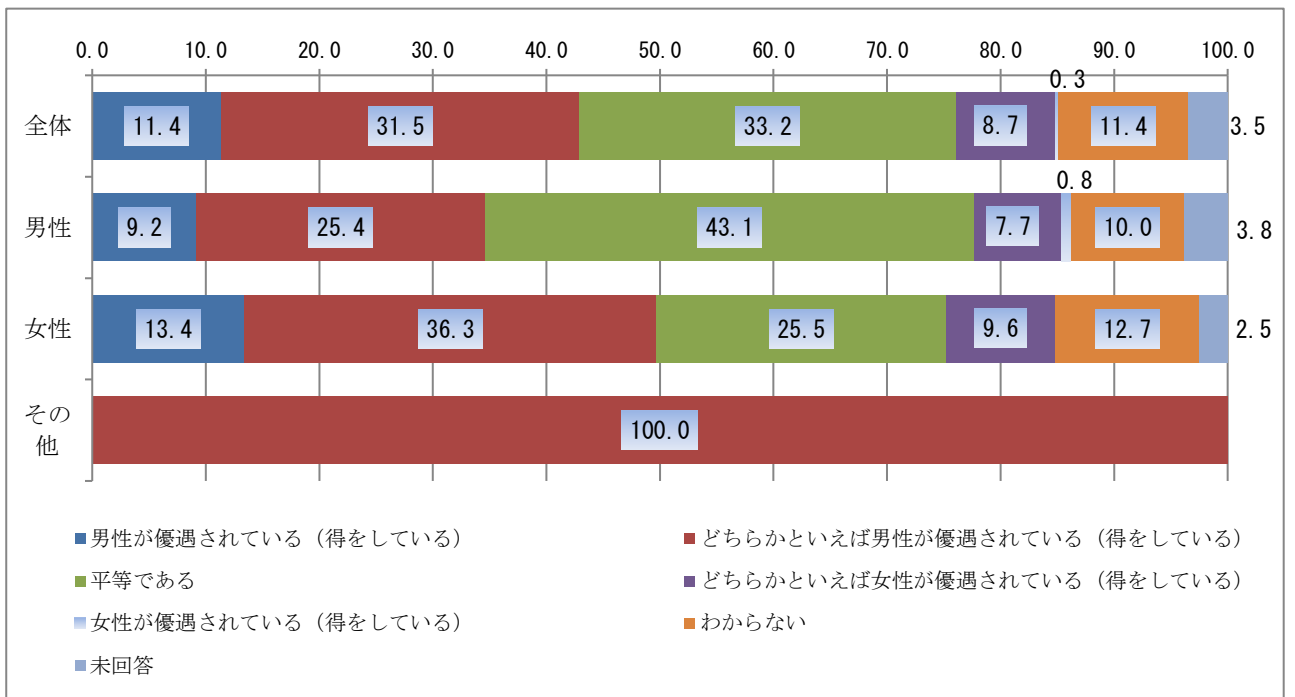
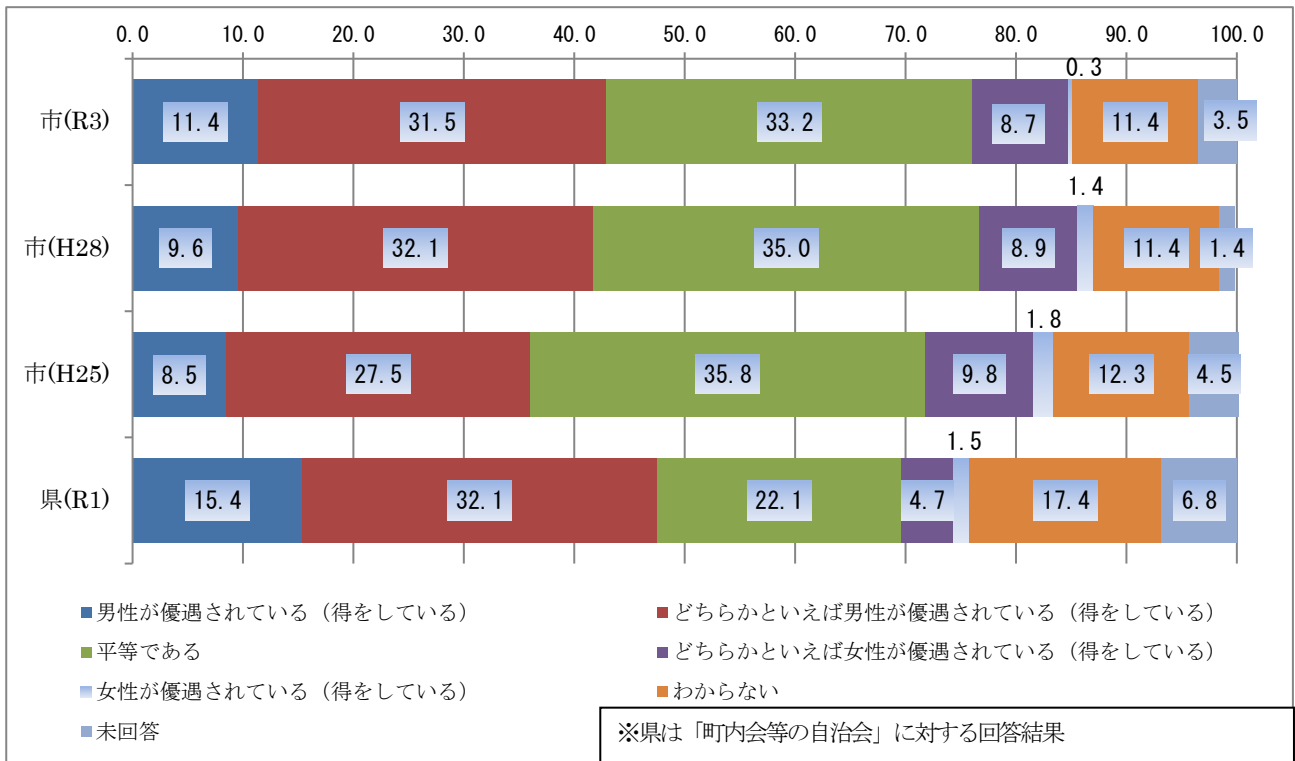
【学校生活の場では】

前回調査と比べて「平等である」は14.8ポイント減少したが、県調査と比べると9.6ポイント上回っている。



【地域活動の場では】

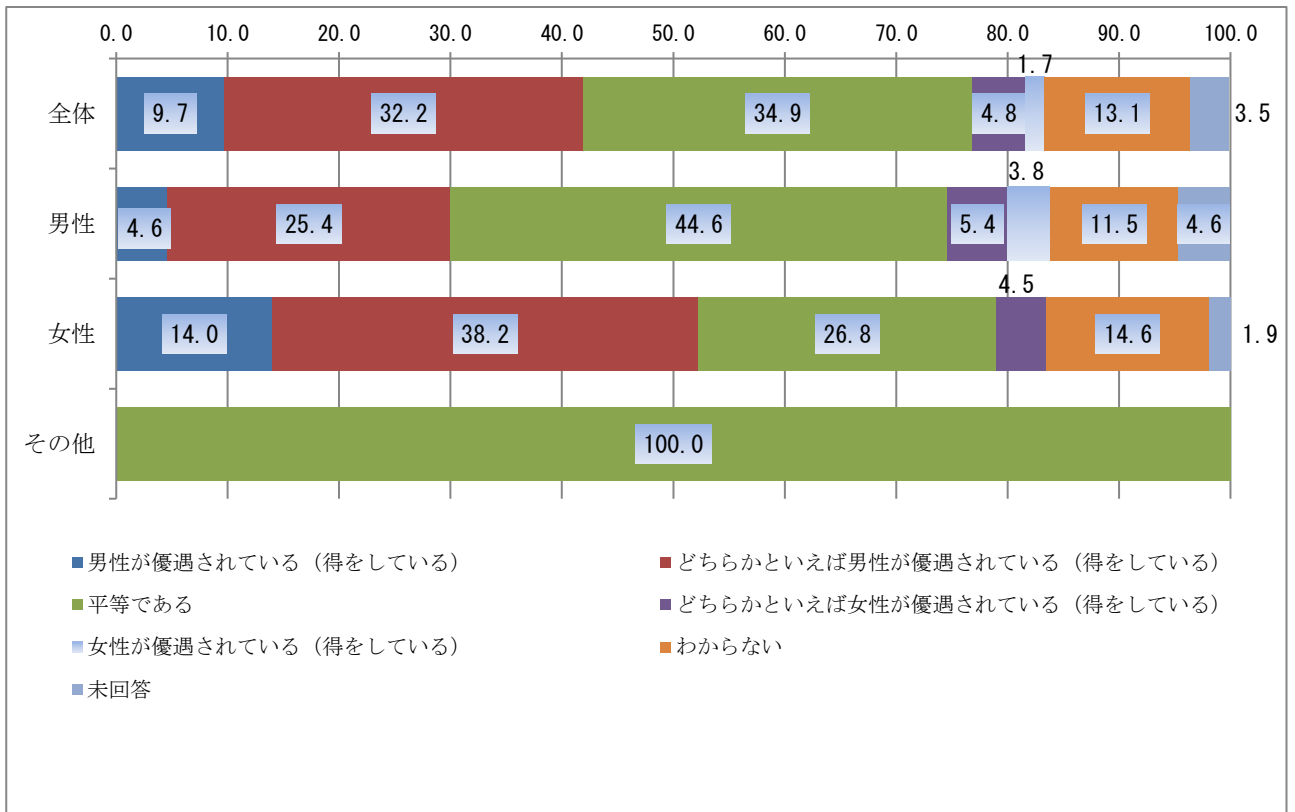
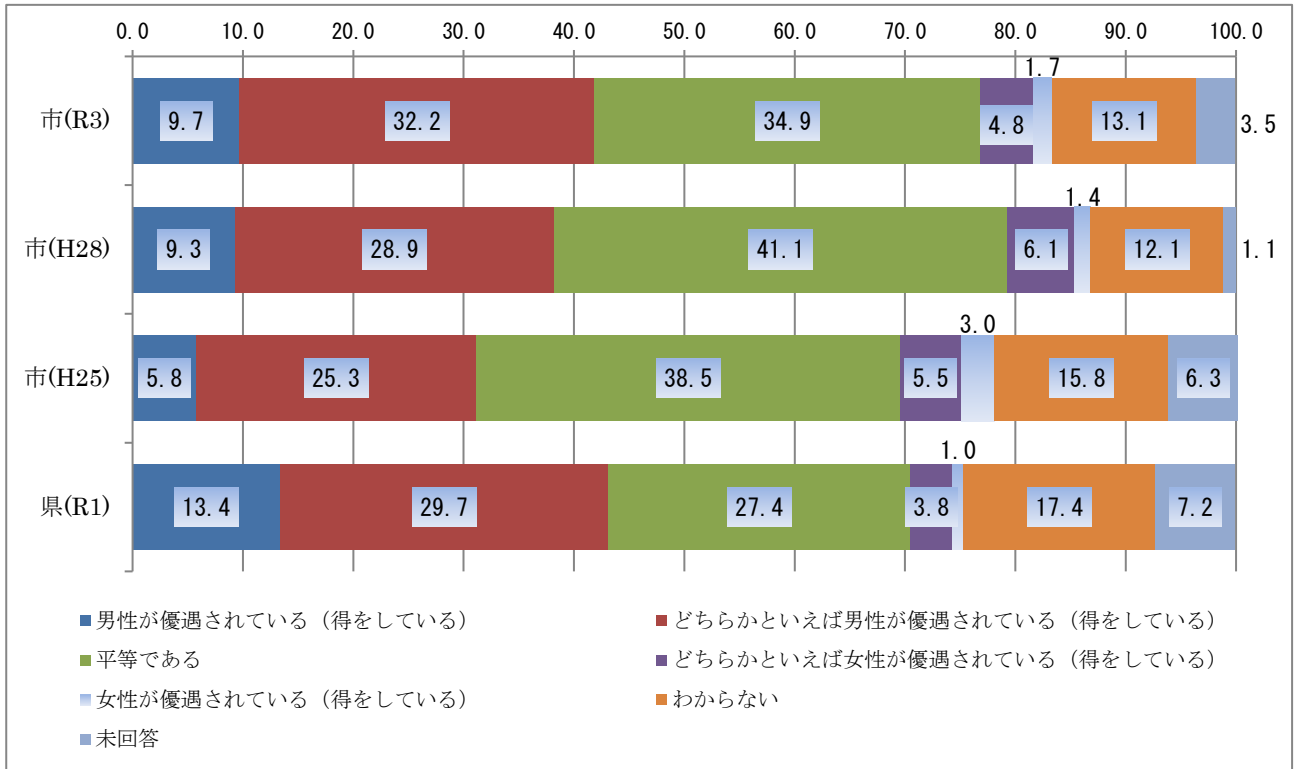
前回調査と比べて大きな変化はないが、県調査と比べて「平等である」は高くなっている。
 なお、「平等である」は、男性が43.1%であるのに対し、女性は25.5%と低くなっている。



【法律や制度上では】

前回調査と比べて「平等である」は6.2ポイント減少したが、県調査と比べて「平等である」は高くなっている。

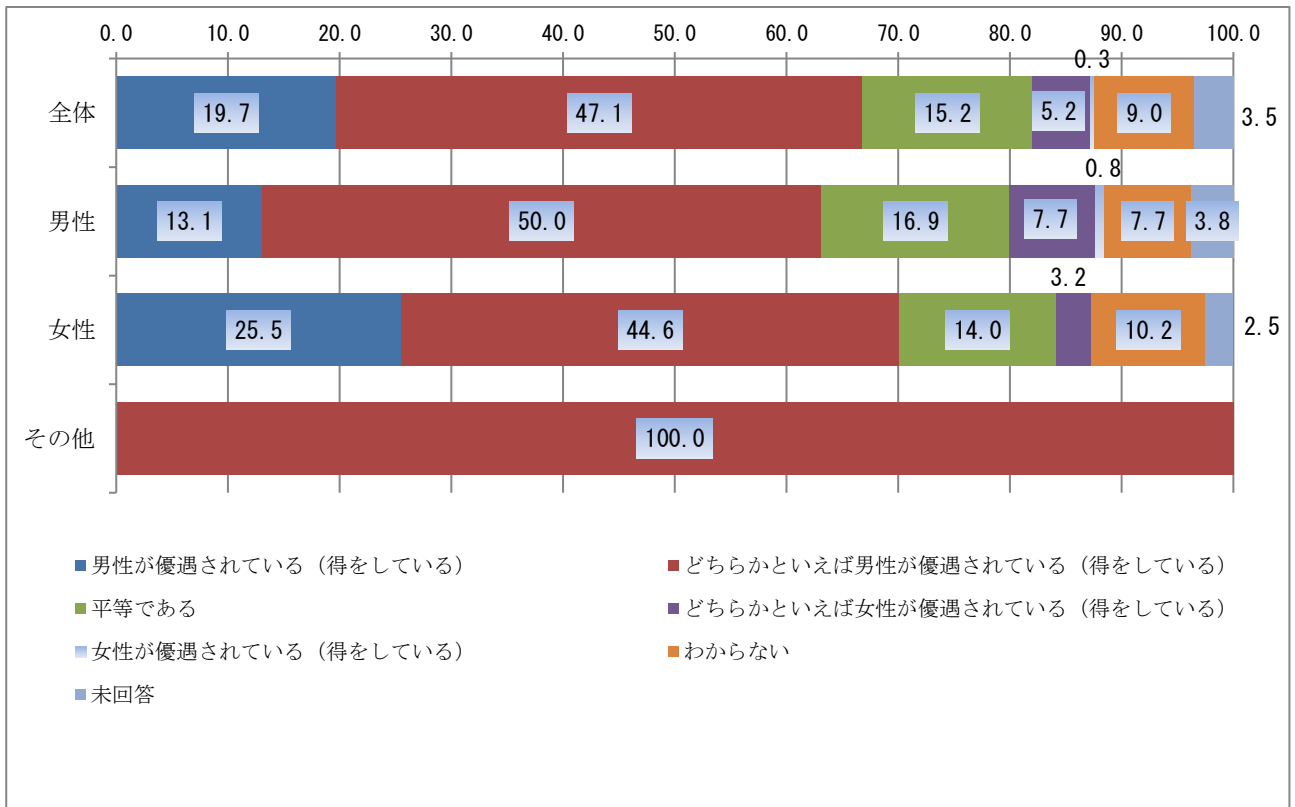
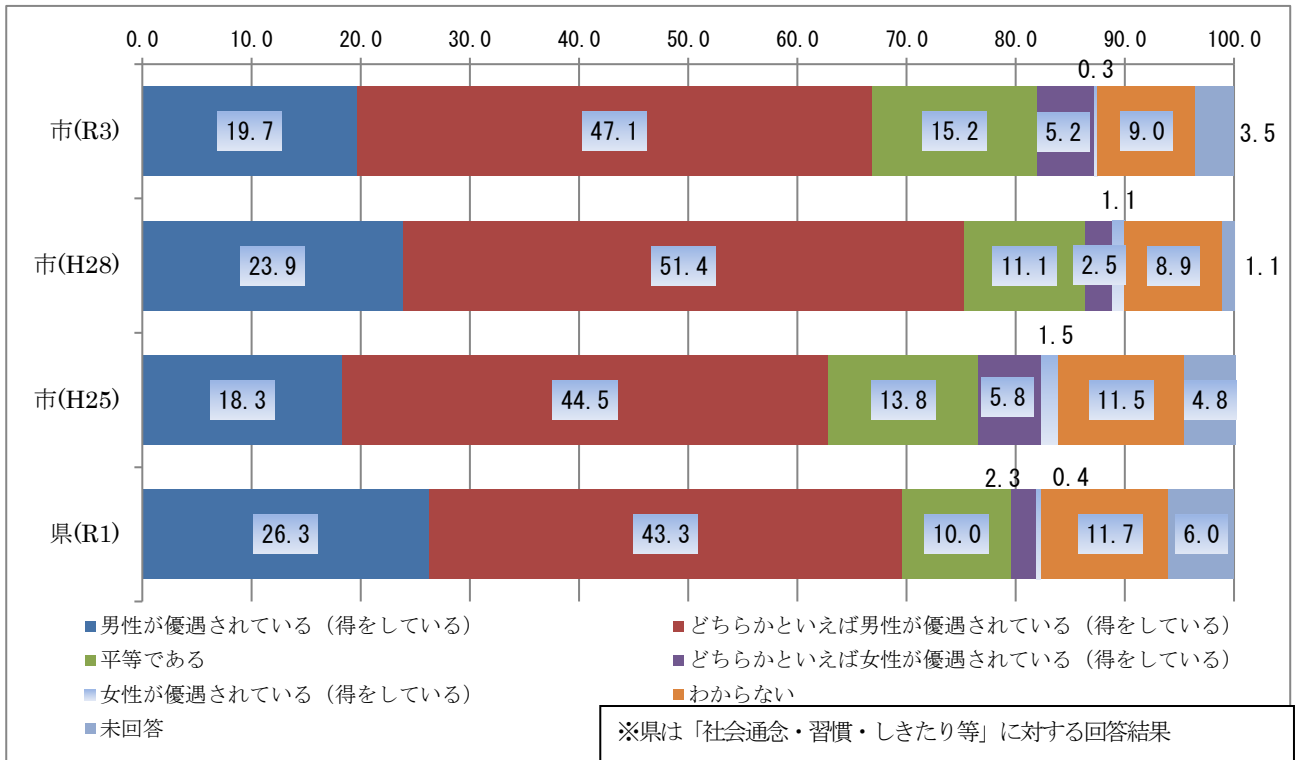
なお、「平等である」は、男性が44.6%であるのに対し、女性は26.8%と低くなっている。



【社会の慣習では】

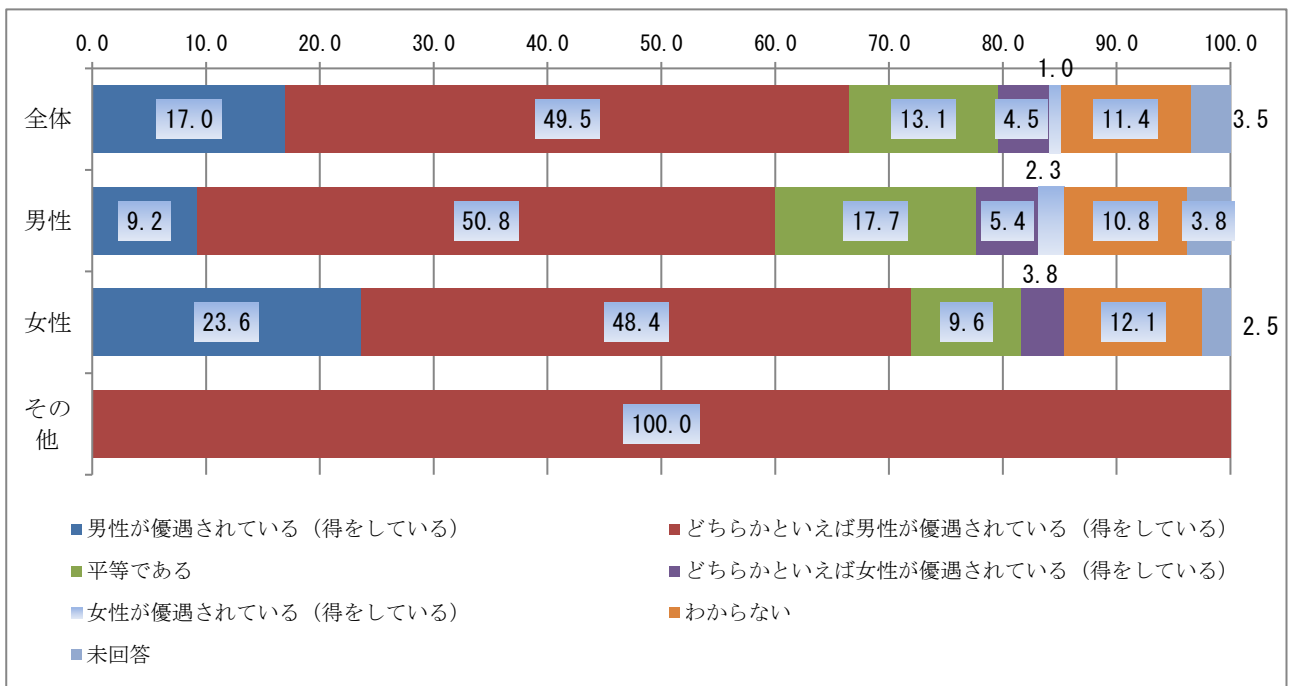
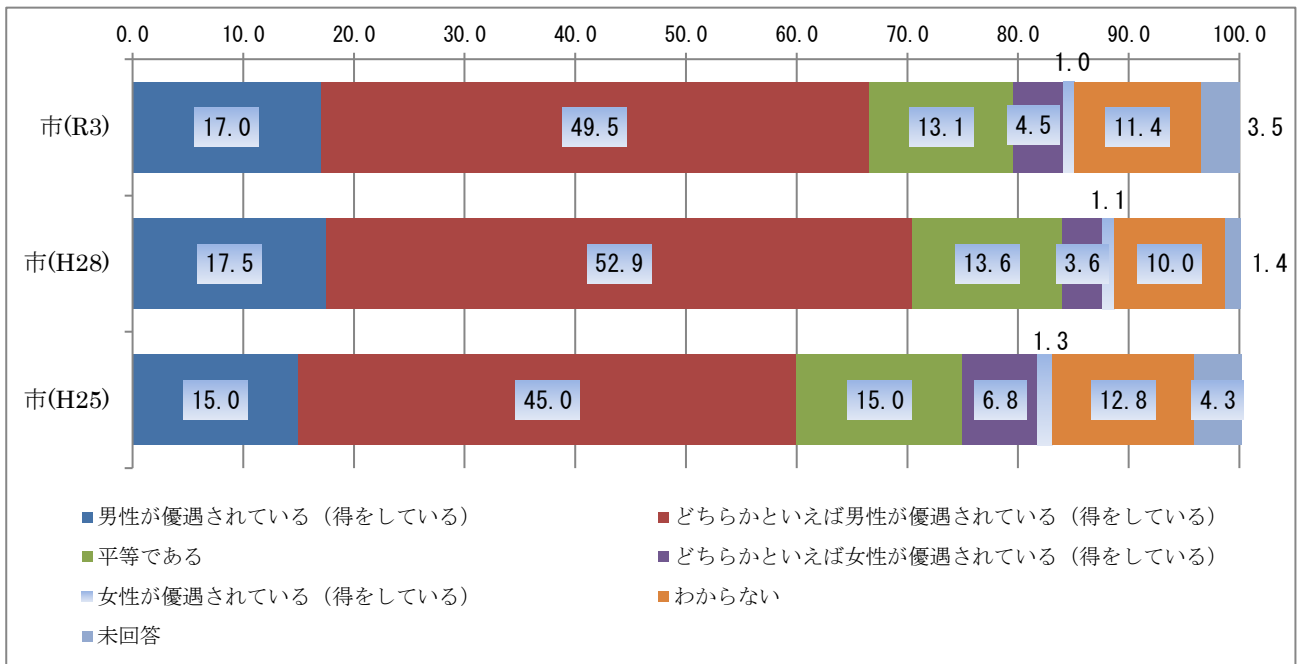
前回調査と比べて「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた割合は8.5ポイント減少し、「平等である」は4.1ポイント上昇している。

県調査と比べて「平等である」は高くなっている。



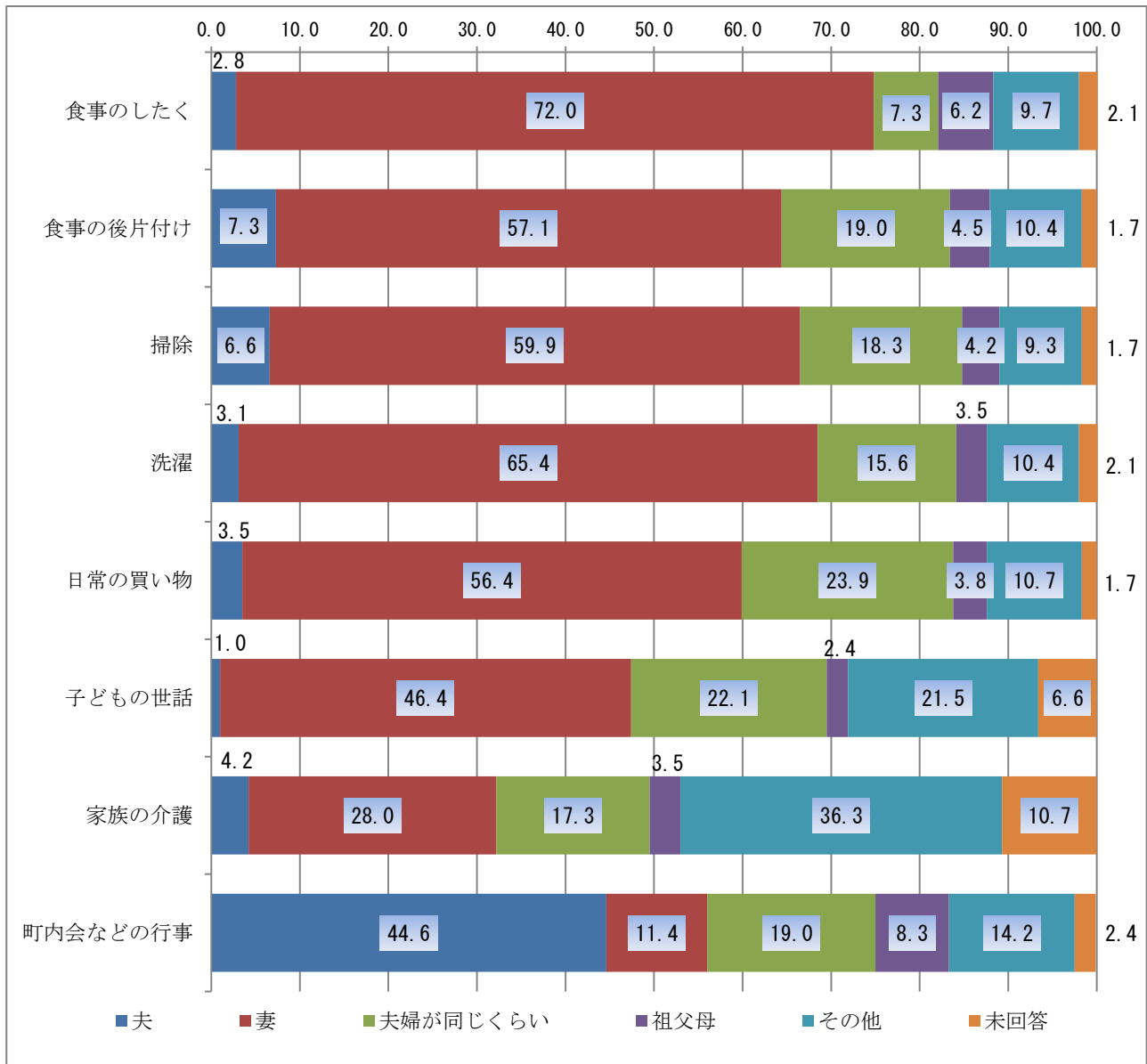
【社会全体では】

前回調査と比べて「どちらかといえば男性が優遇されている」は3.4ポイント減少している。
 なお、「平等である」は、男性が17.7%であるのに対し、女性は9.6%と低くなっている。



(3) 家庭生活の状況について

問3. あなたの家庭では、次にあげることはどなたが主にしていますか。



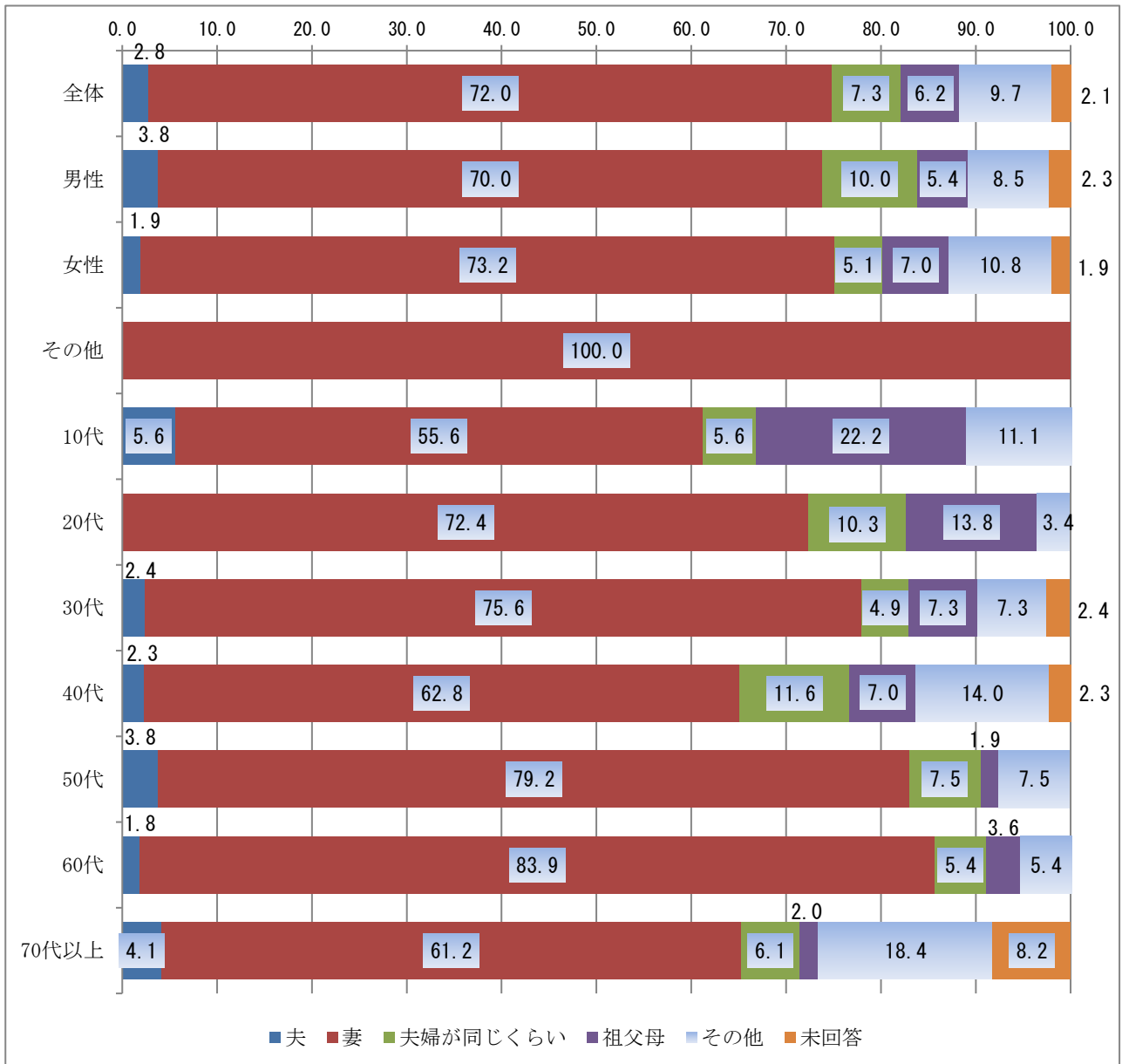
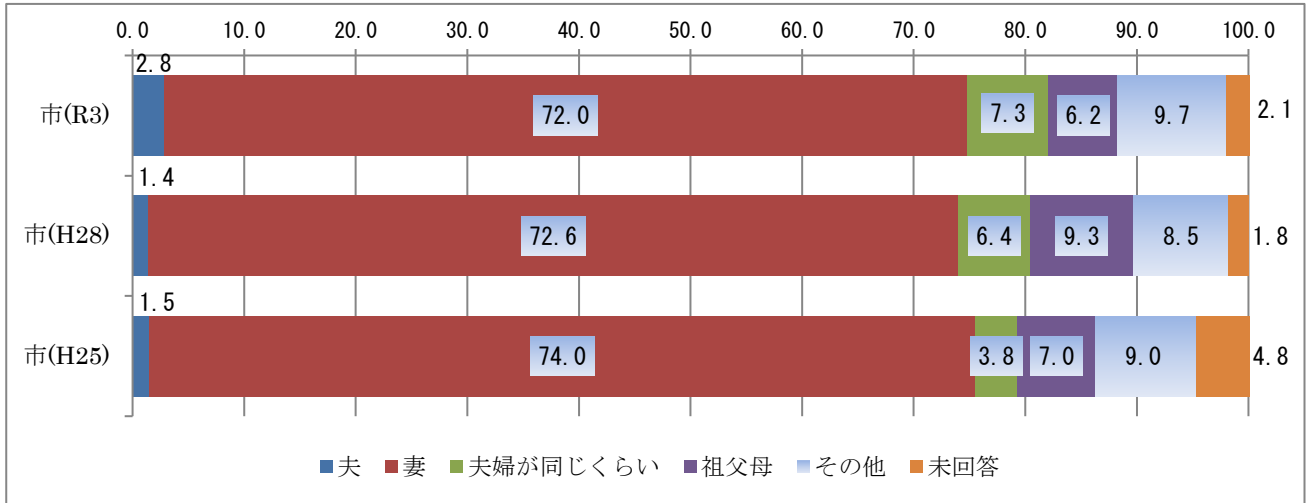
◎ 前回調査と同様、ほとんどの項目で「妻」が主にしていると回答しており、町内会などの行事については「夫」という結果となっている。

「町内会などの行事」を除いた項目について「夫婦が同じくらい」の割合が上昇している。

「家族の介護」「町内会の行事」を除いた項目について、女性よりも男性の方が「夫婦が同じくらい」が多くなっている。

【食事のしたく】

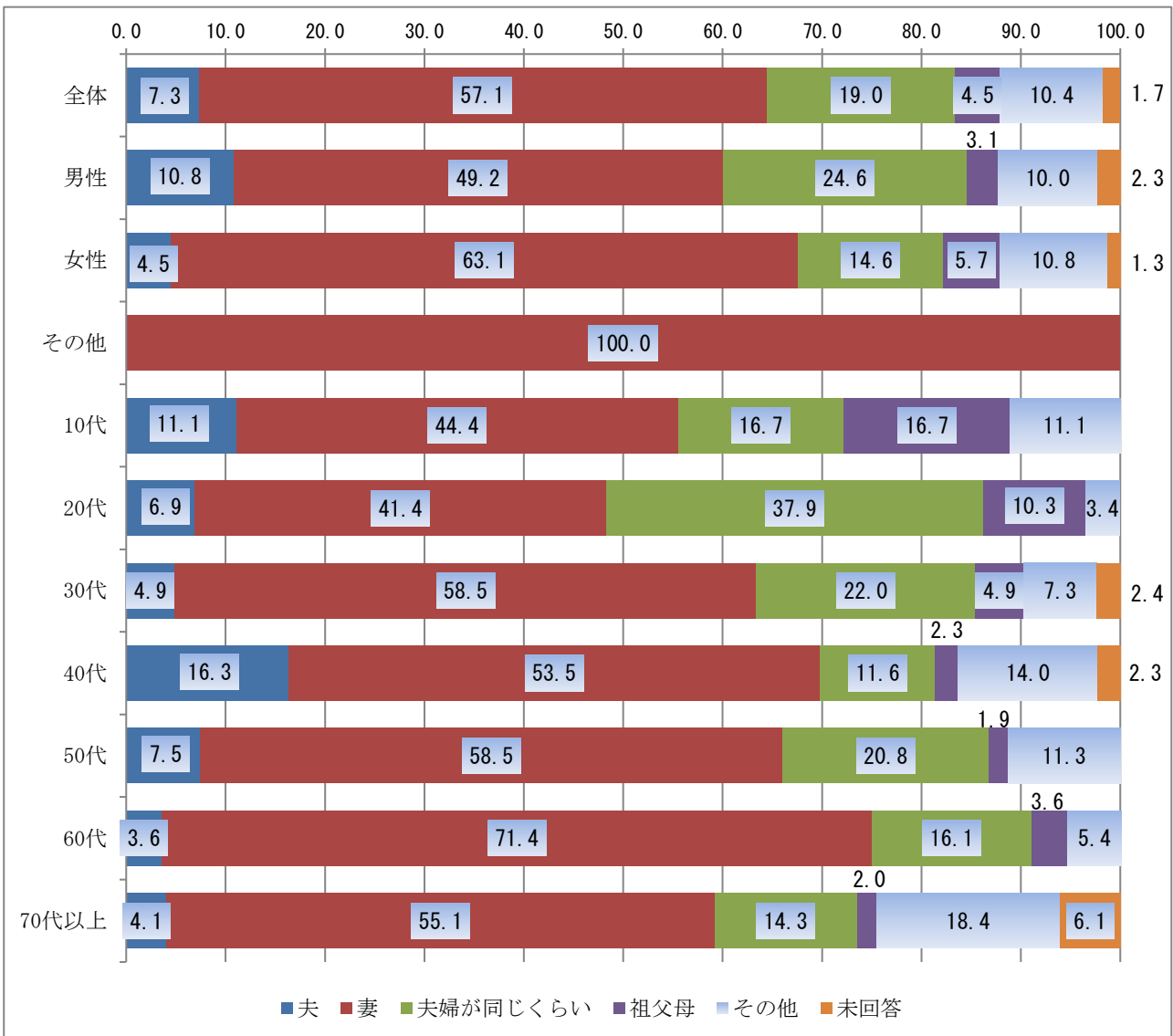
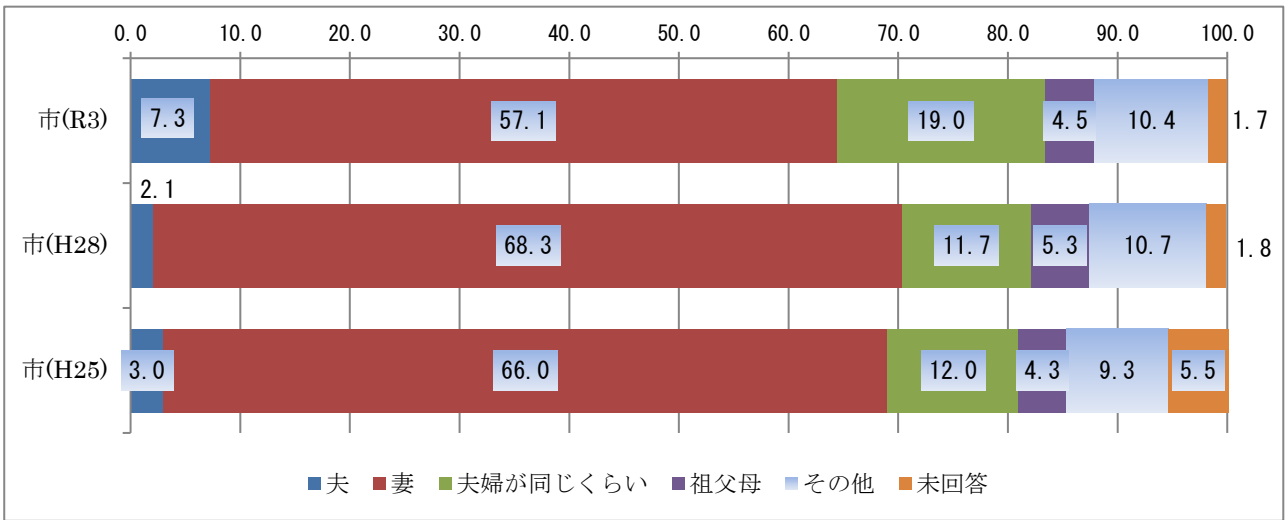
前回調査に続き「妻」が高くなっている。また、年齢が進むにつれて「妻」が高くなる傾向にある。



【食事の後片付け】

前回調査に続き「妻」が高いものの、前回調査と比べて11.2ポイント減少している。

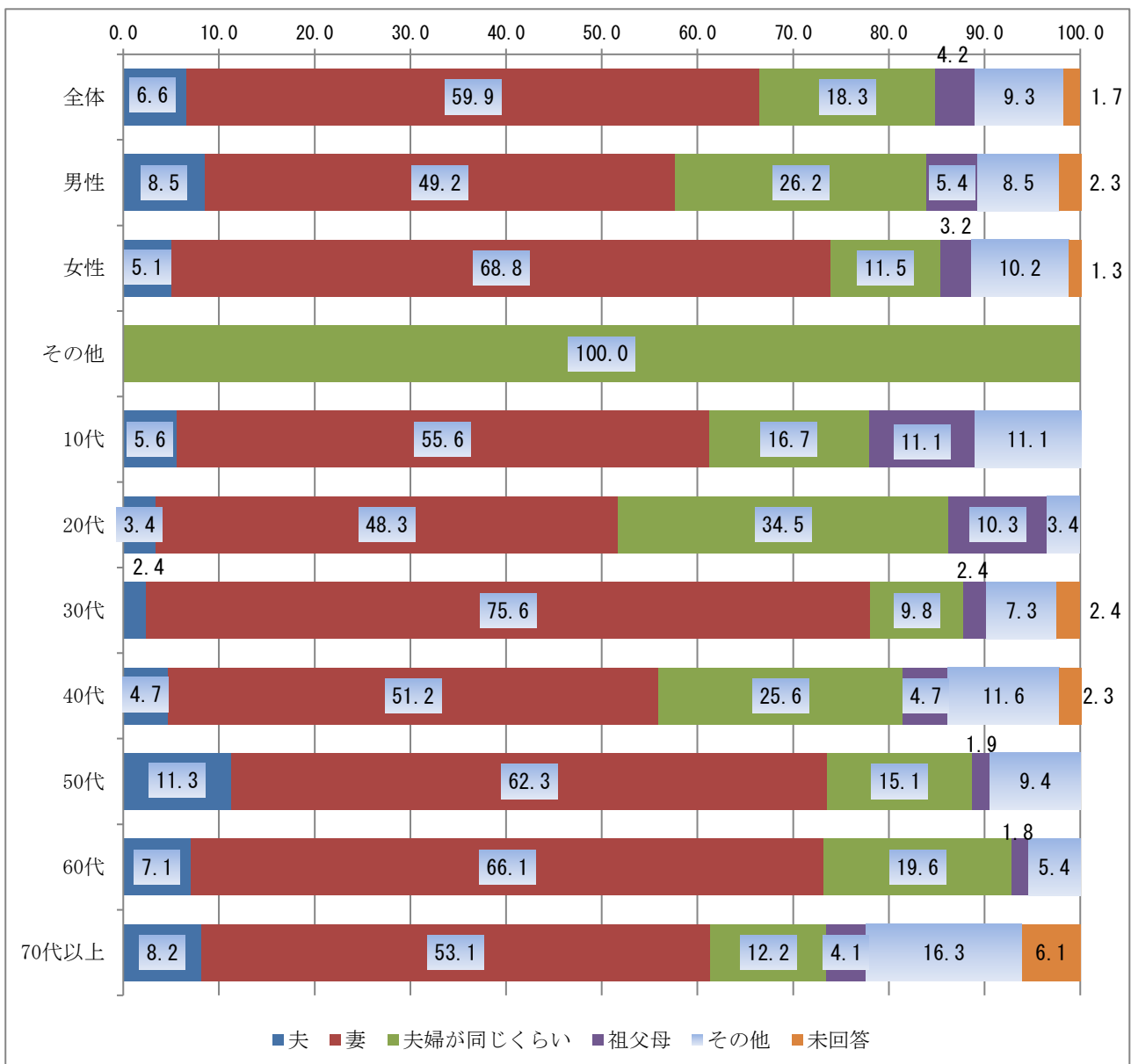
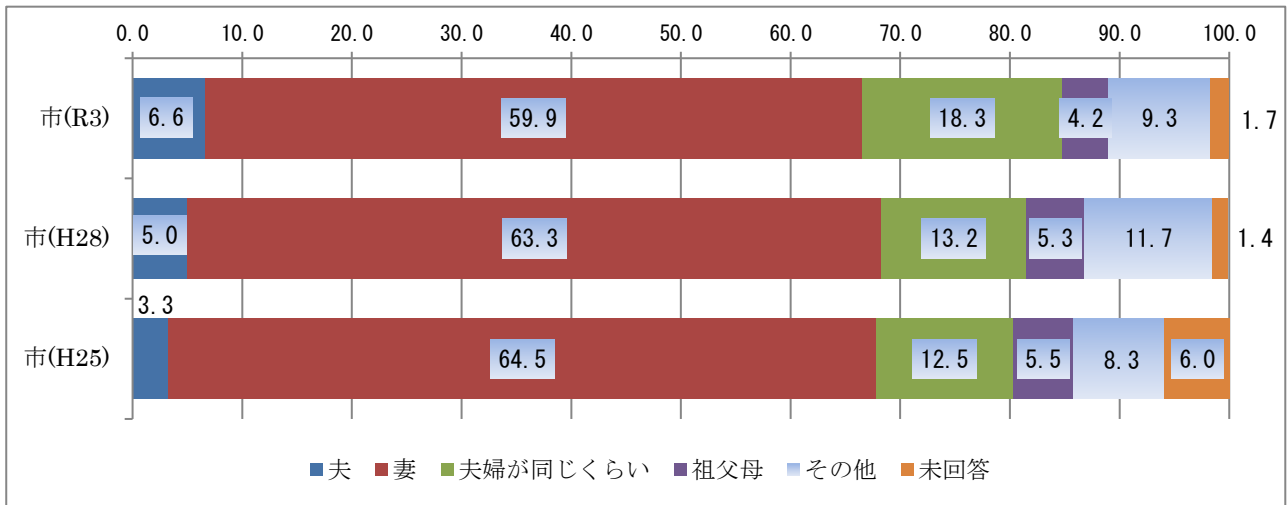
男女別で見ると、「夫婦が同じくらい」は、男性が24.6%であるのに対し、女性は14.6%と大きな差が見られる。



【掃除】

前回調査に続き「妻」が高くなっている。

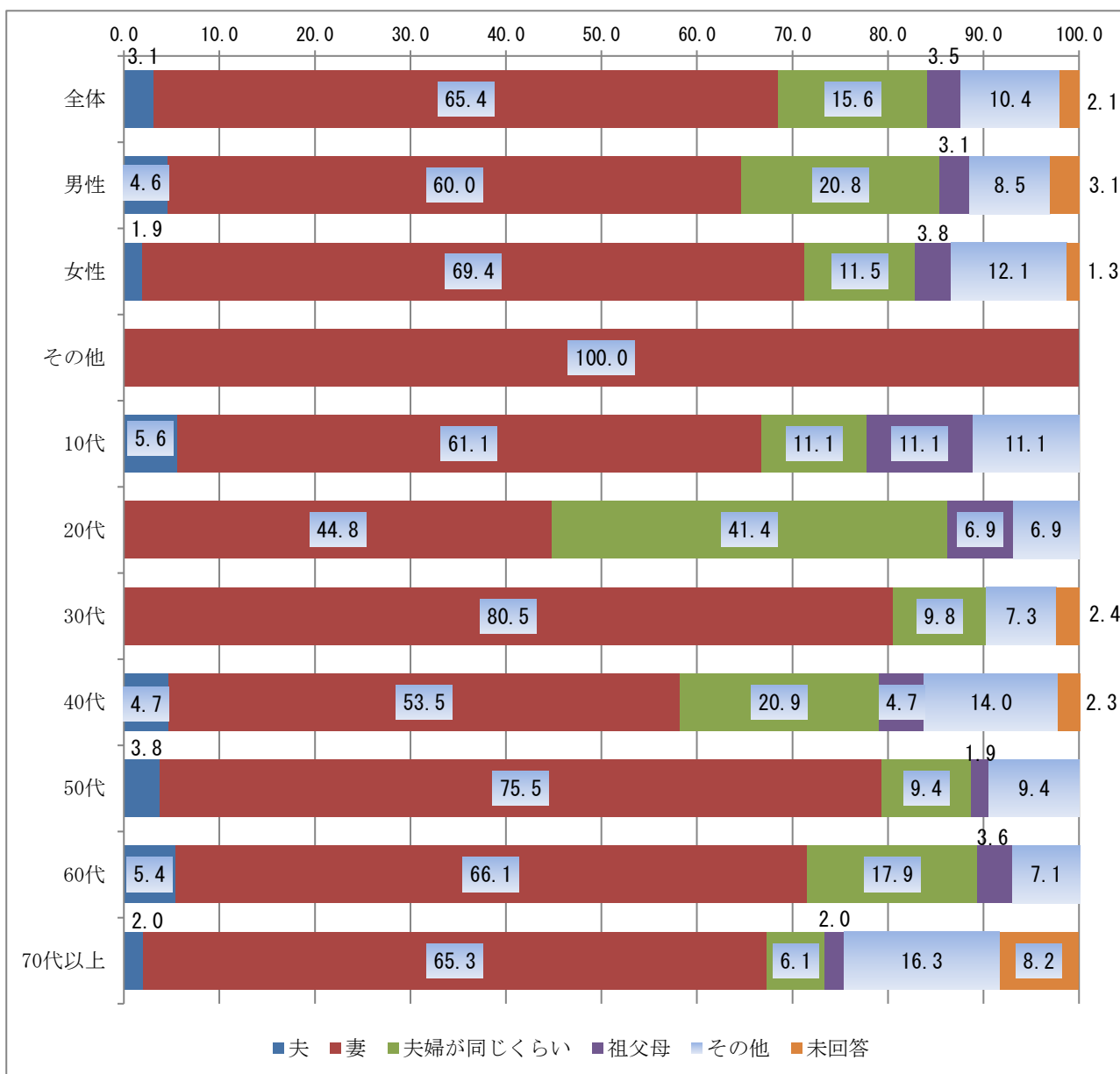
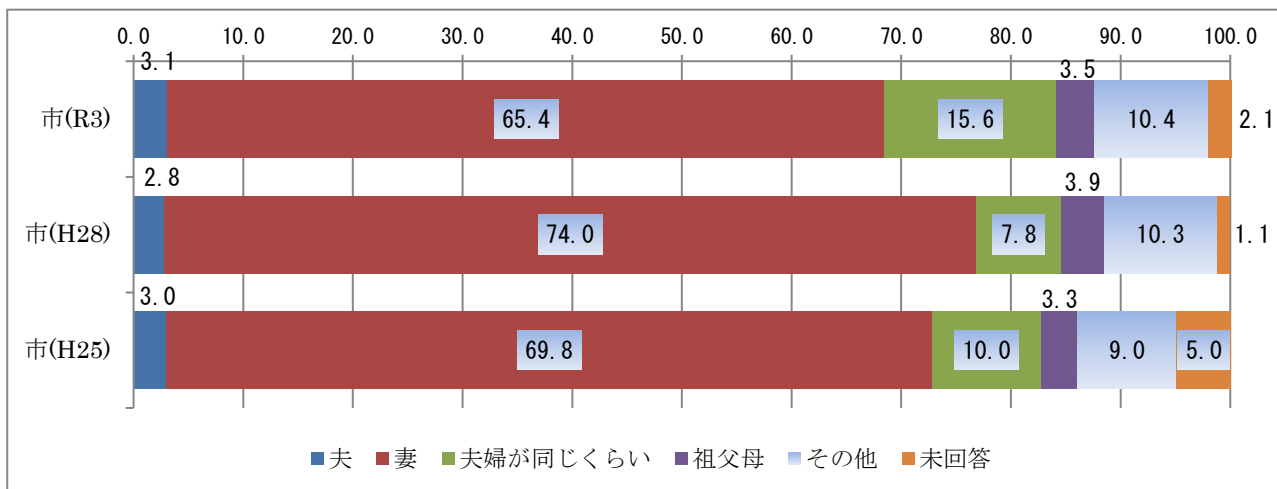
男女別で見ると、「夫婦が同じくらい」は、男性が26.2%であるのに対し、女性は11.5%と大きな差が見られる。



【洗濯】

前回調査に続き「妻」が高いものの、前回調査と比べて8.6ポイント減少している。

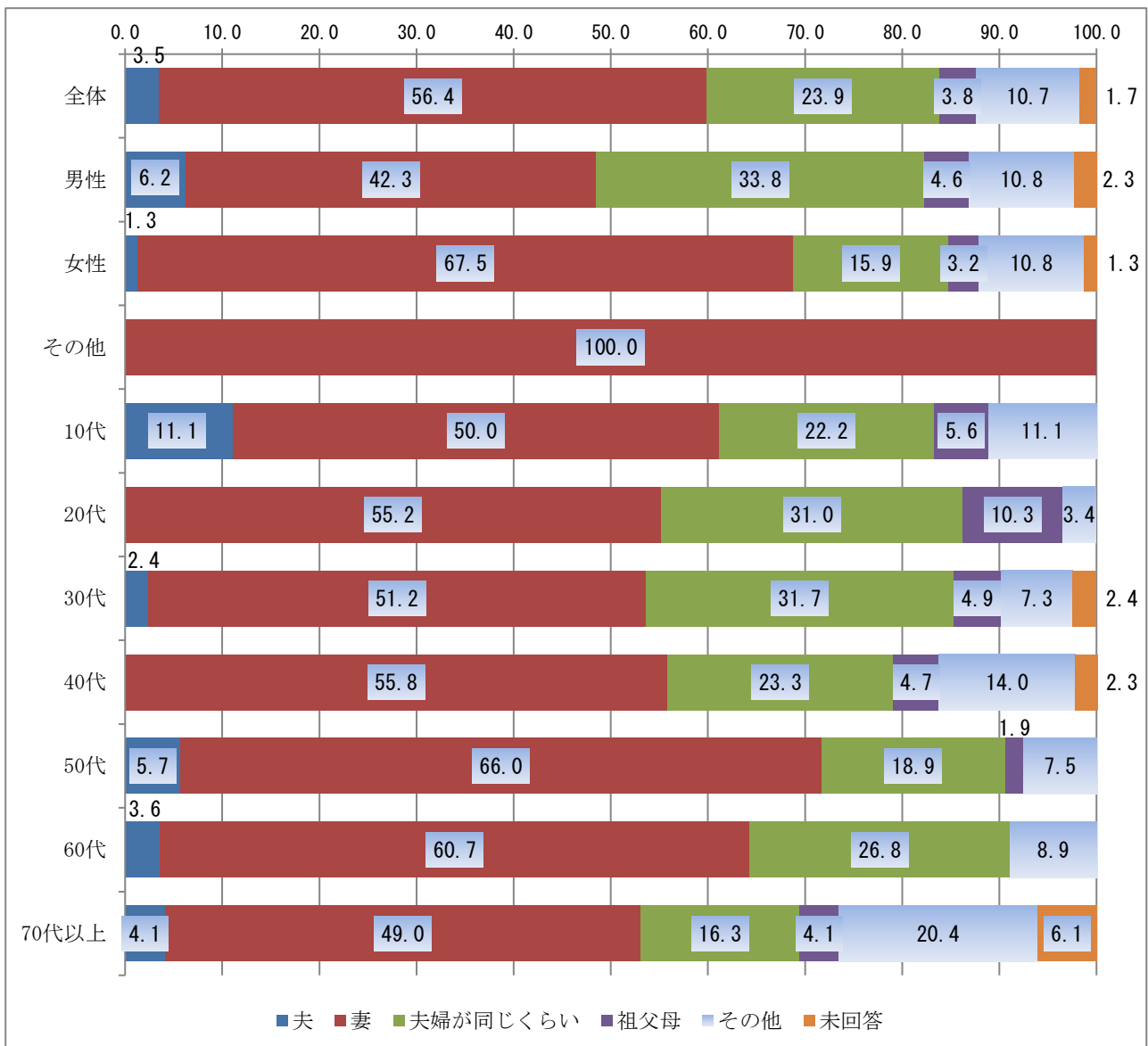
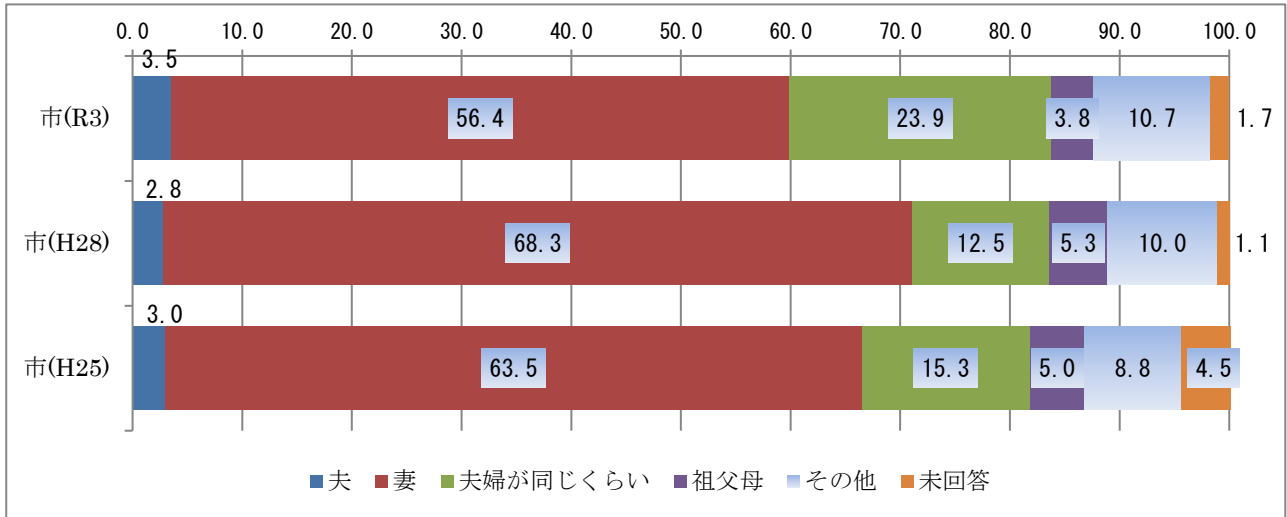
男女別で見ると、「夫婦が同じくらい」は、男性が20.8%であるのに対し、女性は11.5%と大きな差が見られる。



【日常の買い物】

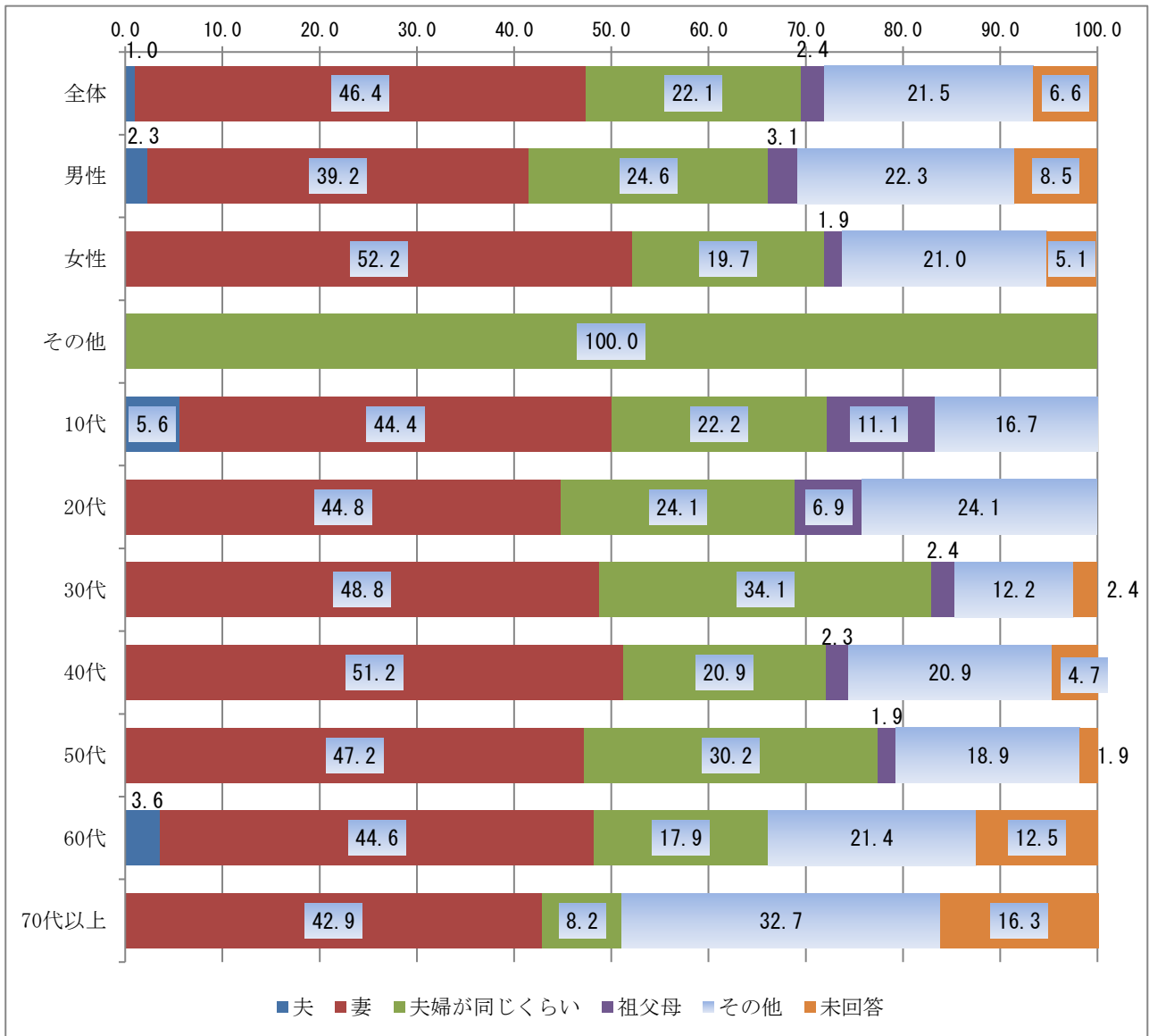
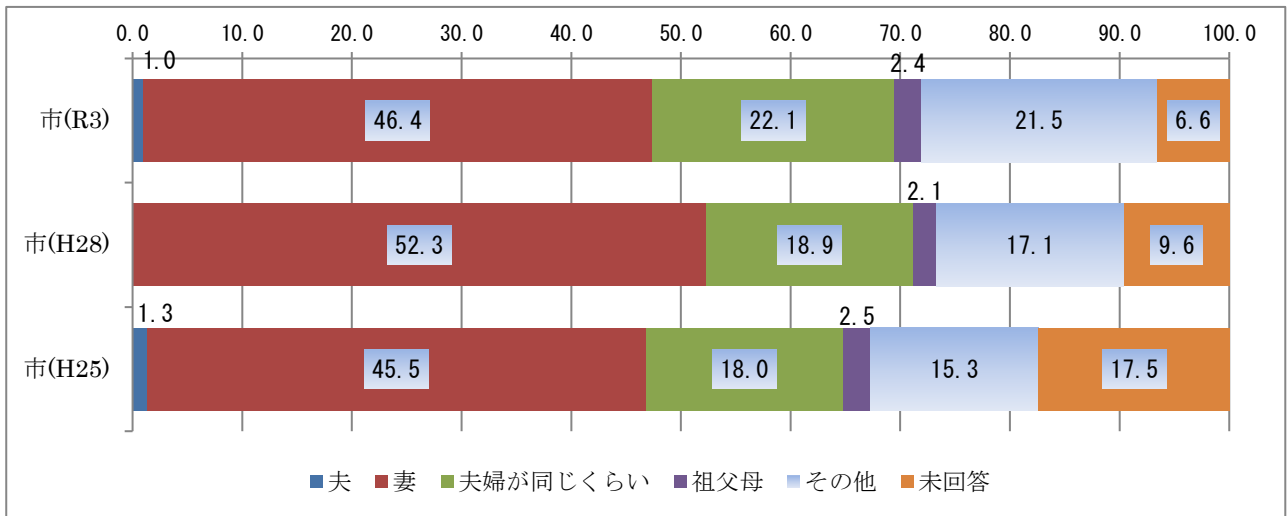
前回調査に続き「妻」が高いものの、他項目と比べると「夫婦が同じくらい」が高い項目である。

男女別で見ると、「夫婦が同じくらい」は、男性が33.8%であるのに対し、女性は15.9%と大きな差が見られる。



【子どもの世話】

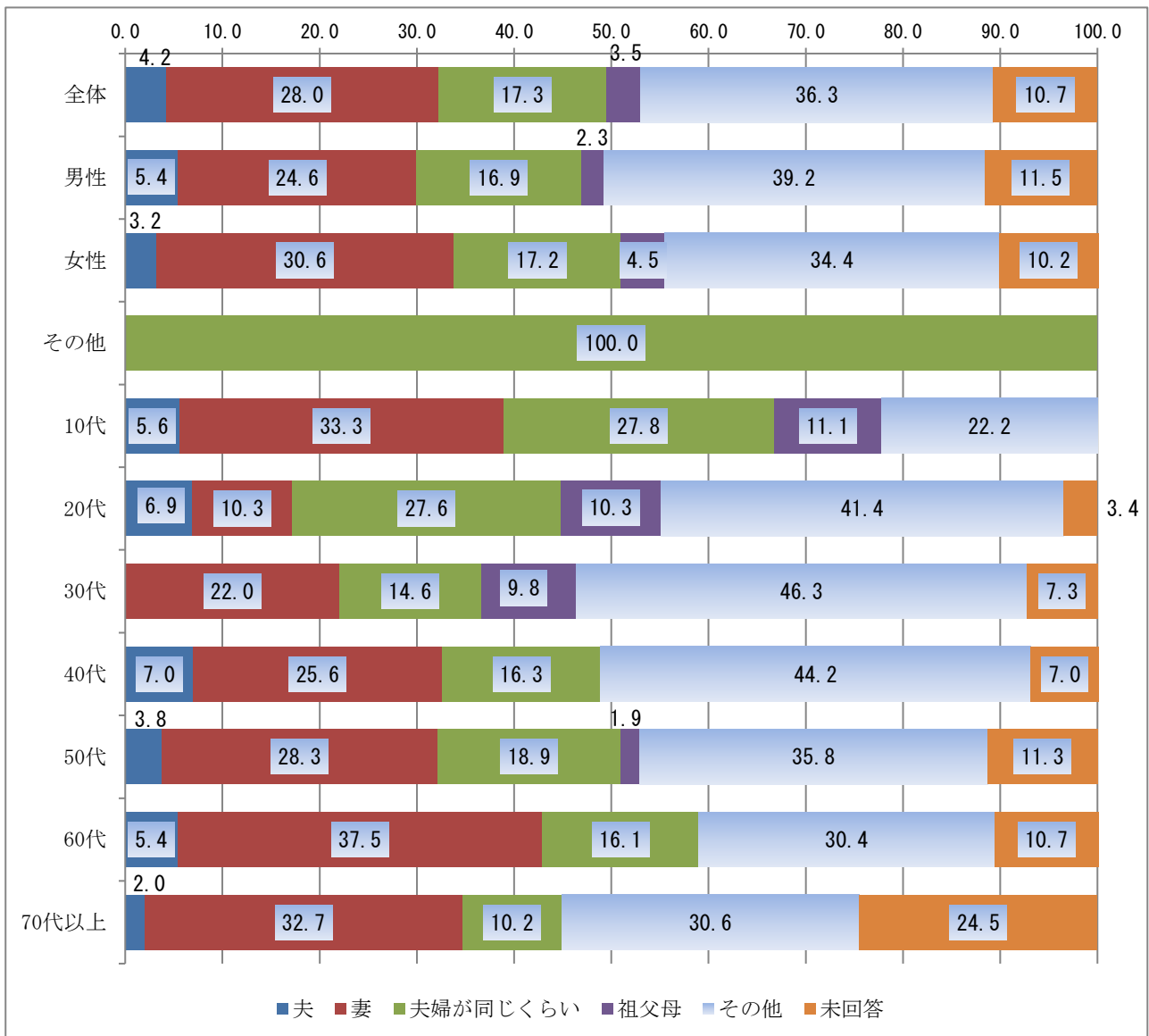
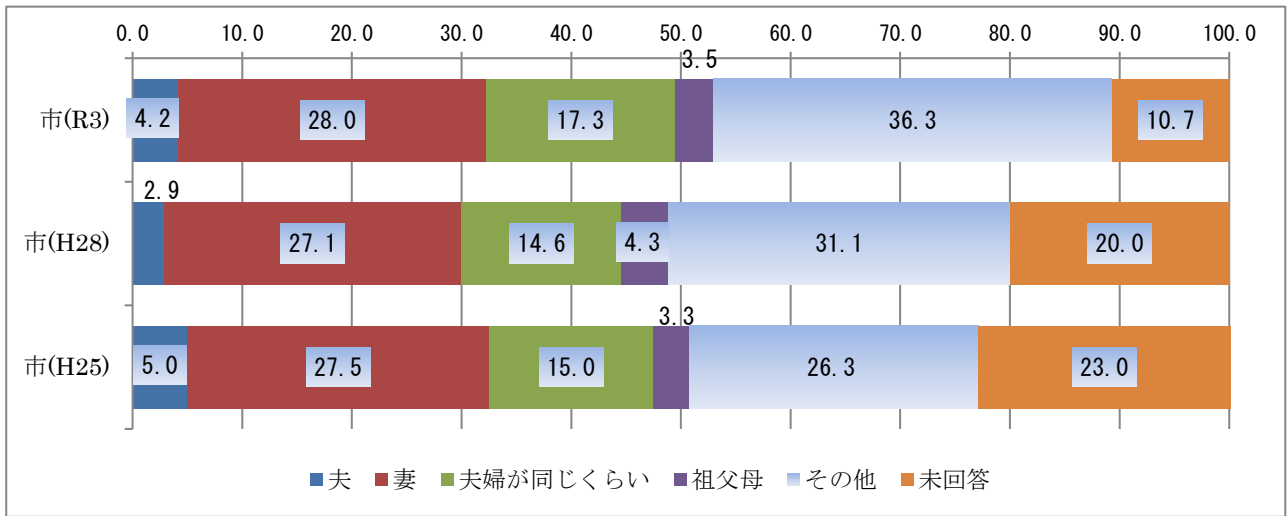
「夫」は少数で、「妻」は約5割となっているが、「夫婦が同じくらい」は3.2ポイント上昇している（該当しない場合があることから、「その他」「未回答」の割合が高くなっている。）。



【家族の介護】

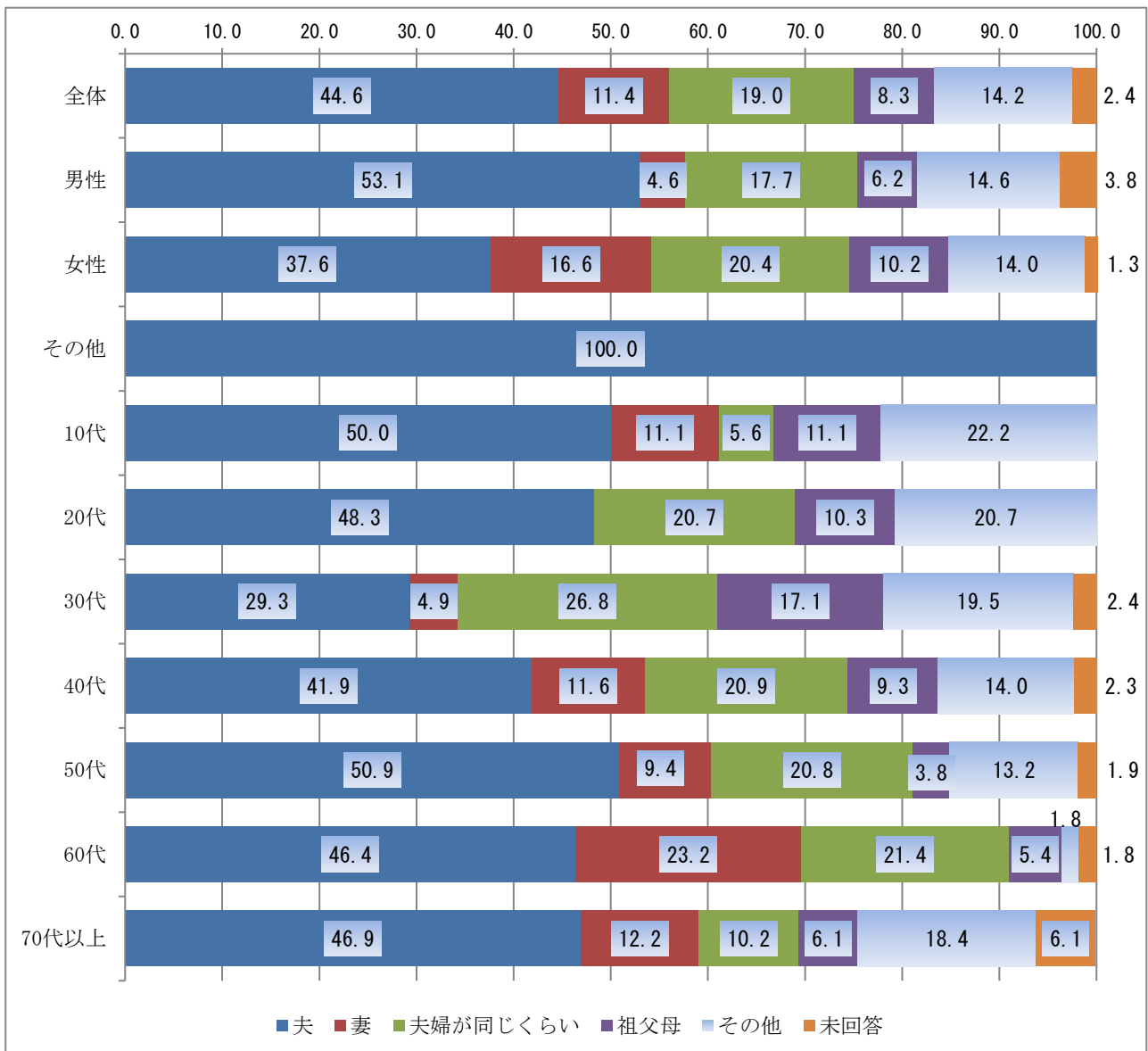
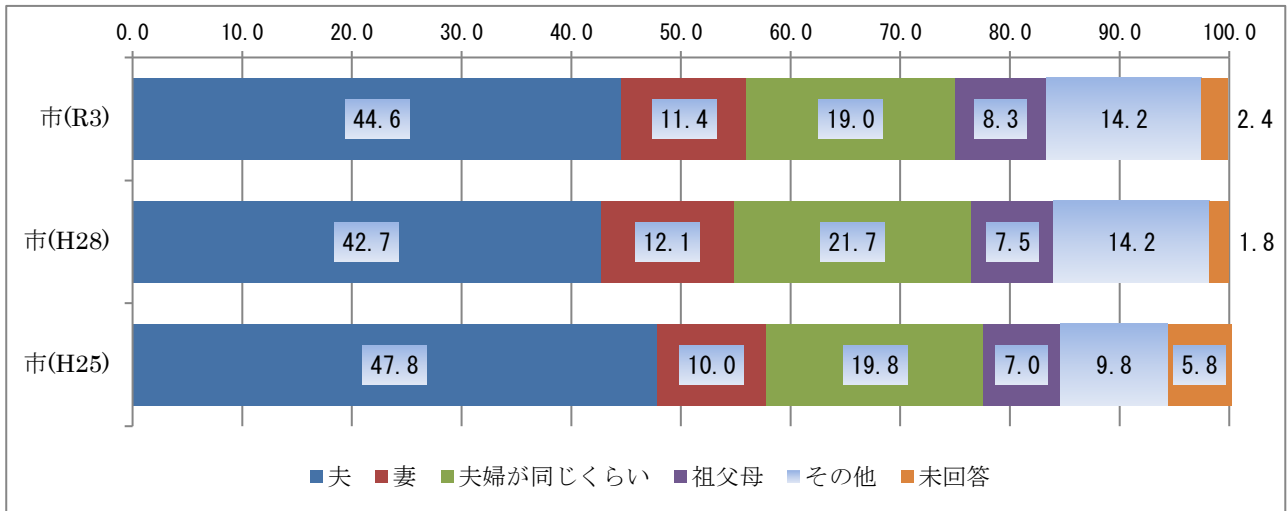
他項目と比べると「妻」が少ない項目である。

前回調査と比べても傾向に変わりはないものである（該当しない場合があることから、「その他」「未回答」の割合が高くなっている。）。



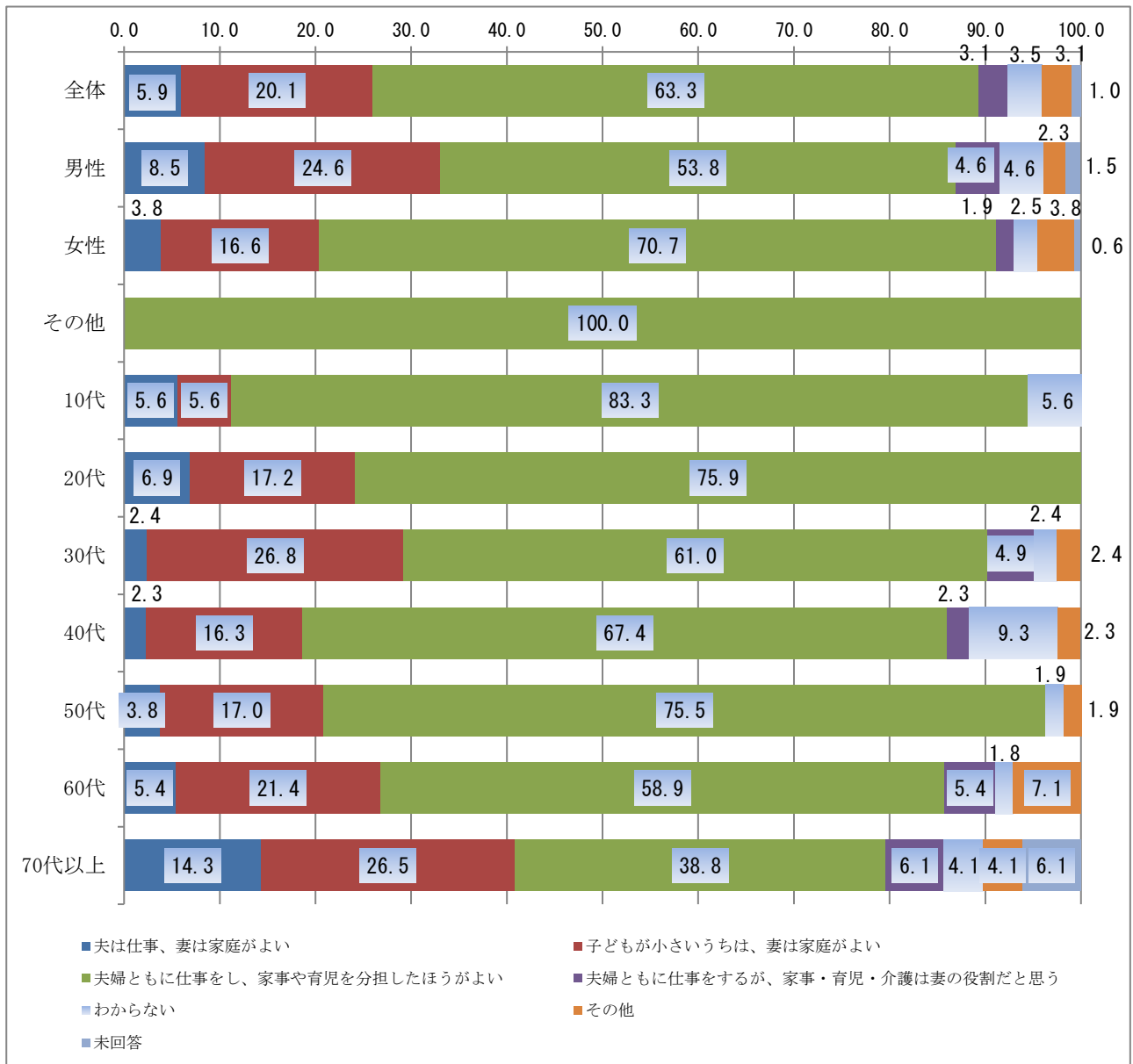
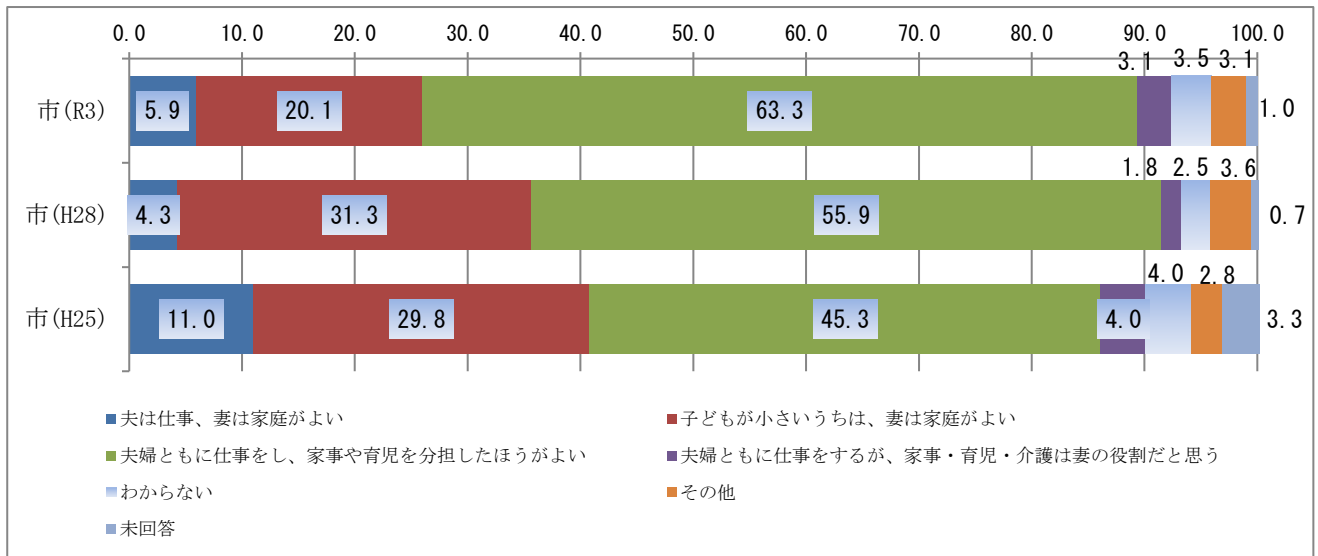
【町内会などの行事】

前回調査に引き続き、唯一、「夫」が高い項目となっている。前回調査と比べても傾向に変わりはないものである。



(4) 家庭における夫婦の役割分担について

問4. あなたは、家庭における夫婦の役割分担について、どのように考えていますか。

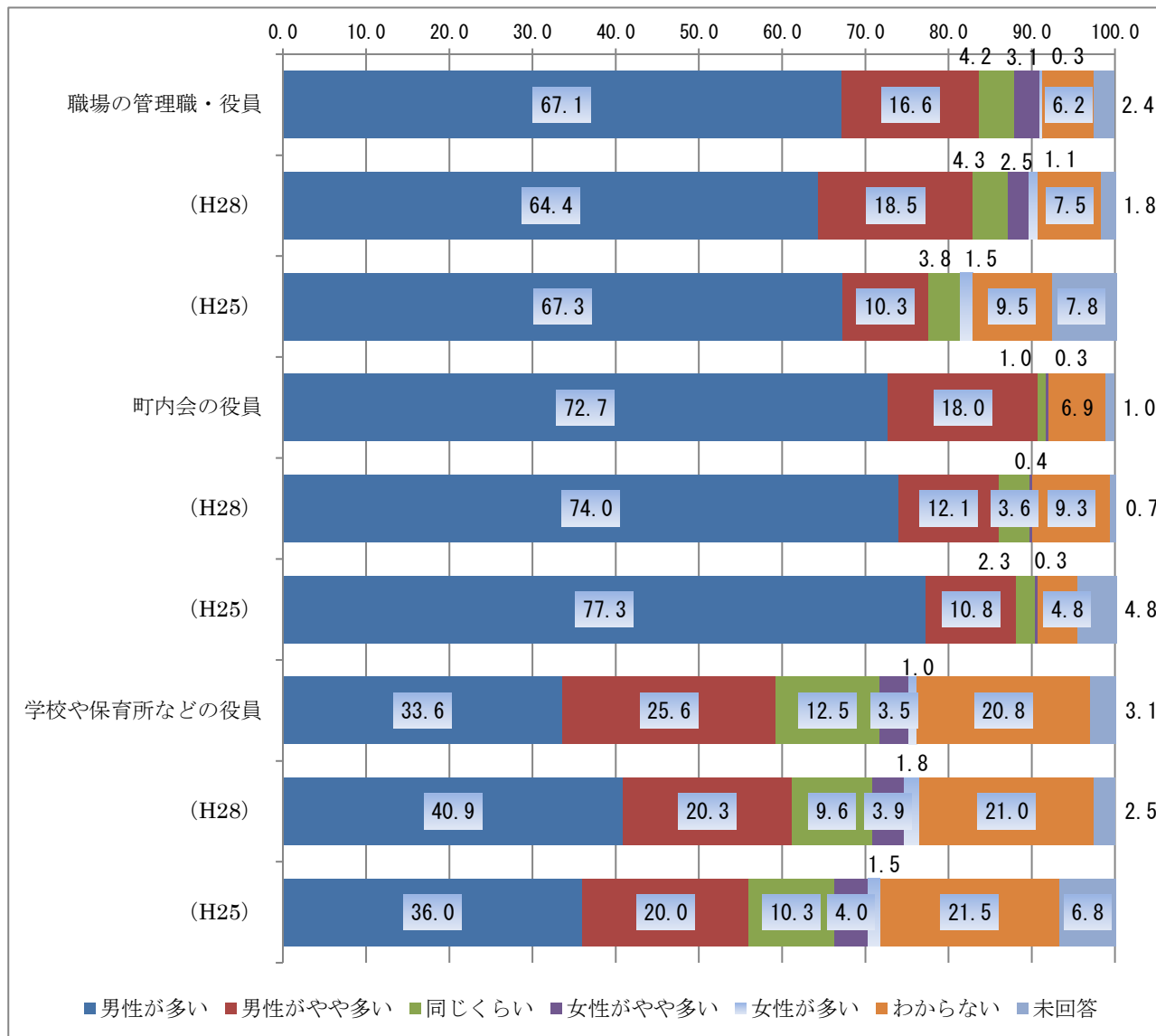


◎ すべての年代で、「夫婦ともに仕事をし、家事や育児を分担したほうがよい」が最も高くなっており、特に10代については8割を超えている。

前回調査と比べて、「夫婦ともに仕事をし、家事や育児を分担したほうがよい」は7.4ポイント上昇している。

(5) 管理職や役員の状況について

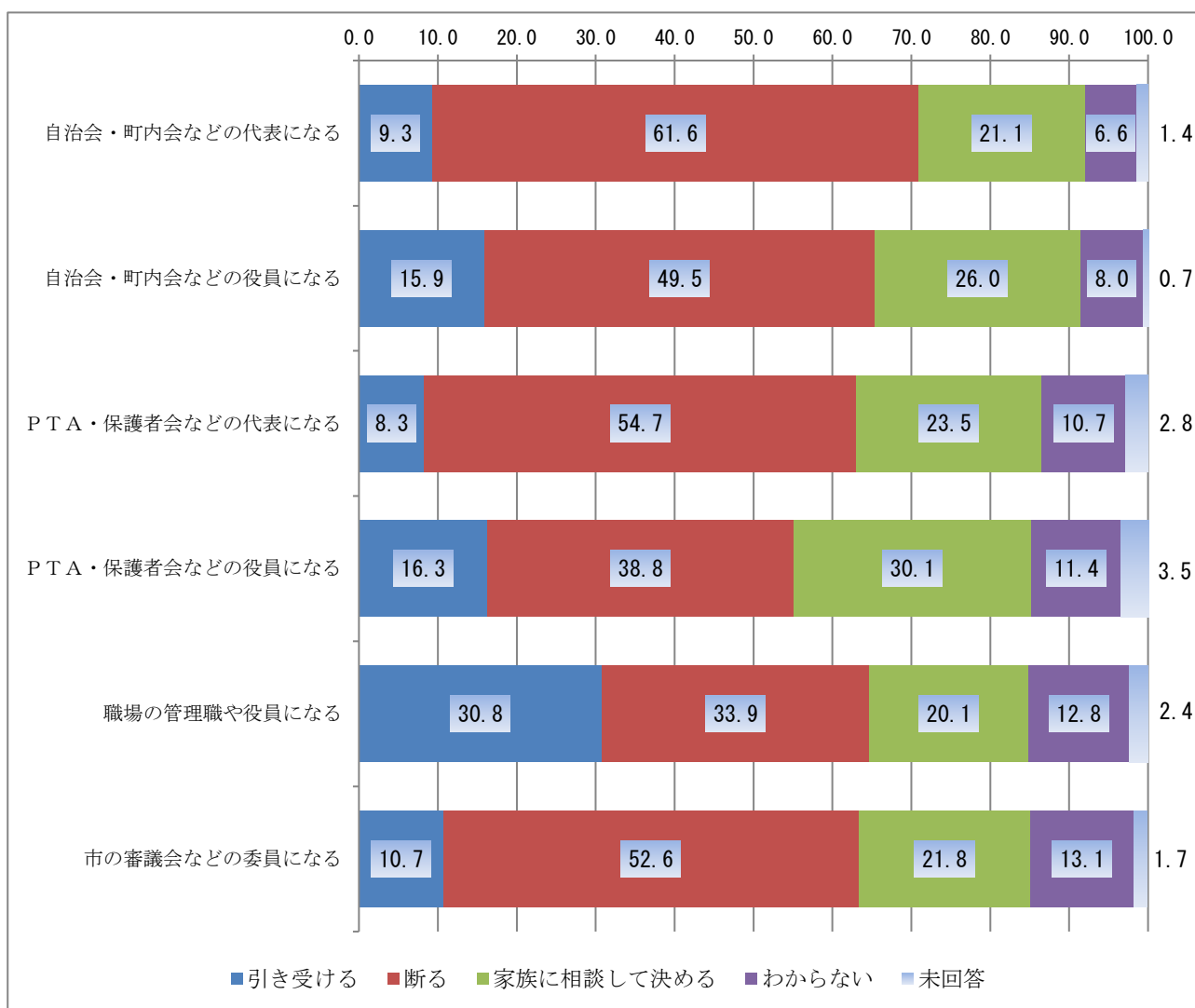
問5. あなたの周りで、次のような方は男性が多いですか、女性が多いですか。



◎ 前回調査に続き、すべての項目で「男性が多い」「男性がやや多い」が高くなっている。「学校や保育所などの役員」については、「同じくらい」が他項目と比べて高い状況となっている。

(6) 役職の要請への対応について

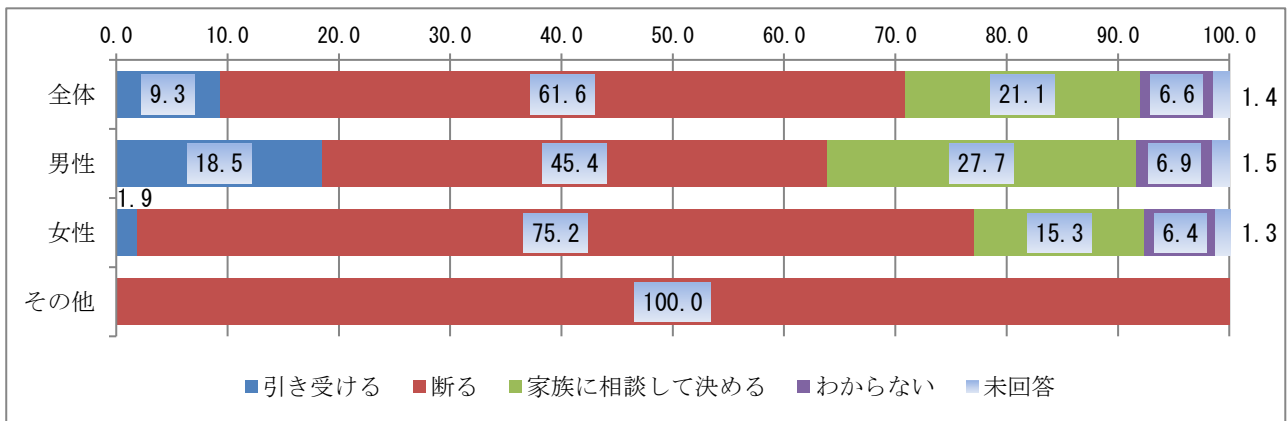
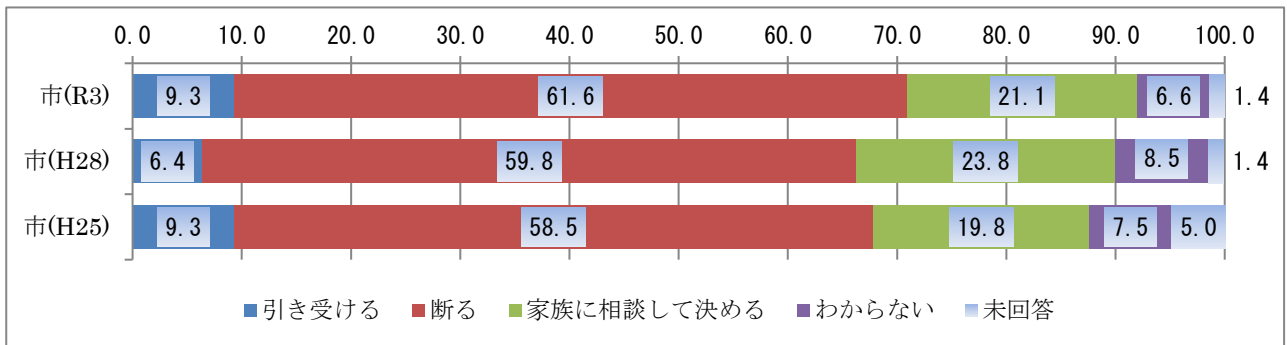
問6. あなたは次の役職について要請があった場合、引き受けますか。



◎ 前回調査に続き、すべての項目で「断る」が最も高くなったほか、代表より役員の方が「引き受ける」「家族に相談して決める」が高くなっている。男女別に見ると、すべての項目において女性の方が「断る」と回答した割合が高くなっている。

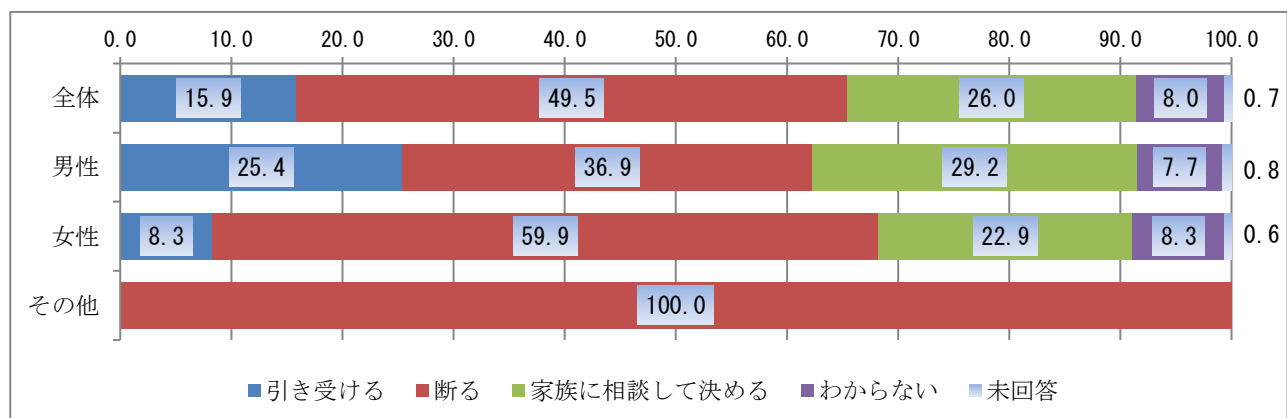
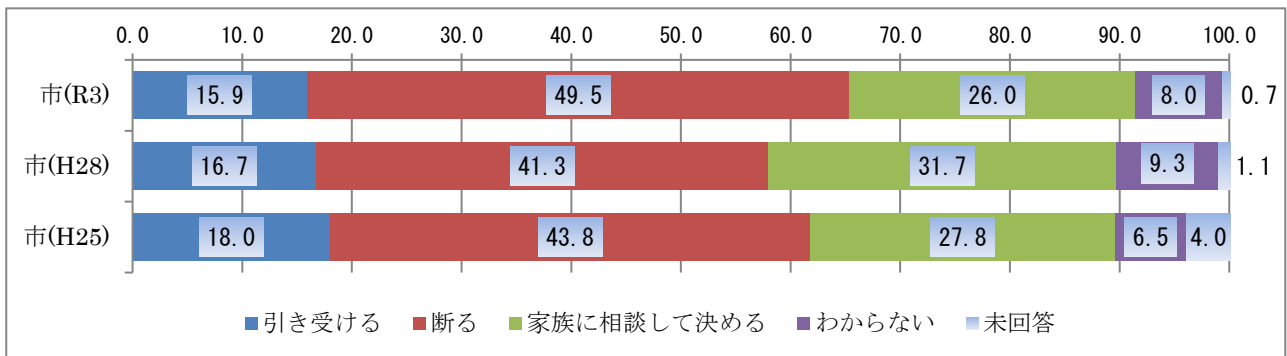
【自治会・町内会などの代表になる】

前回調査と同様、「断る」が6割に上っている。また、男女別で見た場合、「断る」は女性の方が3割高くなっている。



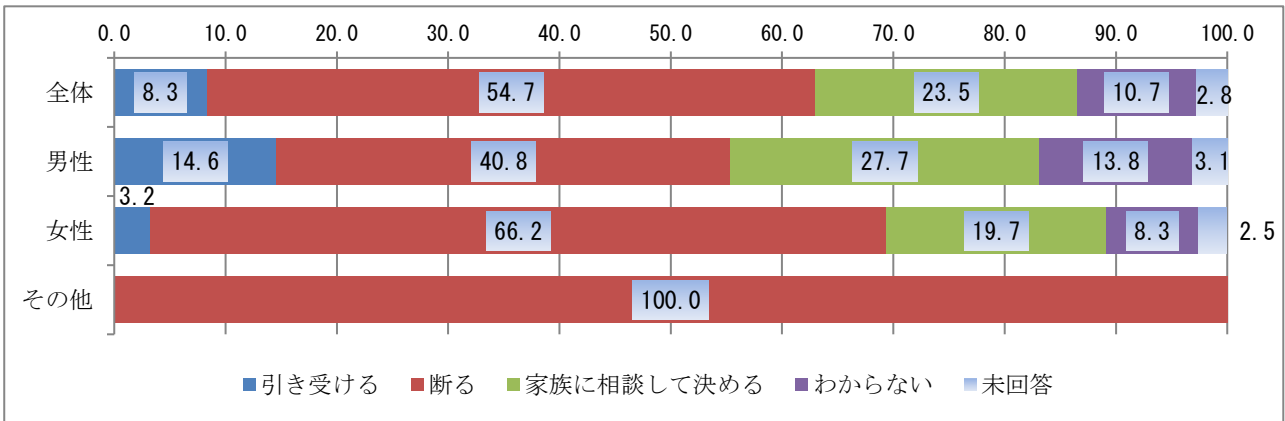
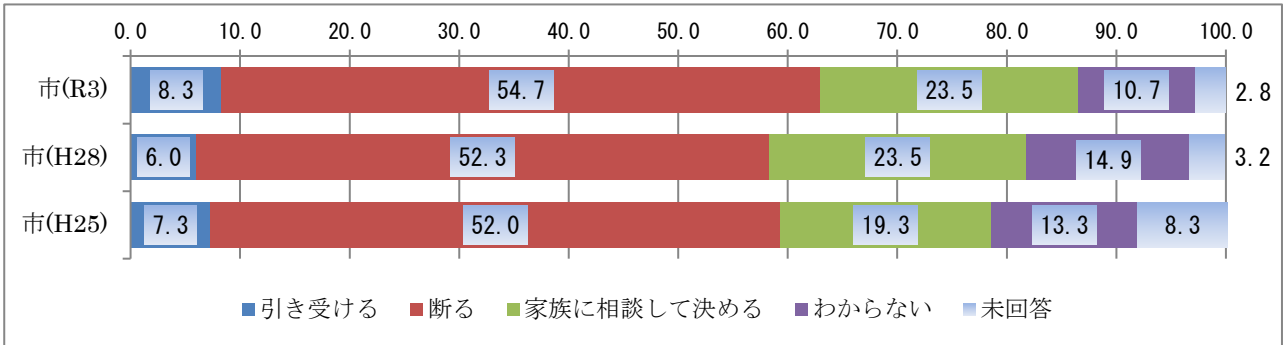
【自治会・町内会などの役員になる】

「代表になる」と比較すると、「引き受ける」は高いものとなるが、「断る」は約5割となっている。また、男女別で見た場合、「代表になる」と同様、「断る」の割合は女性の方が高い状況となっている。



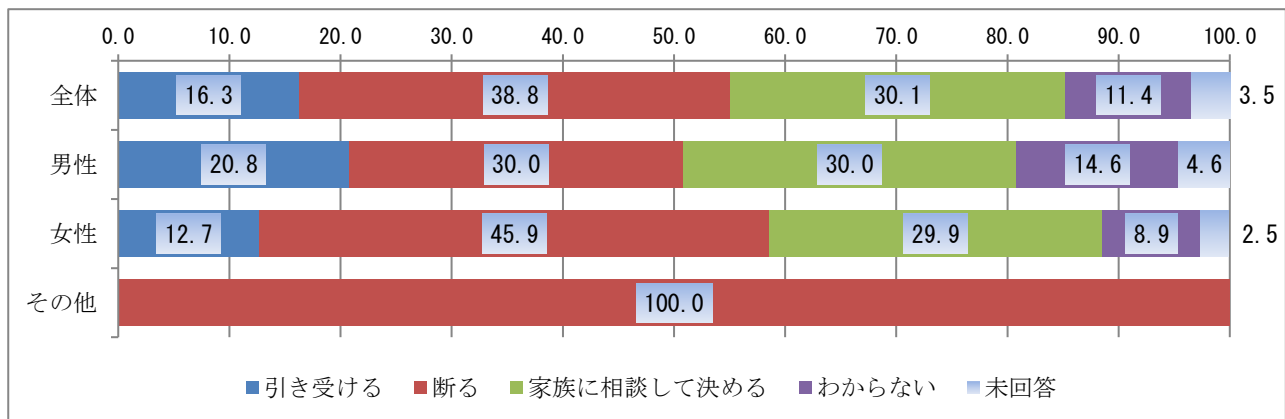
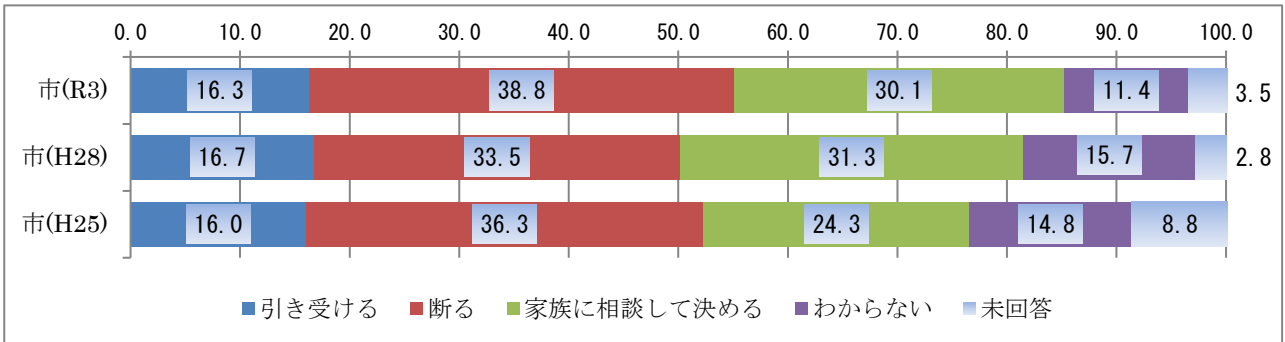
【PTA・保護者会などの代表になる】

前回調査と同じような傾向となり、自治会・町内会などの代表になると同様、「断る」が高くなっている。



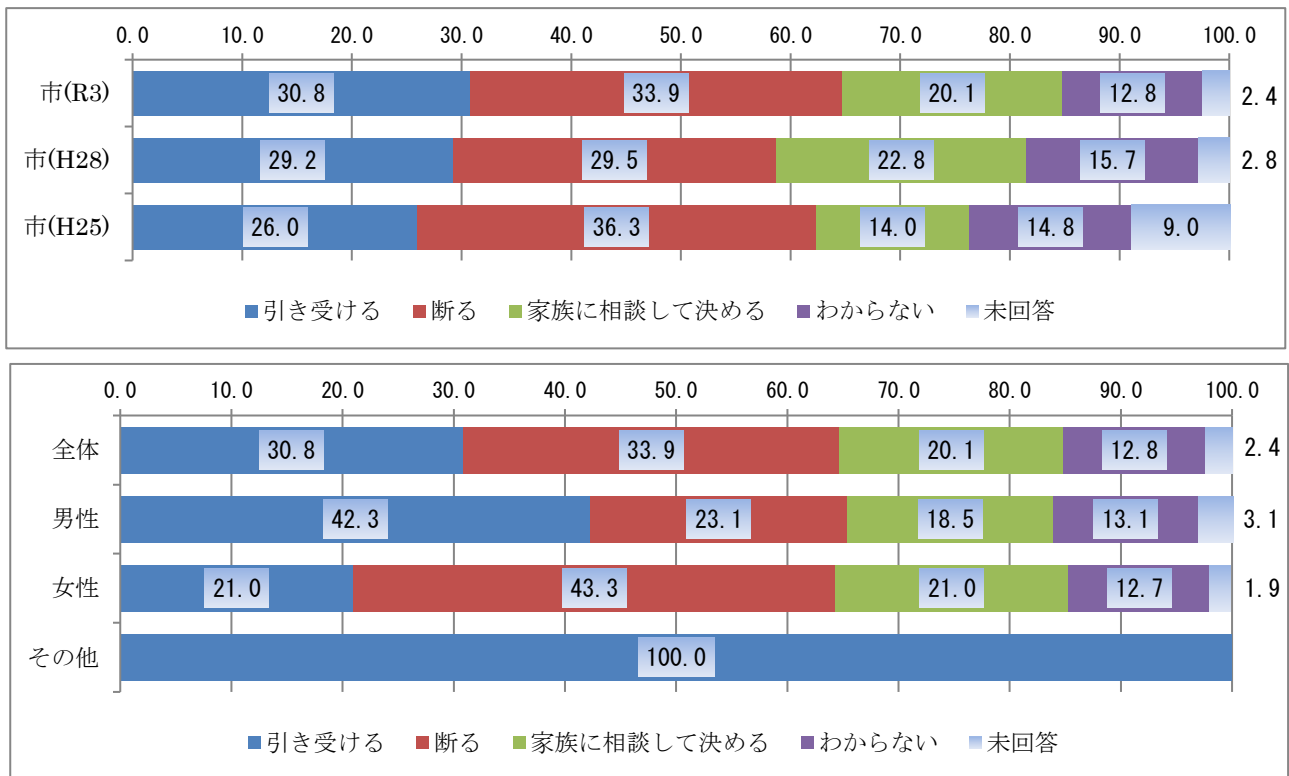
【PTA・保護者会などの役員になる】

「代表になる」と比較すると、「引き受ける」は高いものとなるが、「断る」は約4割となっている。また、男女別で見た場合、「代表になる」と同様、「断る」は女性の方が高い状況となっている。



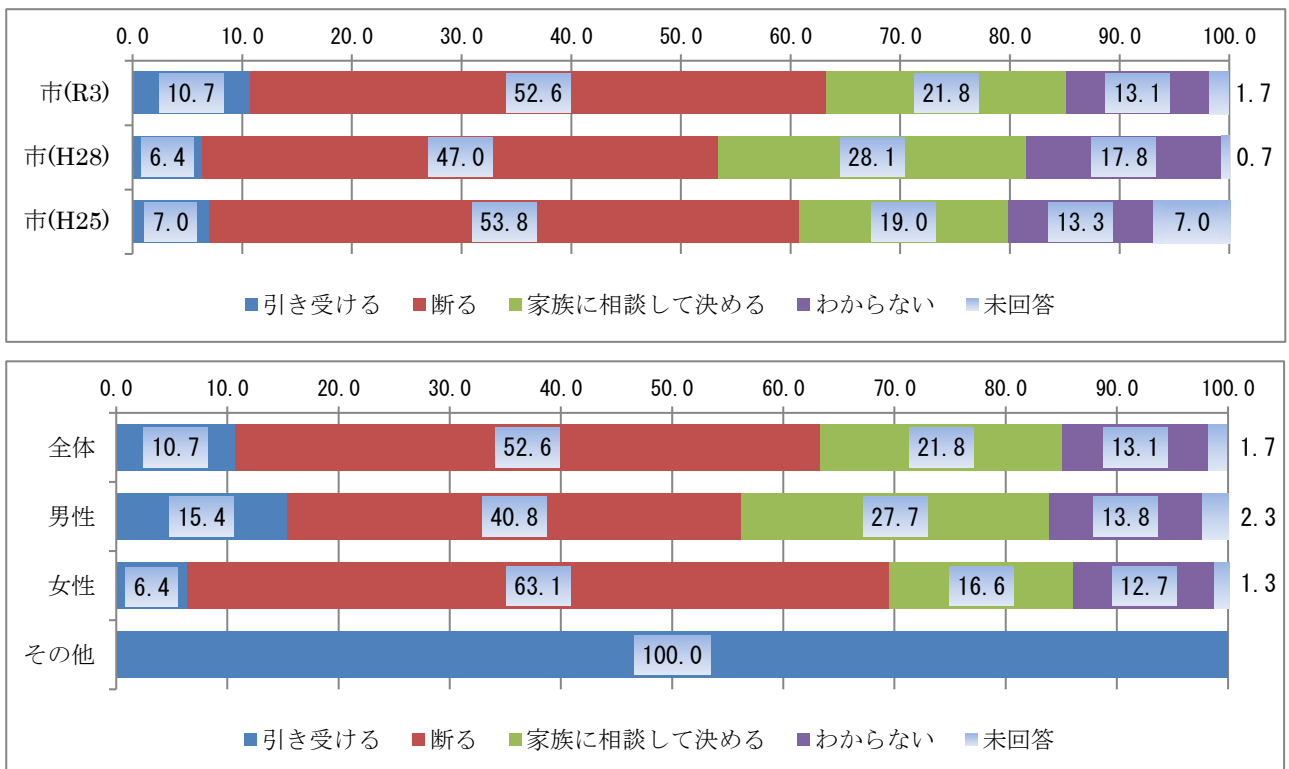
【職場の管理職や役員になる】

すべての項目中、最も「引き受ける」が高い項目となっている。また、男女別で見ると、男性は「引き受ける」が最も高いのに対し、女性は「断る」が最も高くなり、男女で大きな差が見られている。



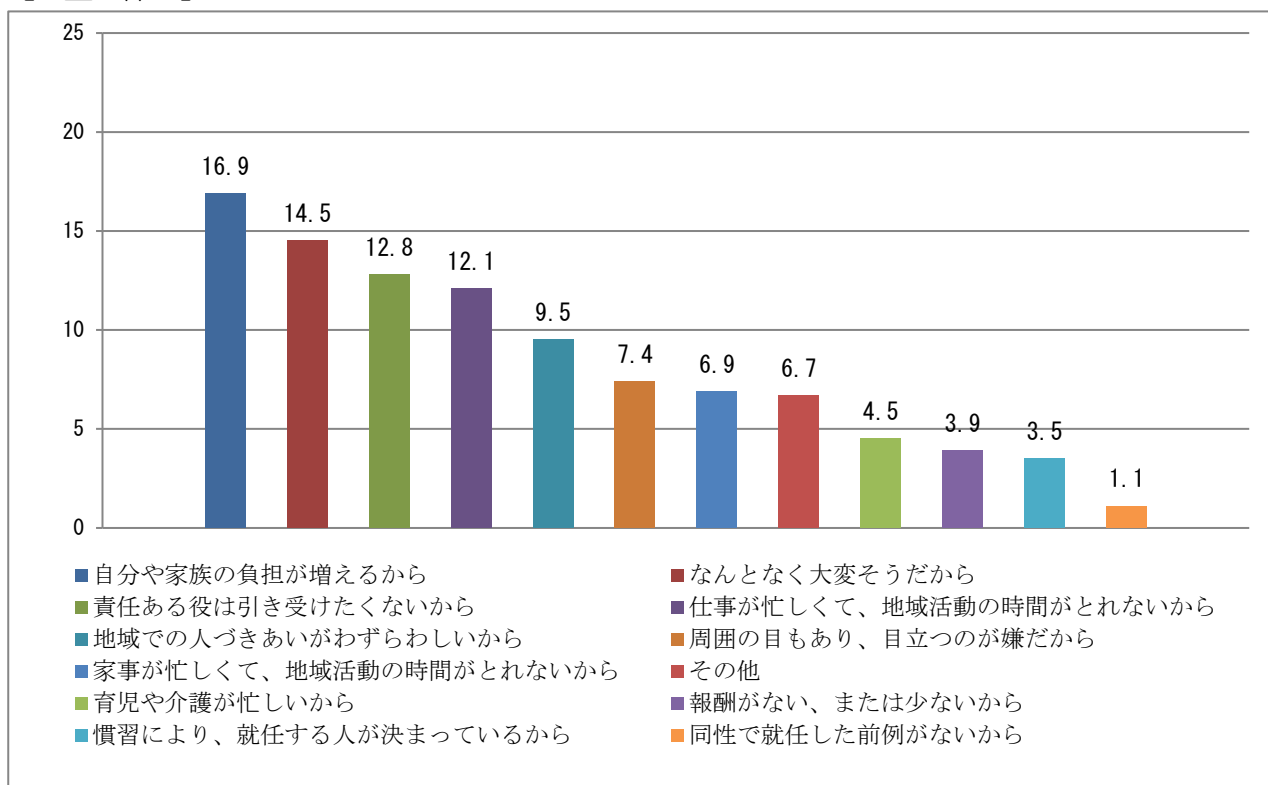
【市の審議会などの委員になる】

前回調査と比べて、「引き受ける」「断る」とともに増加している。また、男女別で見た場合、「断る」は、男性が約4割、女性が約6割となっており、男女間で大きな差が見られている。



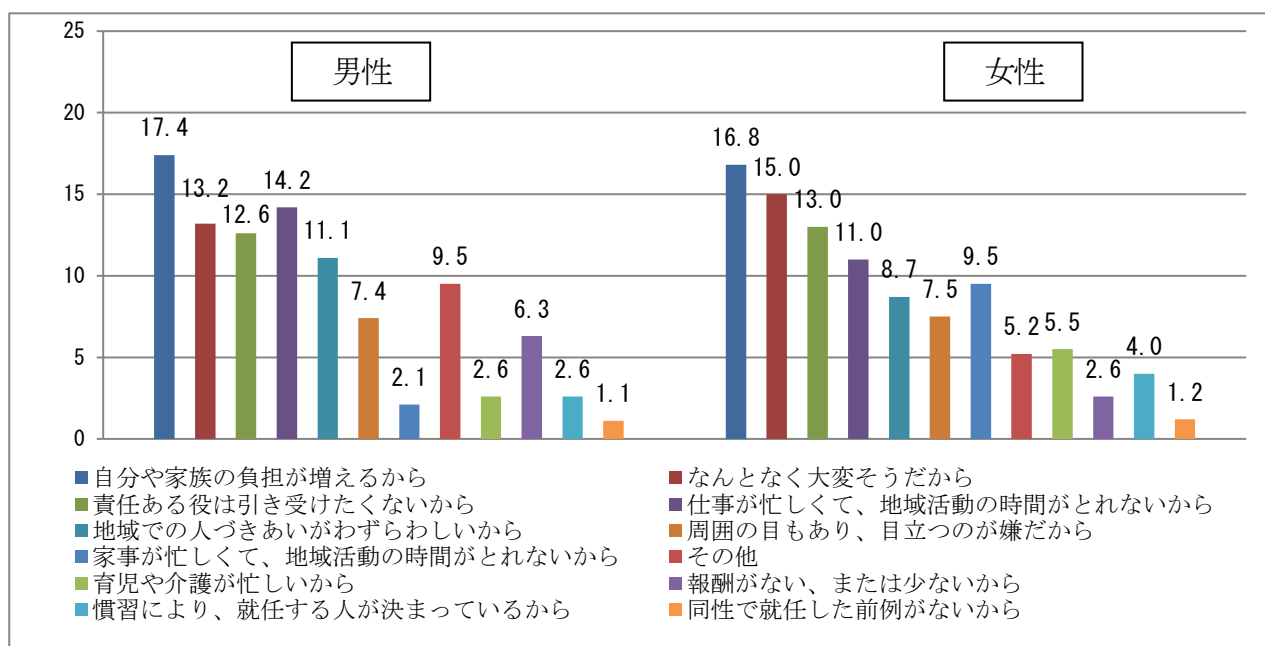
問6-1. 「断る」理由は、どのようなことですか。(複数回答)

【 全 体 】



◎ 「自分や家族の負担が増えるから」(男性1位、女性1位)が最も多く、次いで「なんとなく大変そうだから」(男性3位、女性2位)、「責任ある役は引き受けたくないから」(男性4位、女性3位)の順となった。

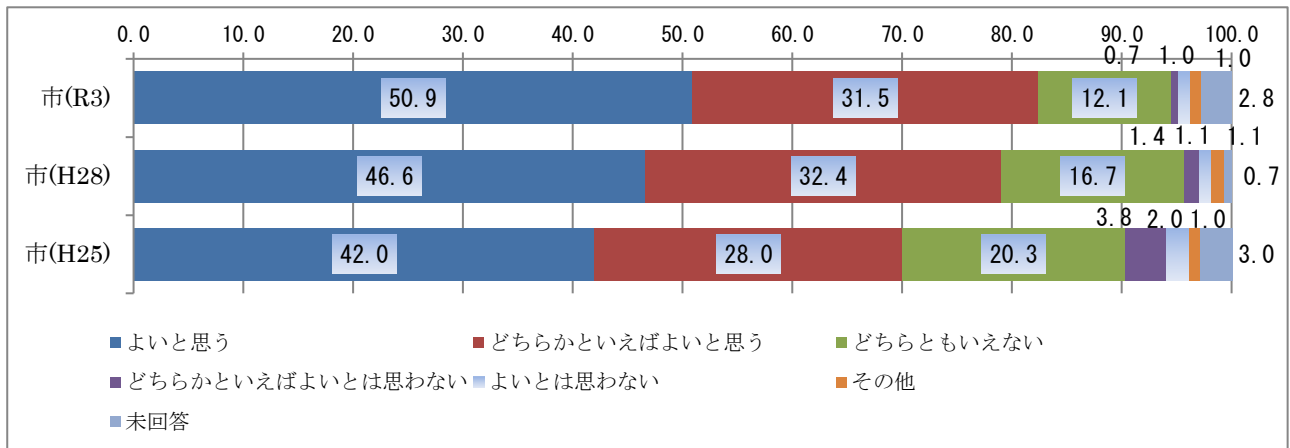
男女別に見ると、男性は「仕事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから」が2位となっている。また、女性は、男性と比べて「家事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから」が高くなっている。



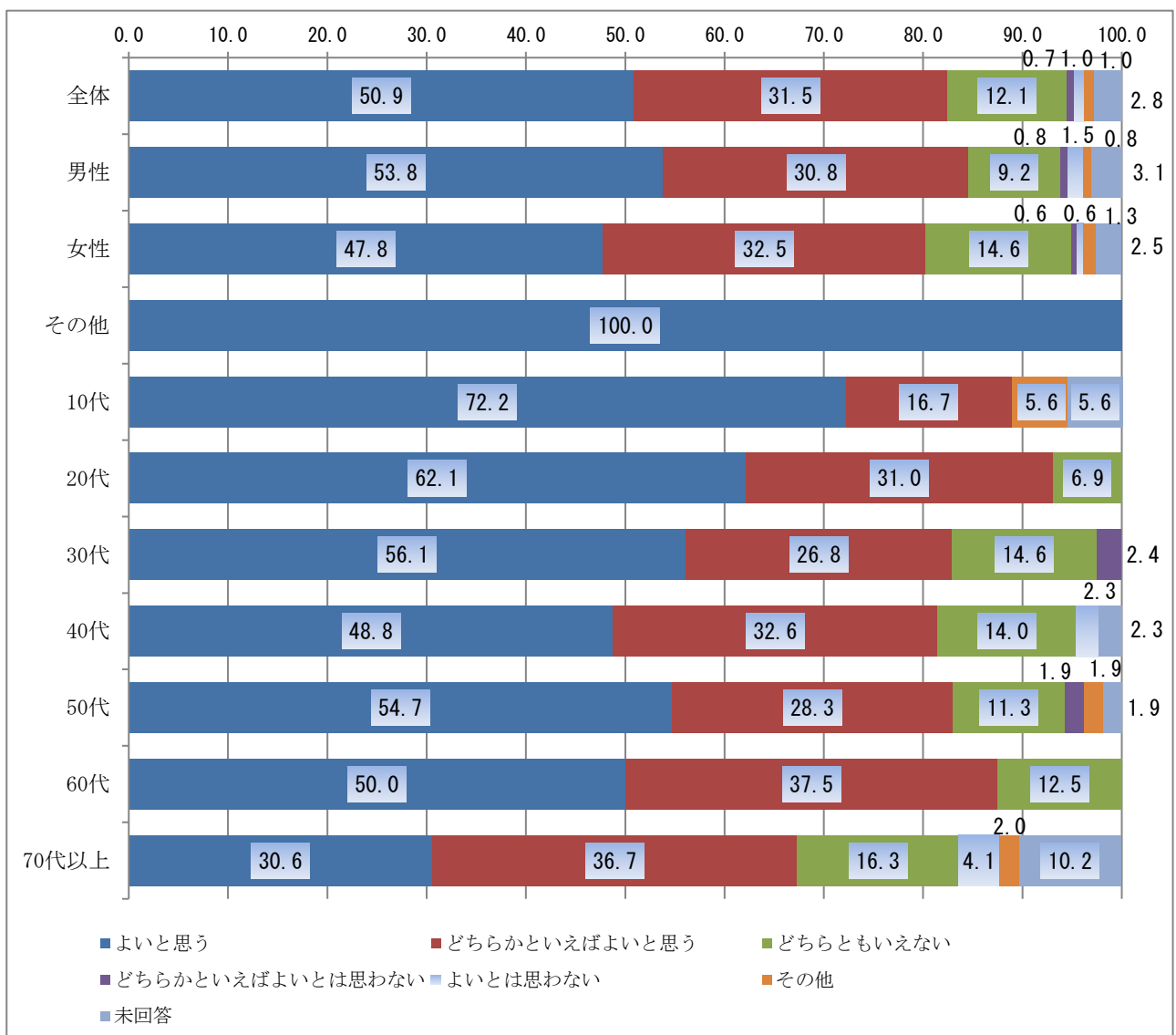
※その他の方は、「自分や家族の負担が増えるから」「地域での人づきあいがわずらわしいから」に回答

(7) 女性の活躍について

問7. あなたは、今後もっとさまざまな分野で女性の活躍が増えるほうがよいと思いますか。

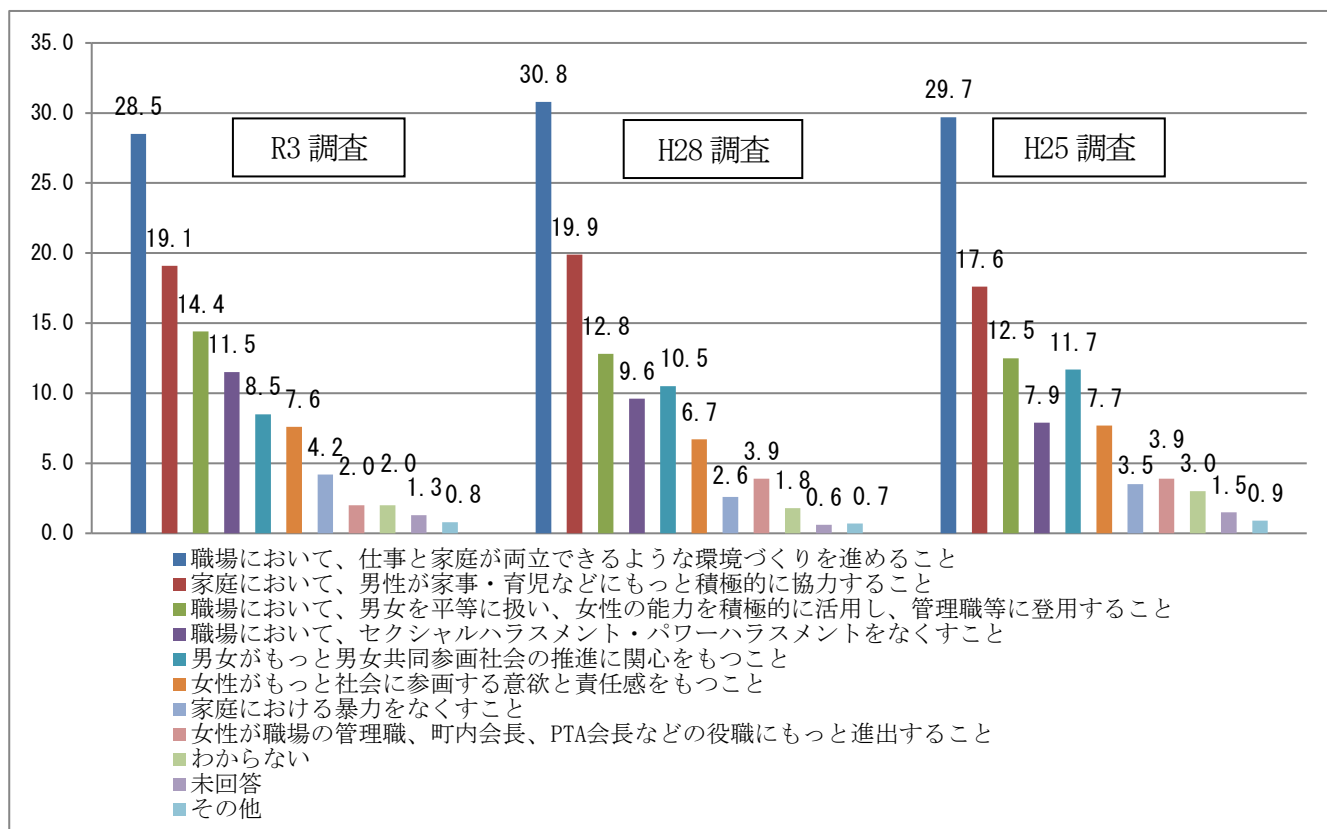


◎ 前回調査と比べて、「よいと思う」の割合が上昇し、「どちらかといえばよいと思う」と合わせて8割を超えている。また、年代別で見た場合、70代以上を除き全世代で8割を超えている。



(8) 男女共同参画社会を実現するうえで重要なことについて

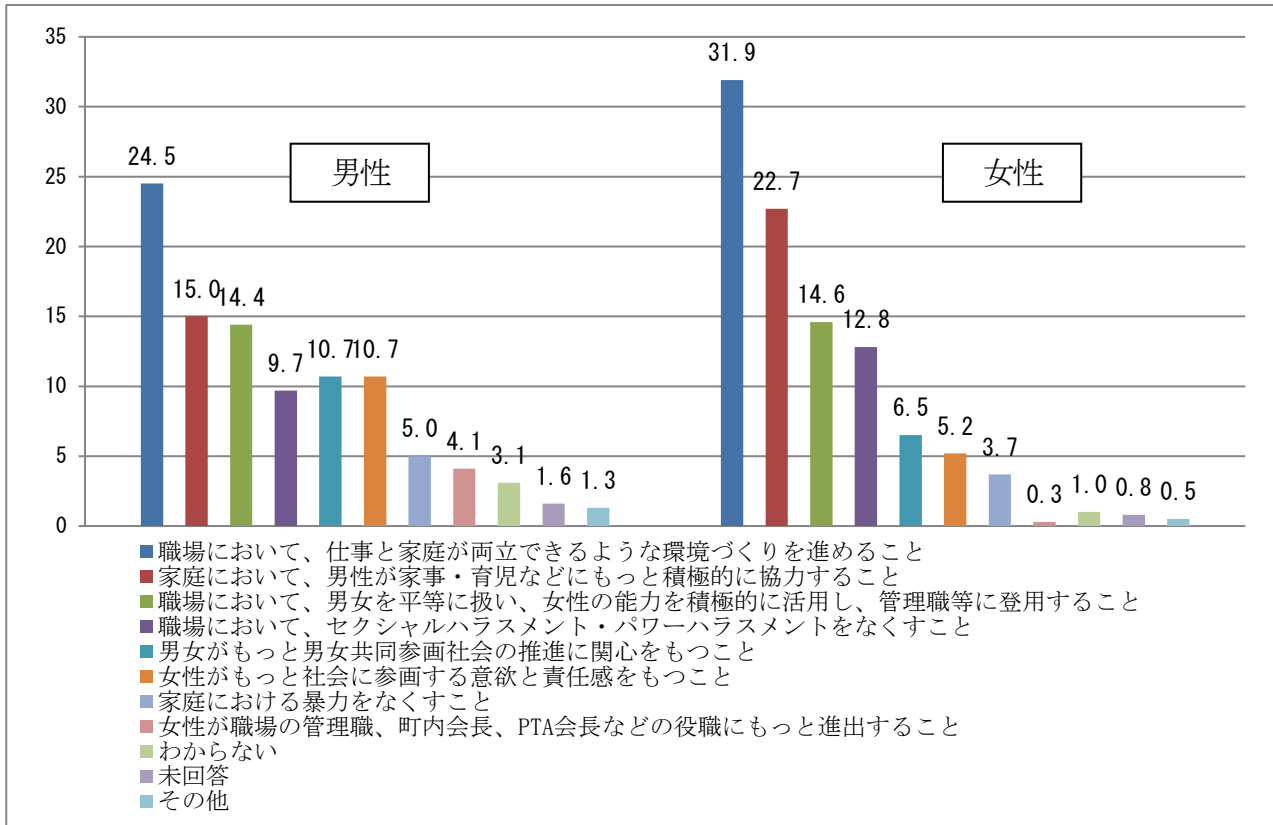
問8. 男女共同参画社会を実現するうえで重要なことはどのようなことだと思いますか。(複数回答)



◎ 前回調査とほぼ同様の傾向を示しており、「職場において、仕事と家庭の両立ができるような環境づくりを進めること」「家庭において、男性が家事・育児などにもっと積極的に協力すること」「職場において、男女を平等に扱い、女性の能力を積極的に活用し、管理職等に登用すること」が上位を占めている。

男女別で見た場合、「職場において、仕事と家庭の両立ができるような環境づくりを進めること」「家庭において、男性が家事・育児などにもっと積極的に協力すること」と回答した女性の割合が男性を大きく上回っている。

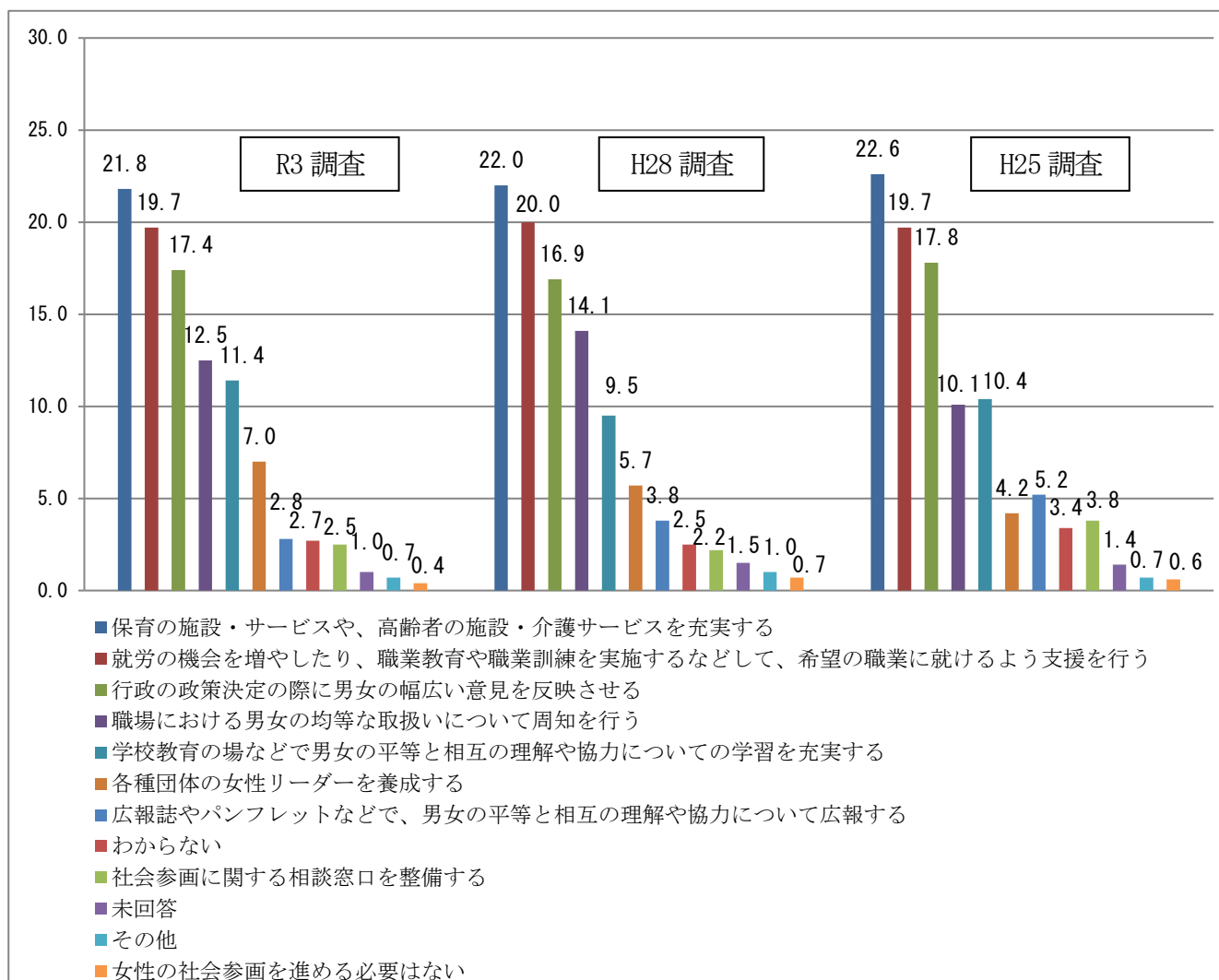
「女性がもっと社会に参画する意欲と責任感をもつこと」と回答した男性の割合が女性と比べて概ね2倍になっている。



※その他の方は、「職場において、仕事と家庭が両立できるような環境づくりを進めること」に回答

(9) 男女共同参画社会を実現するうえで行政に必要な取組みについて

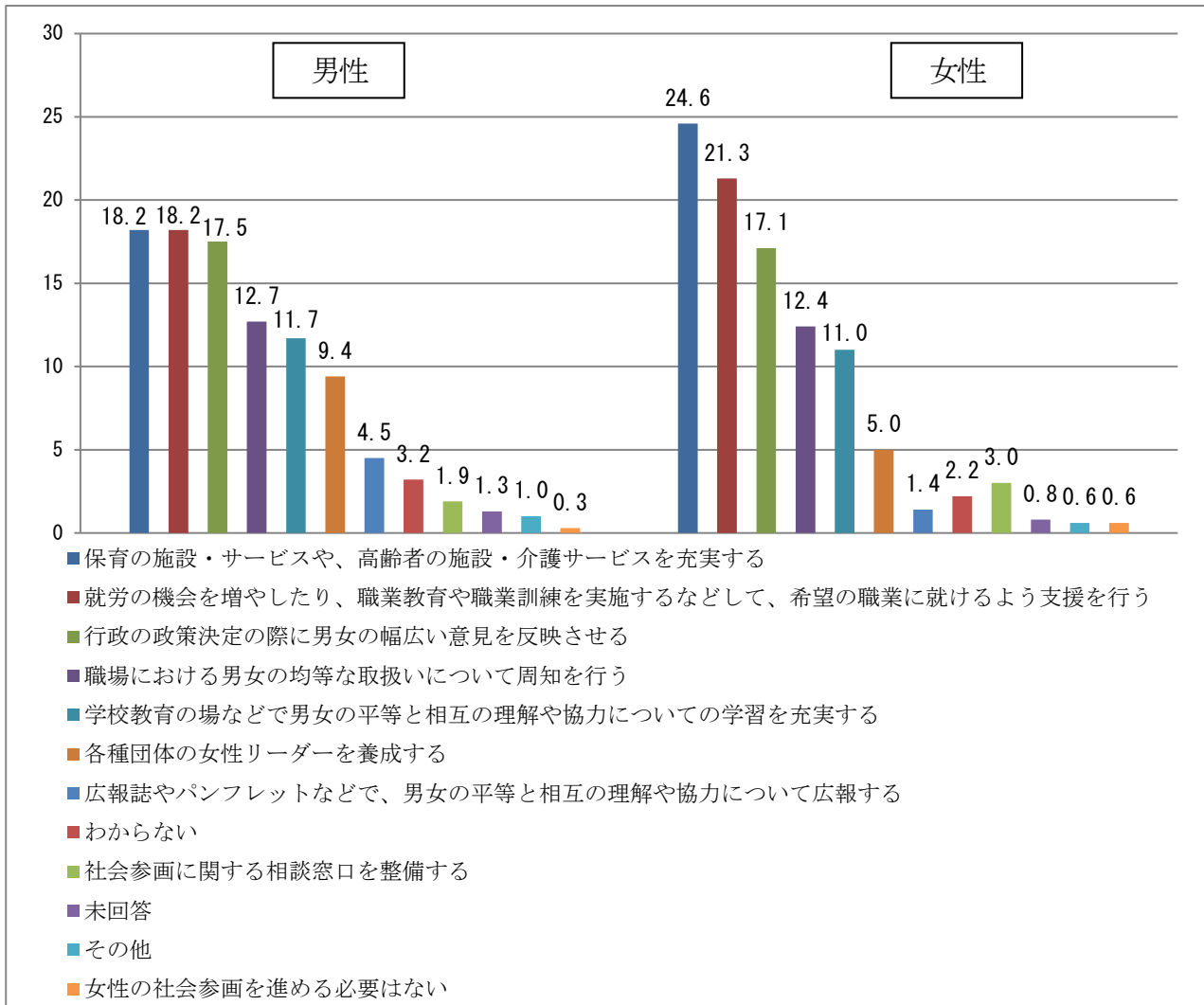
問9. 男女共同参画社会を実現するうえで、国や県、市町村は今後どのような取組みが必要だと思いますか。(複数回答)



◎ 前回調査と同様、「保育の施設・サービスや、高齢者の施設・介護サービスを充実する」「就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を実施するなどして、希望の職種に就けるよう支援を行う」「行政の政策決定の際に男女の幅広い意見を反映させる」が上位を占めている。

男女別で見た場合、「保育の施設・サービスや、高齢者の施設・介護サービスを充実する」と回答した女性の割合が男性を大きく上回っている。

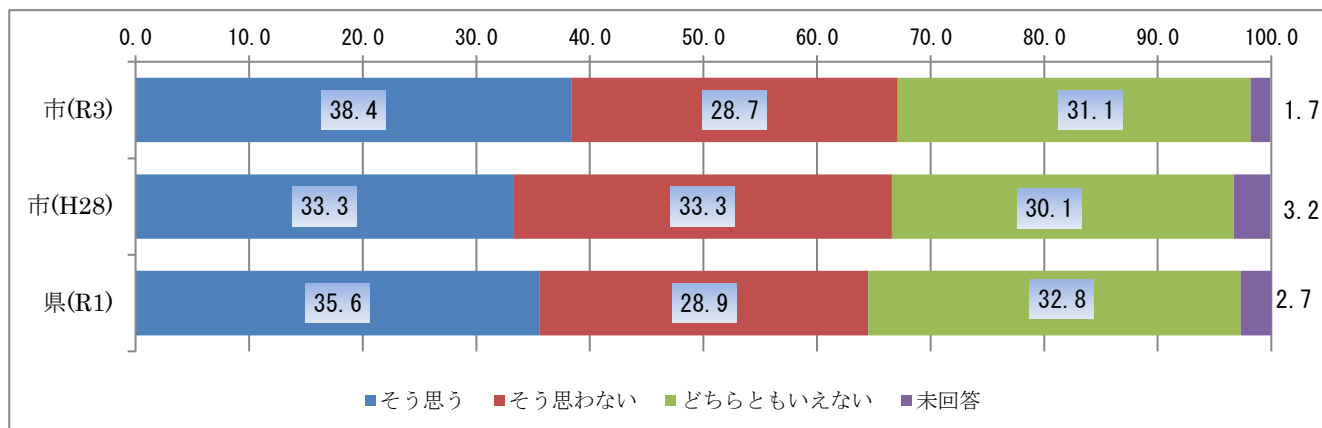
「各種団体の女性リーダーを養成する」と回答した男性の割合が女性と比べて概ね2倍になっている。



※その他の方は、「行政の政策決定の際に男女の幅広い意見を反映させる」「保育の施設・サービスや、高齢者の施設・介護サービスを充実する」「学校教育の場などで男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」に回答

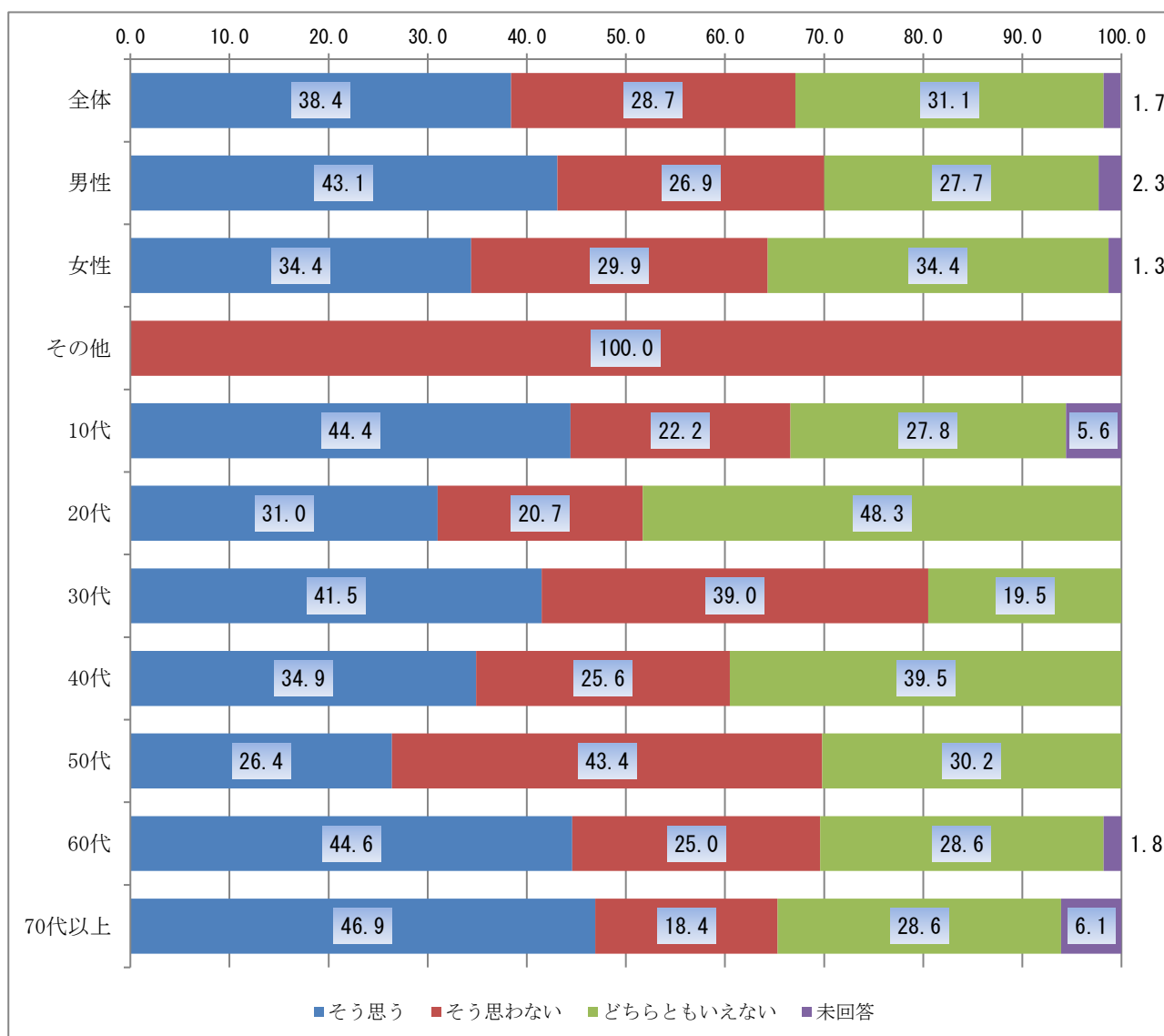
(10) 家庭生活、仕事、地域活動のバランスについて

問 10. あなたは現在、家庭生活、仕事、地域活動のそれぞれに関わり、バランスのとれた生活を過ごしていると思いますか。



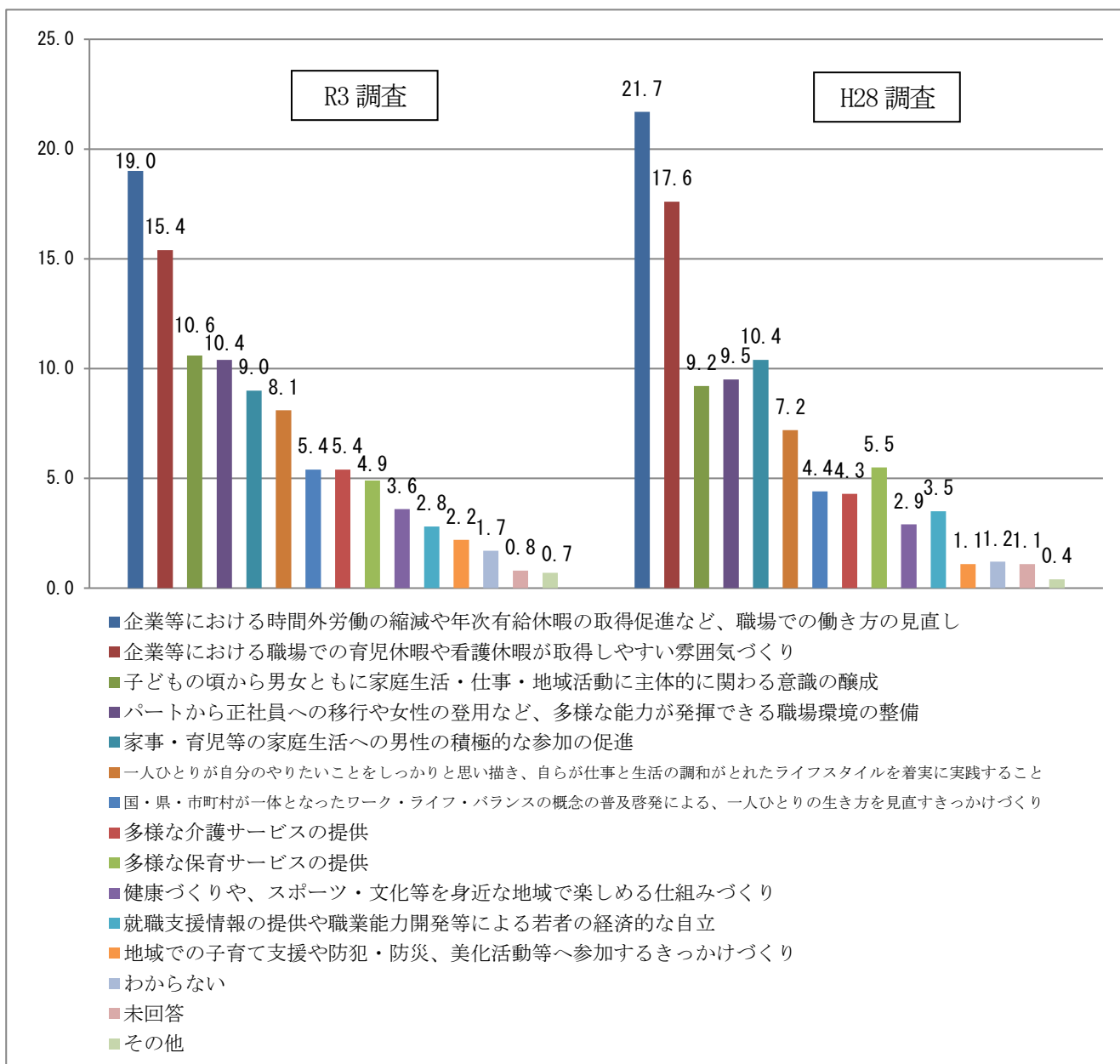
◎ 「そう思う」は5.1ポイント上昇し、「そう思わない」は4.6ポイント減少し、県調査と同程度となっている。

年齢別で見た場合、30代、50代において「そう思わない」が約4割となっている。



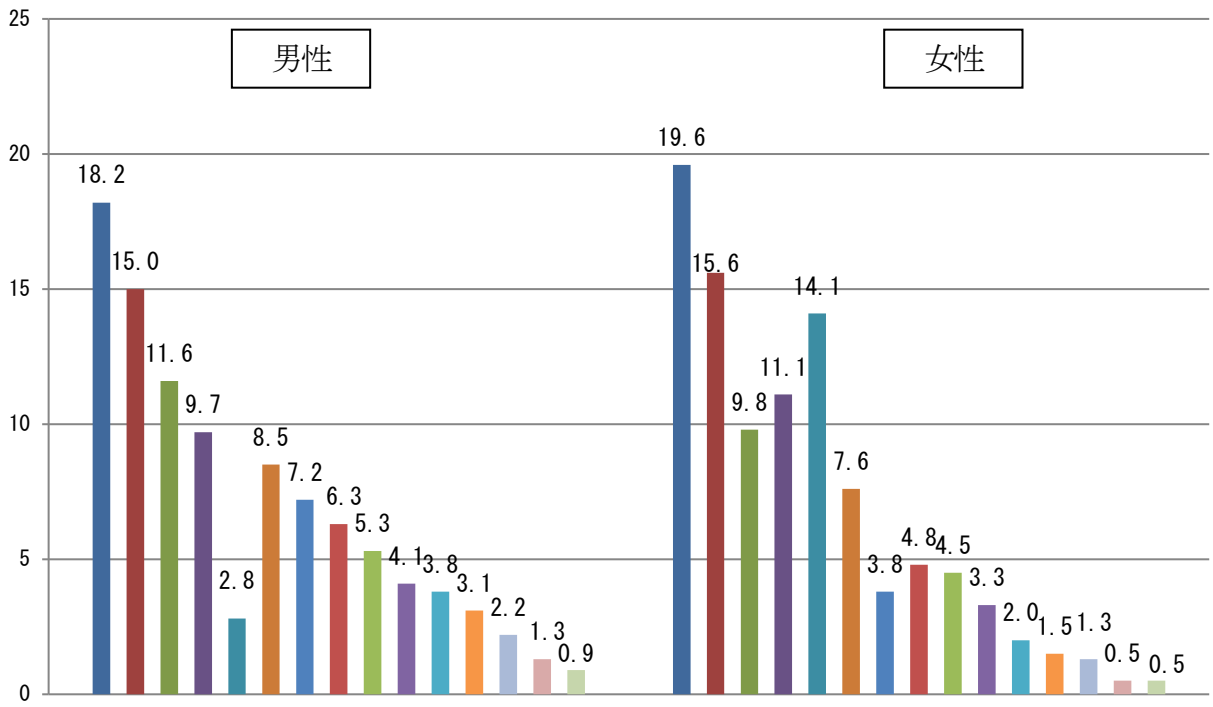
(11) 仕事と生活の調和のために必要な取組みについて

問 11. あなたは、仕事と生活の調和がとれるようになるには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)



◎ 「企業等における時間外労働の縮減や年次有給休暇の取得促進など、職場での働き方の見直し」(男性1位、女性1位)、「企業等における職場での育児休暇や看護休暇が取得しやすい雰囲気づくり」(男性2位、女性2位)、「子どもの頃から男女ともに家庭生活・仕事・地域活動に主体的に関わる意識の醸成」(男性3位、女性5位)が上位を占めている。

男女別で見た場合、「家事・育児等の家庭生活への男性の積極的な参加の促進」と回答した女性の割合が男性の約5倍となっており、大きく上回っている。

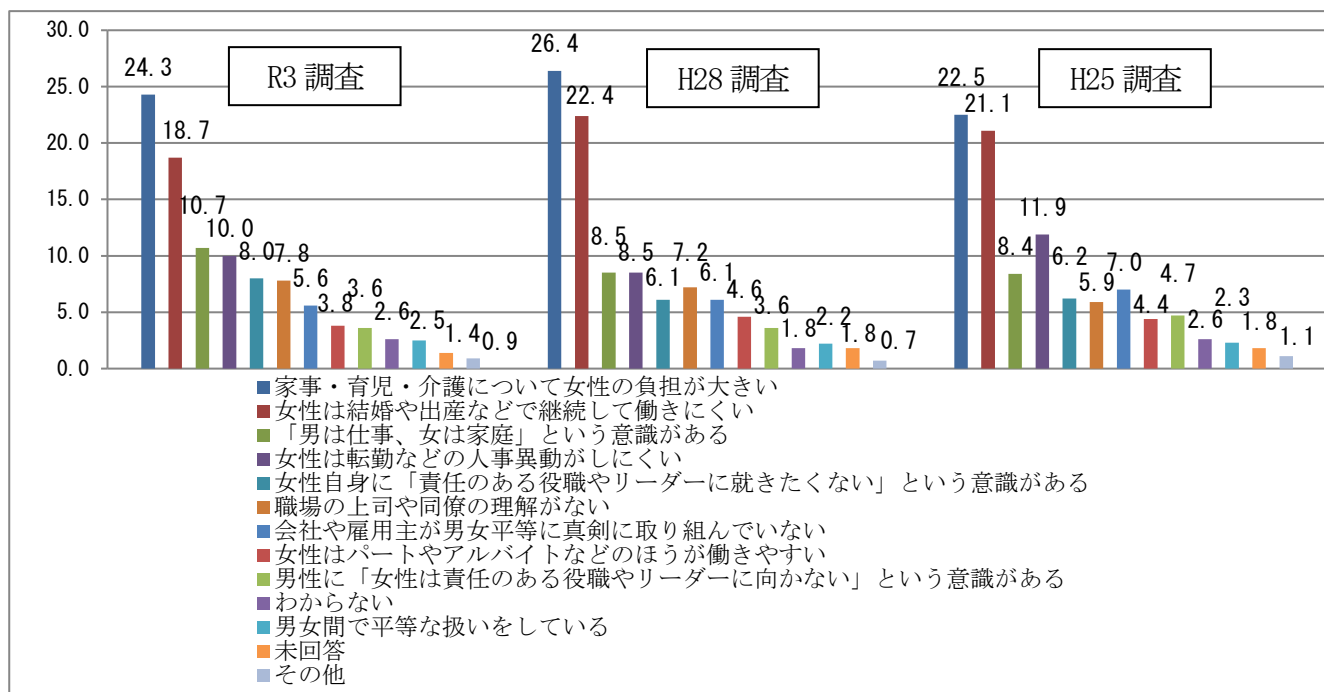


- 企業等における時間外労働の縮減や年次有給休暇の取得促進など、職場での働き方の見直し
- 企業等における職場での育児休暇や看護休暇が取得しやすい雰囲気づくり
- 子どもの頃から男女ともに家庭生活・仕事・地域活動に主体的に関わる意識の醸成
- パートから正社員への移行や女性の登用など、多様な能力が発揮できる職場環境の整備
- 家事・育児等の家庭生活への男性の積極的な参加の促進
- 一人ひとりが自分のやりたいことをしっかりと思い描き、自らが仕事と生活の調和がとれたライフスタイルを着実に実践すること
- 国・県・市町村が一体となったワーク・ライフ・バランスの概念の普及啓発による、一人ひとりの生き方を見直すきっかけづくり
- 多様な介護サービスの提供
- 多様な保育サービスの提供
- 健康づくりや、スポーツ・文化等を身近な地域で楽しめる仕組みづくり
- 就職支援情報の提供や職業能力開発等による若者の経済的な自立
- 地域での子育て支援や防犯・防災、美化活動等へ参加するきっかけづくり
- わからない
- 未回答
- その他

※その他の方は、「企業等における時間外労働の縮減や年次有給休暇の取得促進など、職場での働き方の見直し」「企業等における職場での育児休暇や看護休暇が取得しやすい雰囲気づくり」「国・県・市町村が一体となったワーク・ライフ・バランスの概念の普及啓発による、一人ひとりの生き方を見直すきっかけづくり」に回答

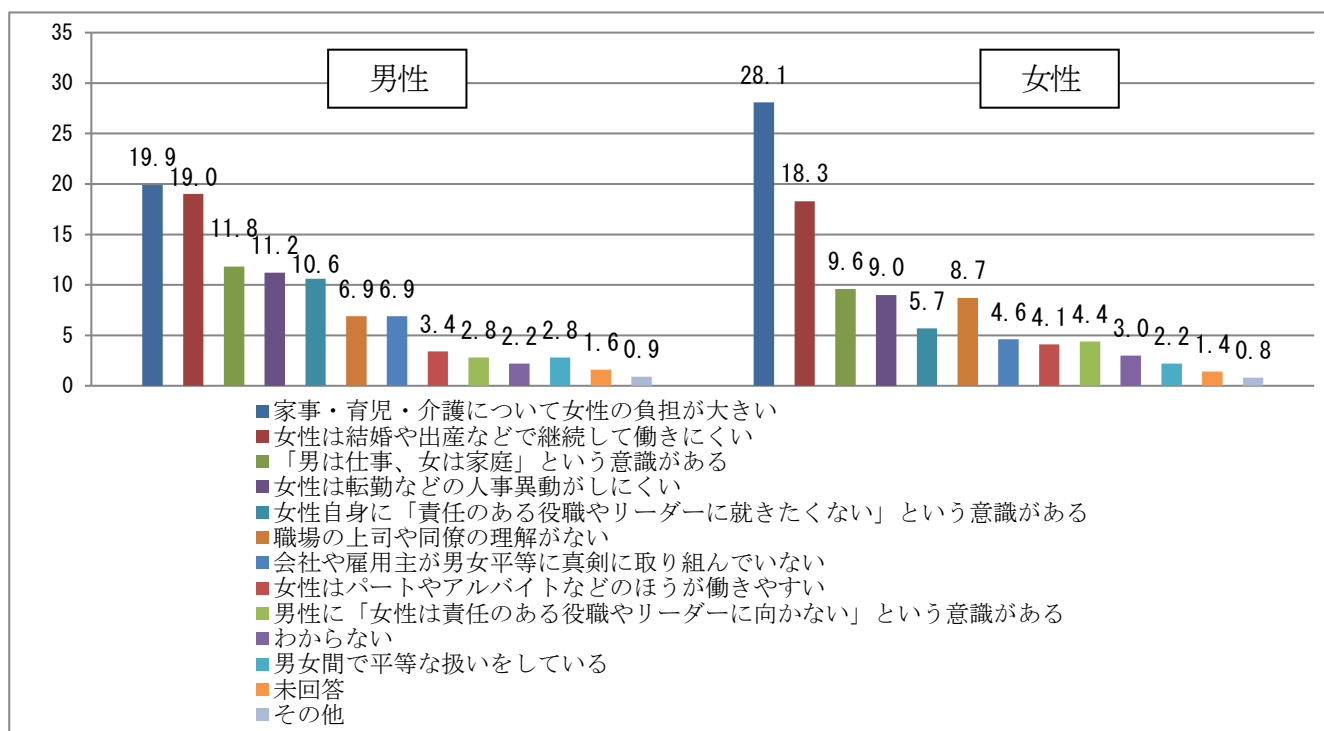
(12) 職場における男女間差別の理由について

問 12. あなたは、現在の職場において、男女間に差別がある場合、どのような理由からだと思いますか。就業していない場合は、一般的に考えられることをお答えください。（複数回答）



◎ 前回調査と同様、「家事・育児・介護について女性の負担が大きい」「女性は結婚や出産などで継続して働きにくい」が上位を占めている。

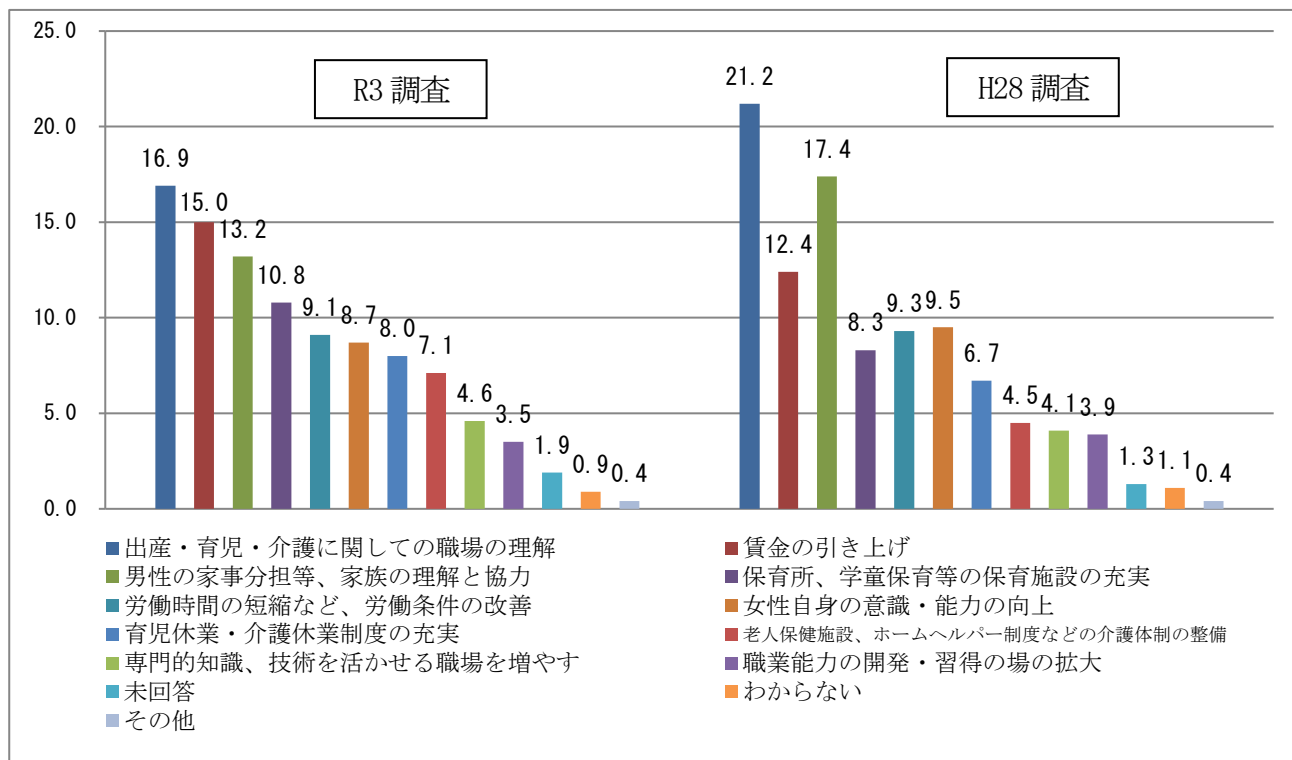
男女別で見た場合、「家事・育児・介護について女性の負担が大きい」と回答した女性の割合が男性を大きく上回っている。また、「女性自身に『責任のある役職やリーダーに就きたくない』という意識がある」と回答した男性の割合が女性と比べて概ね2倍になっている。



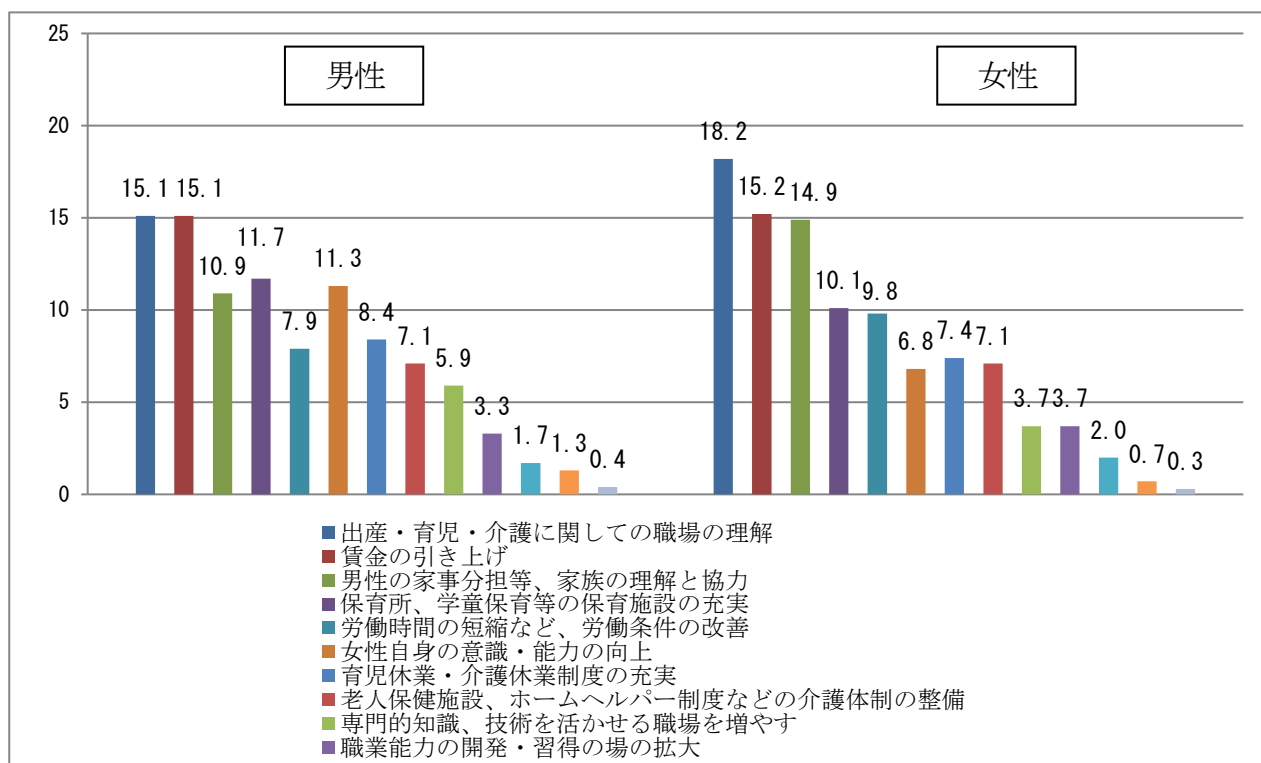
※その他の方は、「家事・育児・介護について女性の負担が大きい」「女性は結婚や出産などで継続して働きにくい」「男は仕事、女は家庭」という意識がある」に回答

(13) 女性が職業につく、または、働き続けていくうえで必要な取組みについて

問13. 女性が職業につくうえで、または働き続けていくうえで、今後どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)



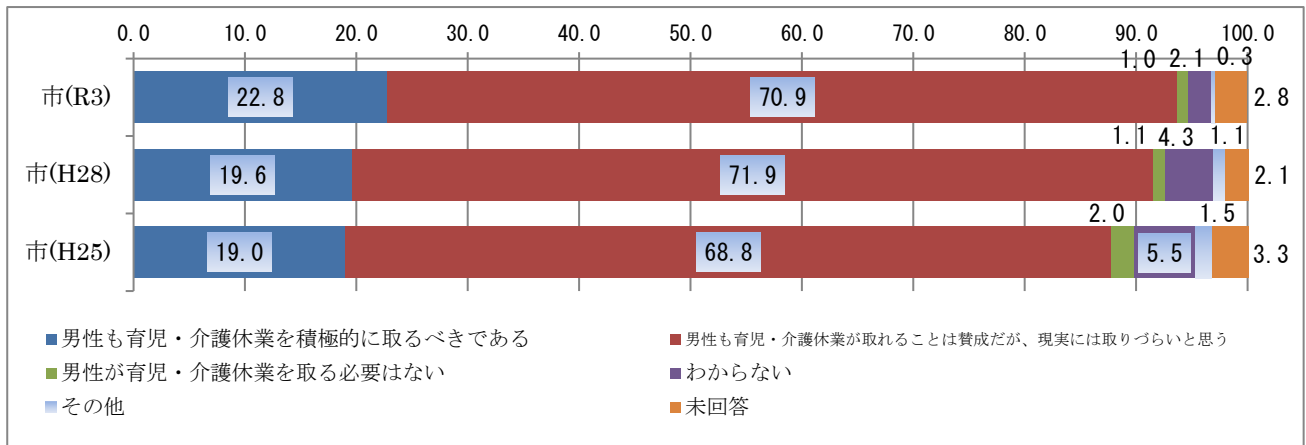
◎ 「出産・育児・介護についての職場の理解」「男性の家事分担等、家族の理解と協力」など、周囲の理解を求める回答が上位を占めている。男女別で見た場合、「男性の家事分担等、家族の理解と協力」と答えた女性の割合が男性に比べて高くなっている。



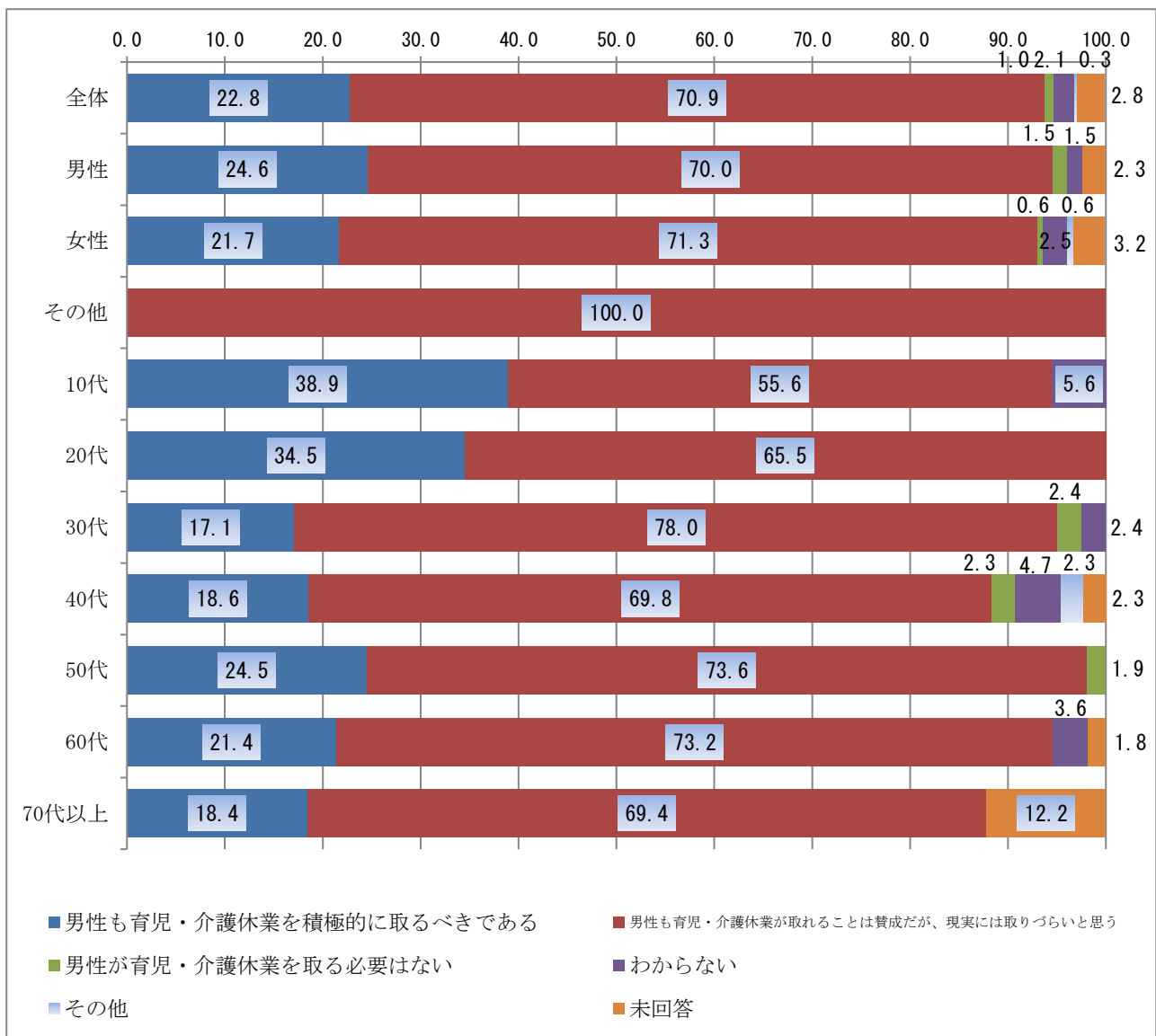
※その他の方は、「出産・育児・介護についての職場の理解」「育児休業・介護休業制度の充実」に回答

(14) 男性の育児休業・介護休業の取得について

問14. 職場では、男性も育児休業や介護休業が取れますが、このことについてどう考えますか。

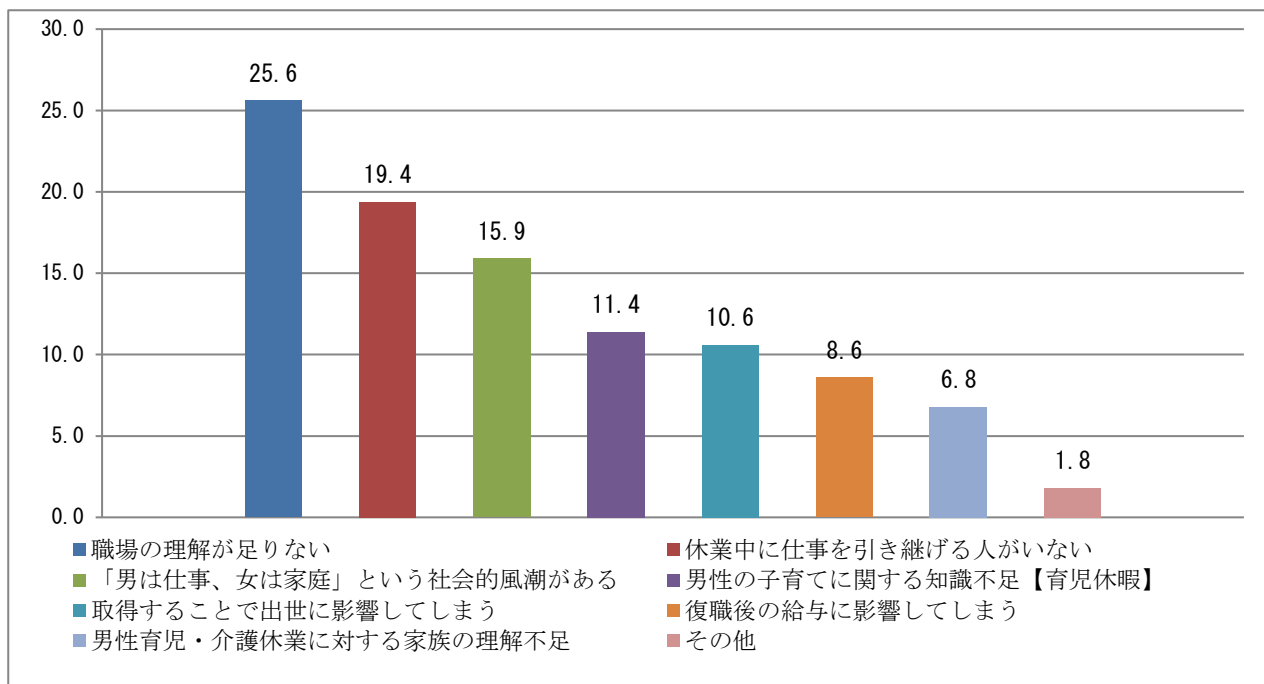


◎前回調査同様、どの年代も「男性も育児・介護休業がとれることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う」との回答が大半を占めている。また、年代別で見た場合、10代、20代は「男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである」との回答が3割を超え、他世代より高くなっている。



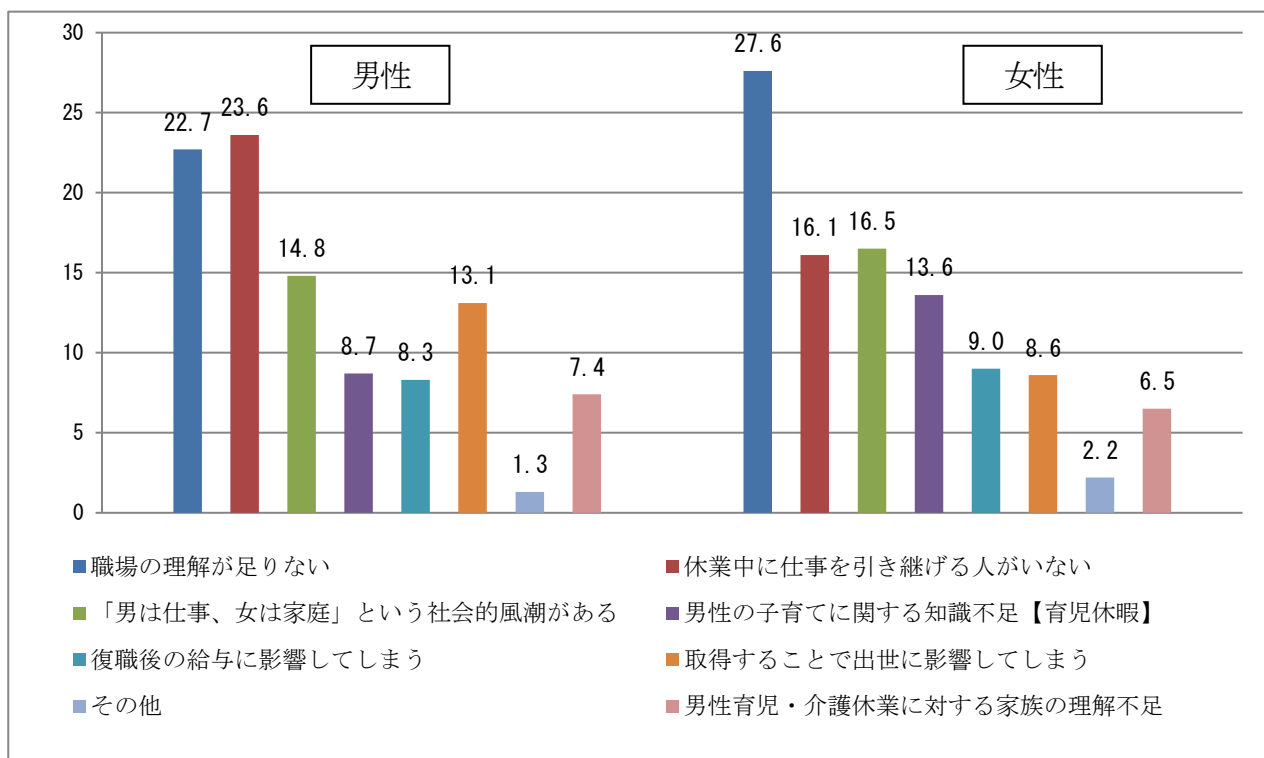
問 14-1. 「男性も育児・介護休業が取れることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」理由は、どのようなことですか。（複数回答）

【 全 体 】



◎ 「職場の理解が足りない」（男性2位、女性1位）、「休業中に仕事を引き継げる人がいない」（男性1位、女性3位）、「『男は仕事、女は家庭』という社会的風潮がある」（男性3位、女性2位）の順となっており、職場環境に問題があると答えた割合が高い状況となっている。

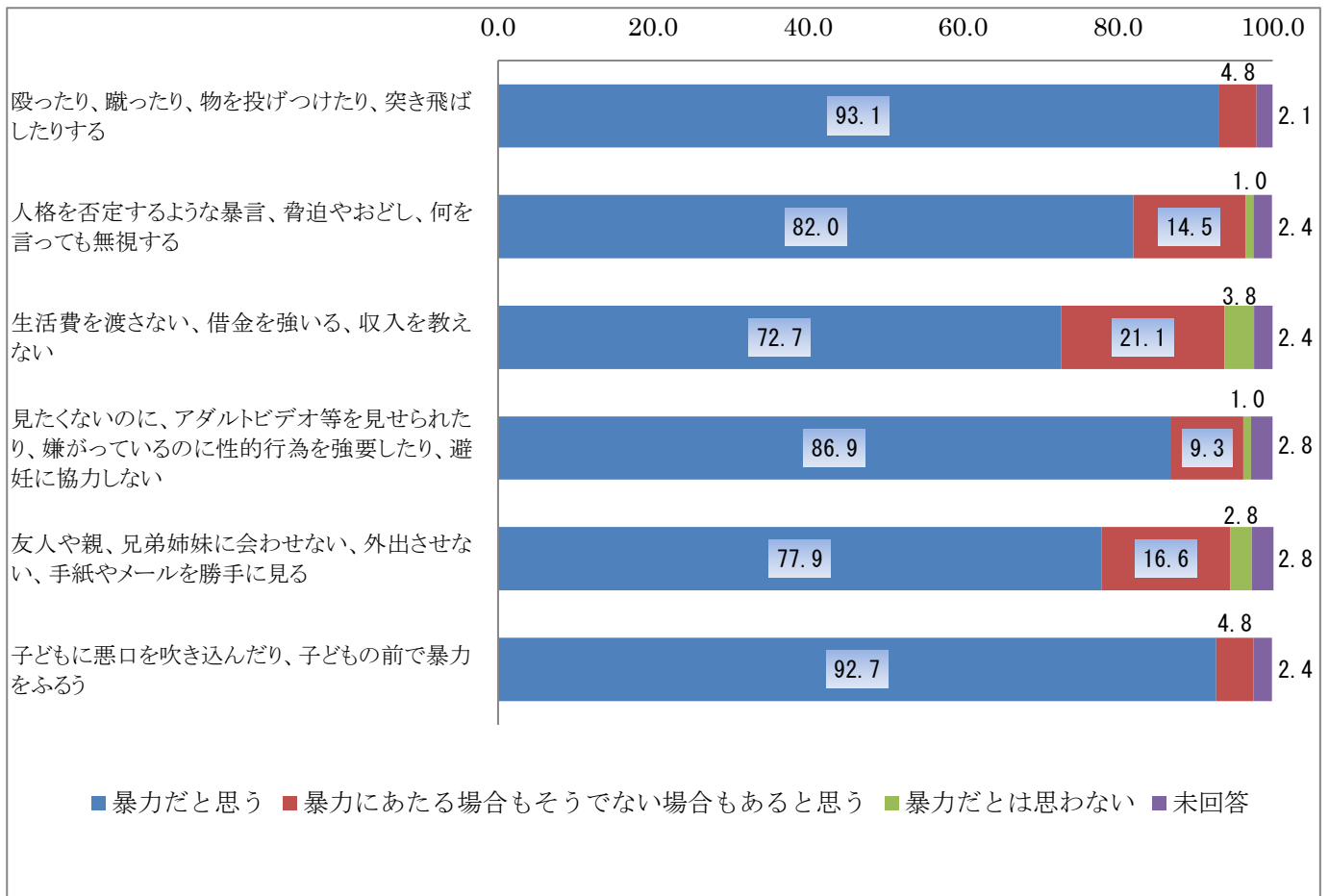
男女別で見た場合、「休業中に仕事を引き継げる人がいない」と答えた男性の割合が女性に比べて大きく上回っている。



※その他の方は、「職場の理解が足りない」「男は仕事、女は家庭」という社会的風潮がある」に回答

(15) 配偶者・パートナーからの暴力について

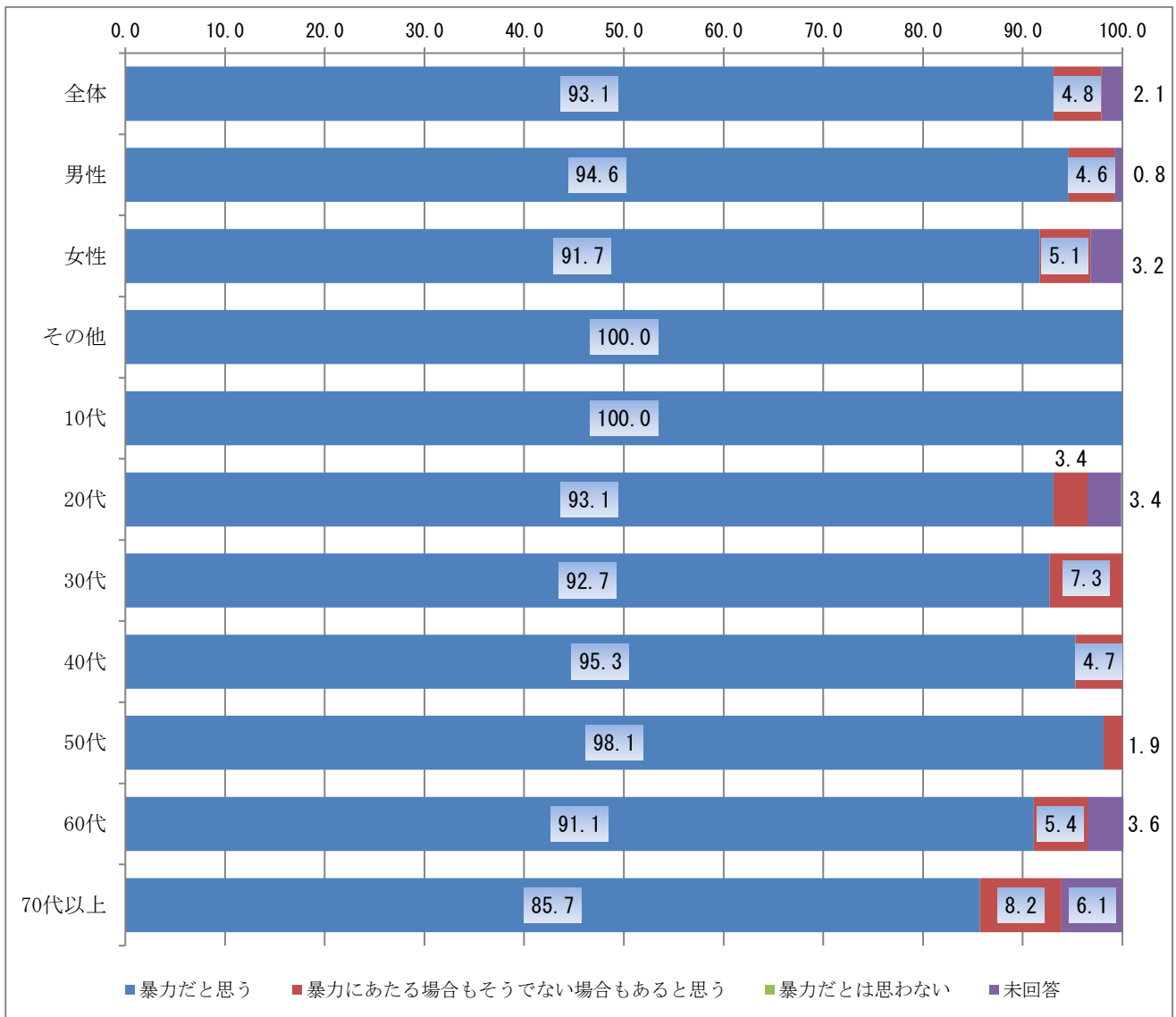
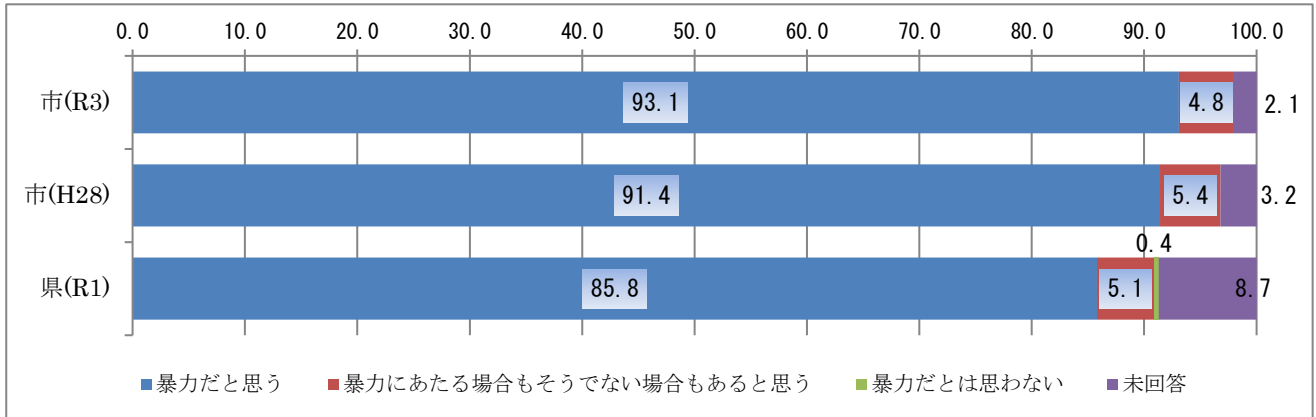
問 15. 夫婦(事実婚や別居中を含む)の間で行われた場合、それをどのように感じますか。



- ◎ すべての項目において「暴力だと思う」が最も多く、7割を上回っている。「生活費を渡さない、借金を強いる、収入を教えない」「友人や親、兄弟姉妹に会わせない、外出させない、手紙やメールを勝手に見る」については「暴力にあたらない場合もある」との回答が約2割となっている。なお、すべての項目において「暴力だと思う」と回答した割合が、県調査を上回っている。

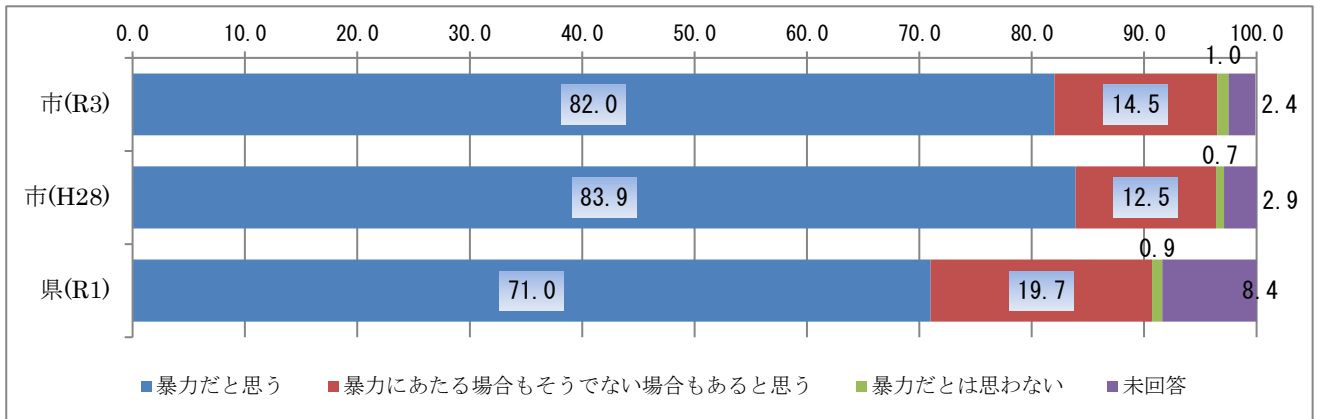
【殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりする】

「暴力だと思う」は9割を超え、「暴力だと思わない」はいなかった。年代別に見た場合、70代以上において「暴力だと思う」が他世代より低くなっている。

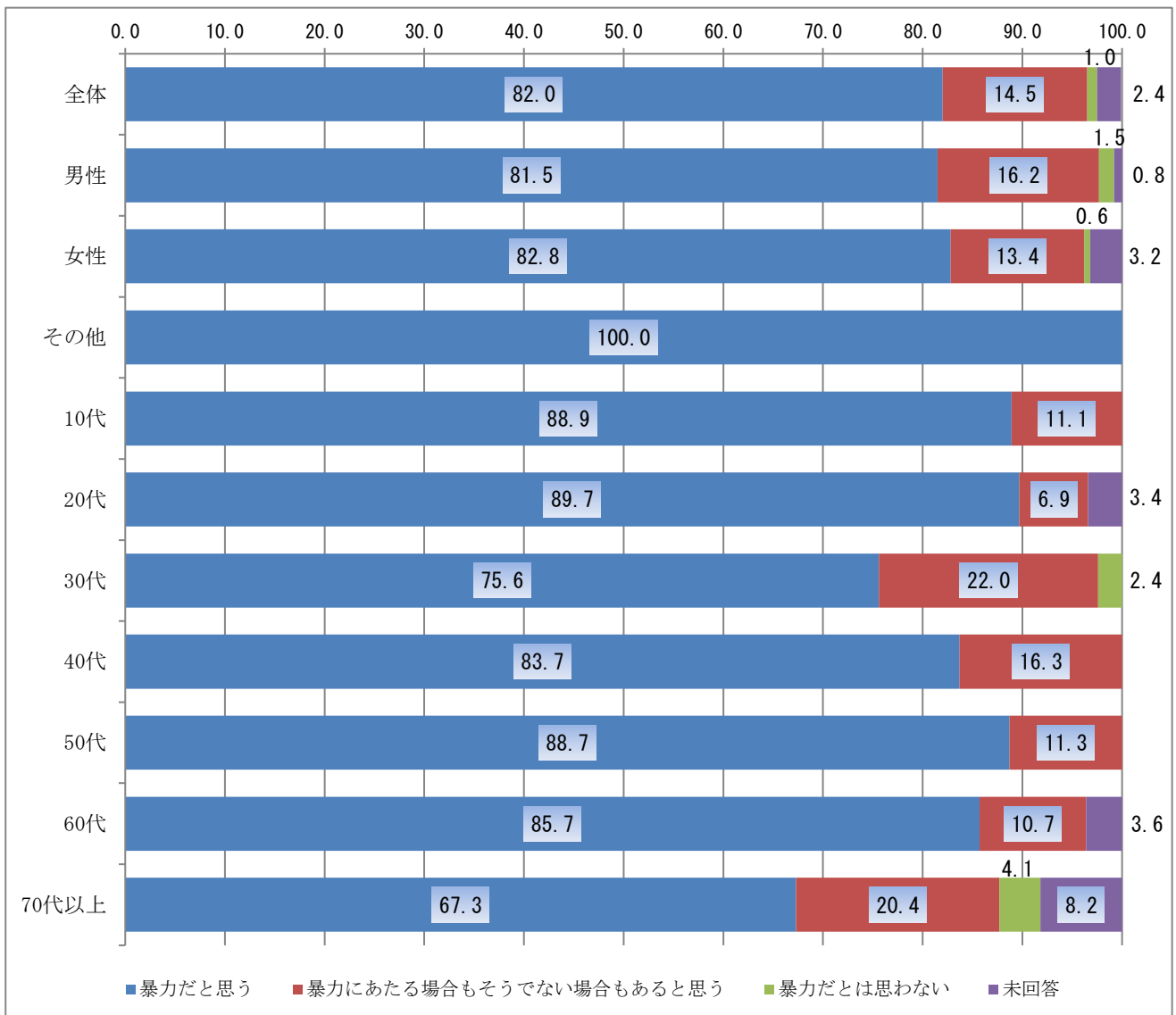


【人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視する】

「暴力だと思う」は8割を超えている。年代別に見た場合、30代、70代以上において「暴力だと思う」が他世代より低くなっている。

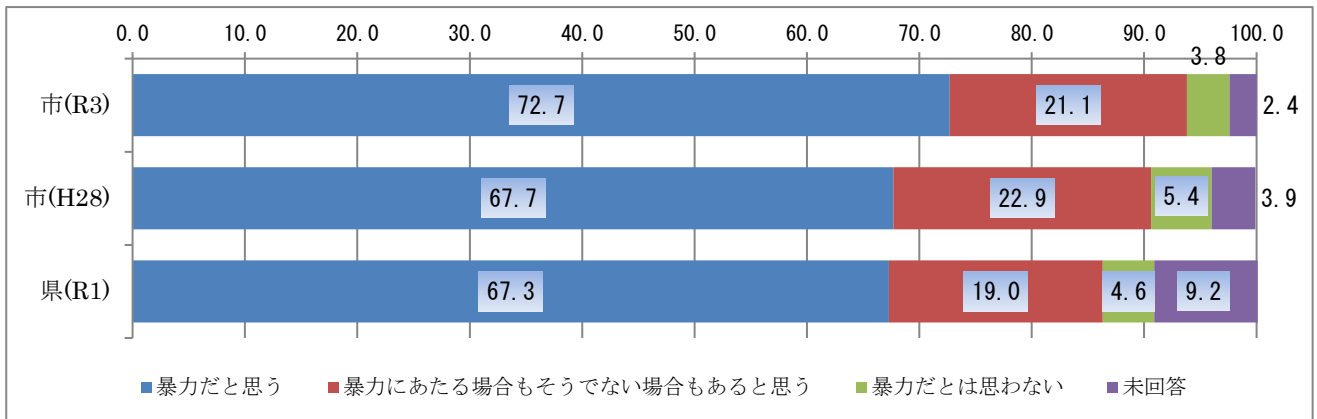


※県は「大声でどなったり、傷つく言葉を言う、殴るふりをしておどす」に対する回答結果

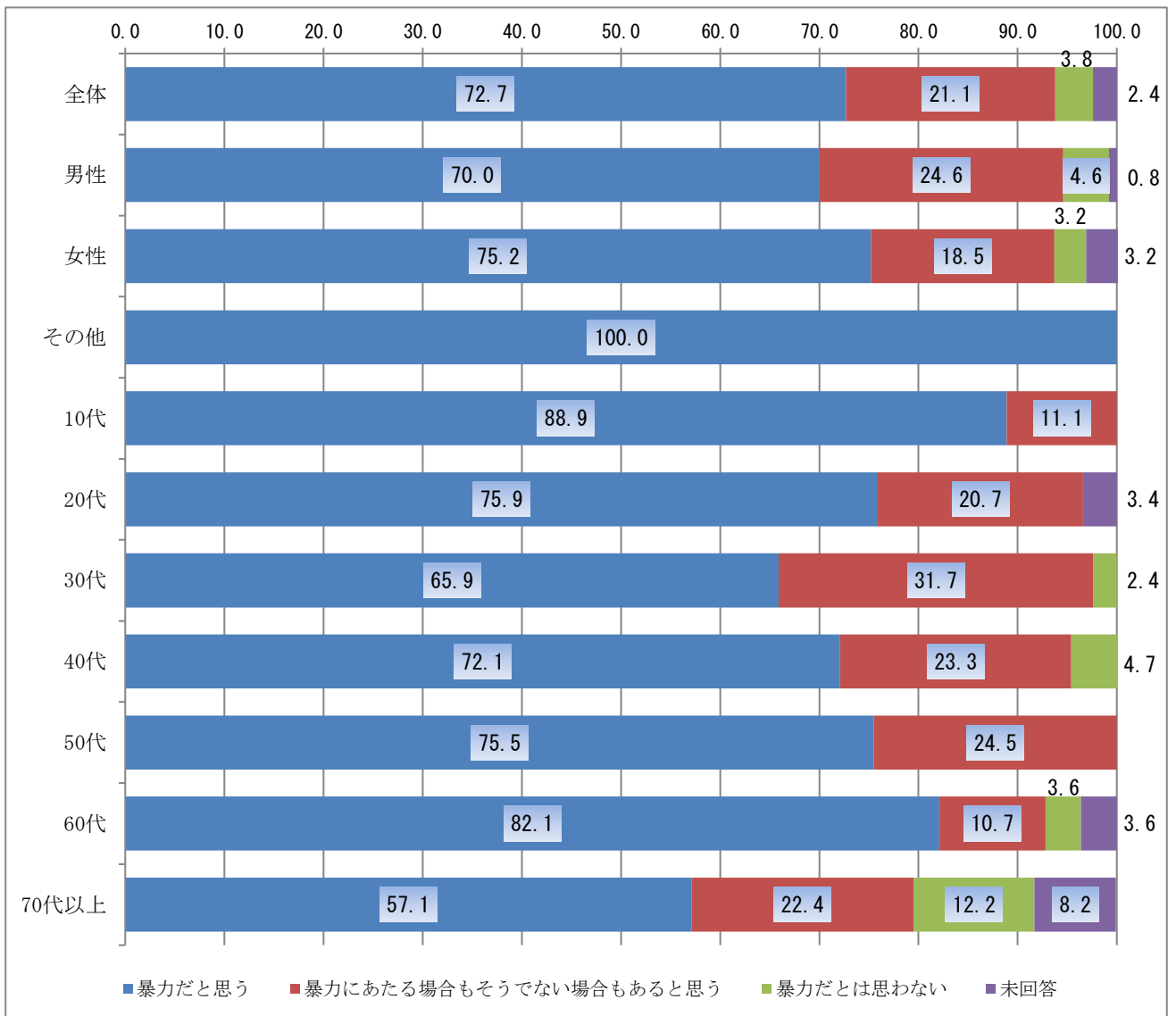


【生活費を渡さない、借金を強いる、収入を教えない】

「暴力だと思う」は約7割で、全項目の中で最も低く、「暴力だと思わない」は最も高くなっている。年代別に見た場合、30代以上では「暴力だと思わない」が一定程度存在し、70代以上において1割程度存在している。

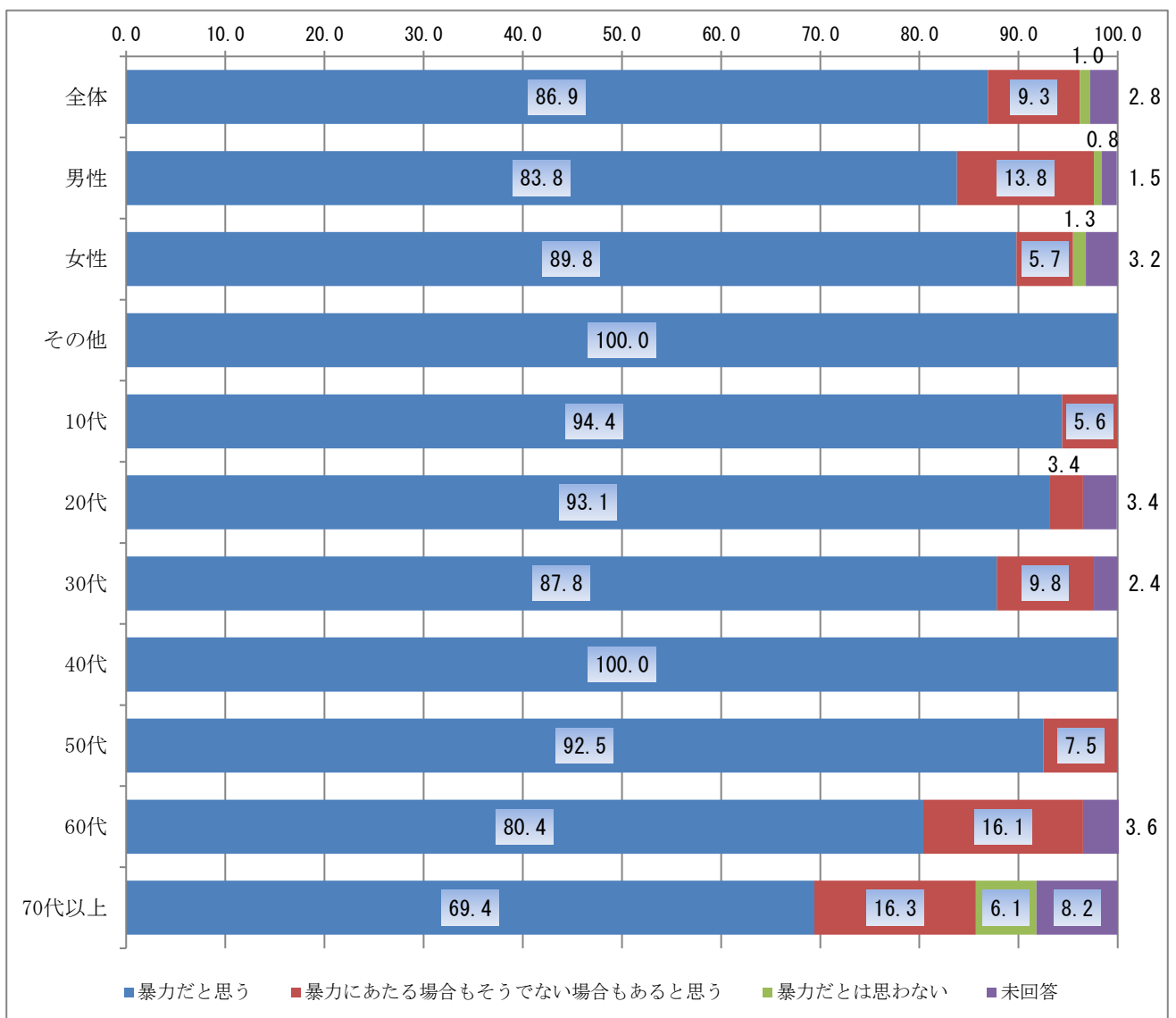
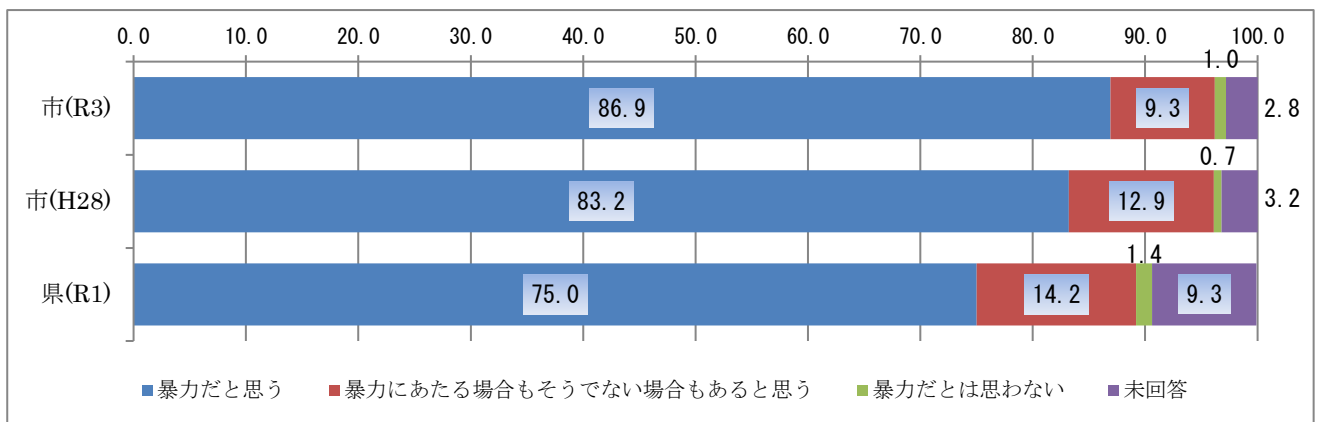


※県は「生活費を渡さない、金銭的な自由を与えない」に対する回答結果



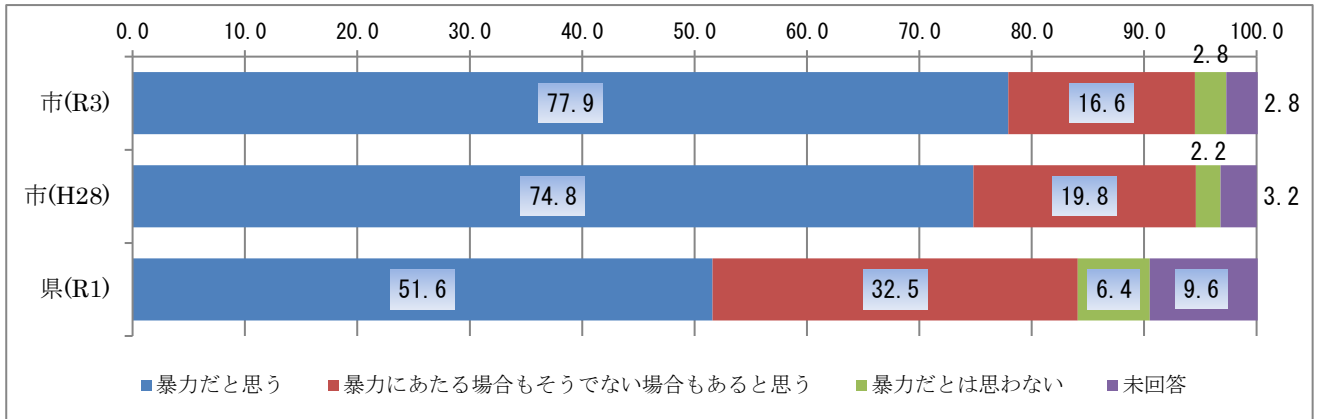
【見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しない】

「暴力だと思う」は8割を超えている。年代別に見た場合、60代、70代以上において「暴力だと思う」が他世代より低くなっている。

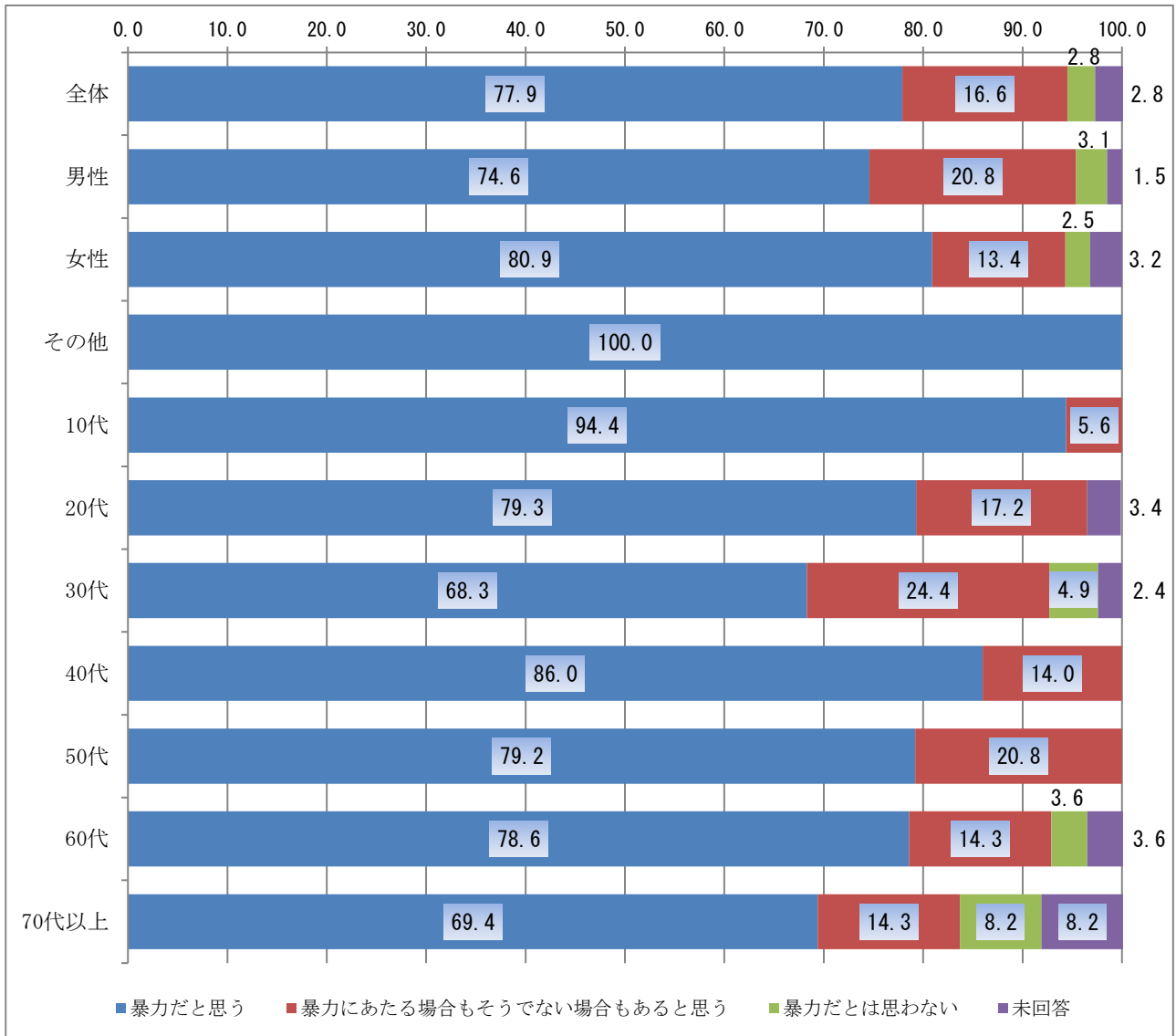


【友人や親、兄弟姉妹に会わせない、外出させない、手紙やメールを勝手に見る】

「暴力だと思う」は約8割で、全項目の中で2番目に低く、「暴力だと思わない」も2番目に高くなっている。年代別に見た場合、30代以上では「暴力だと思わない」が一定程度存在し、70代以上において1割程度存在している。

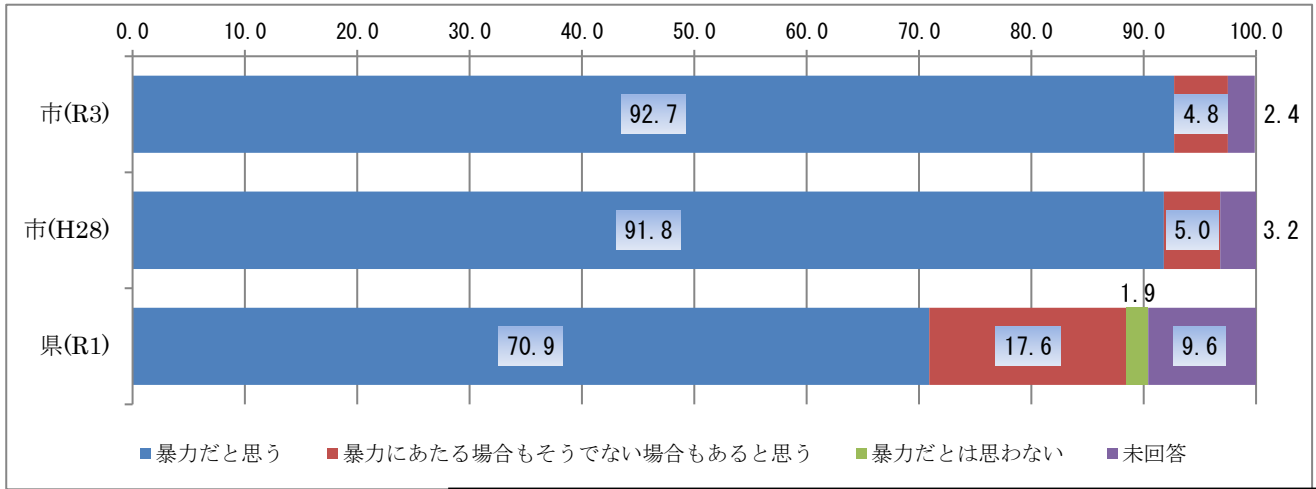


※県は「交友関係、電話、メールなどを細かくチェックする」に対する回答結果

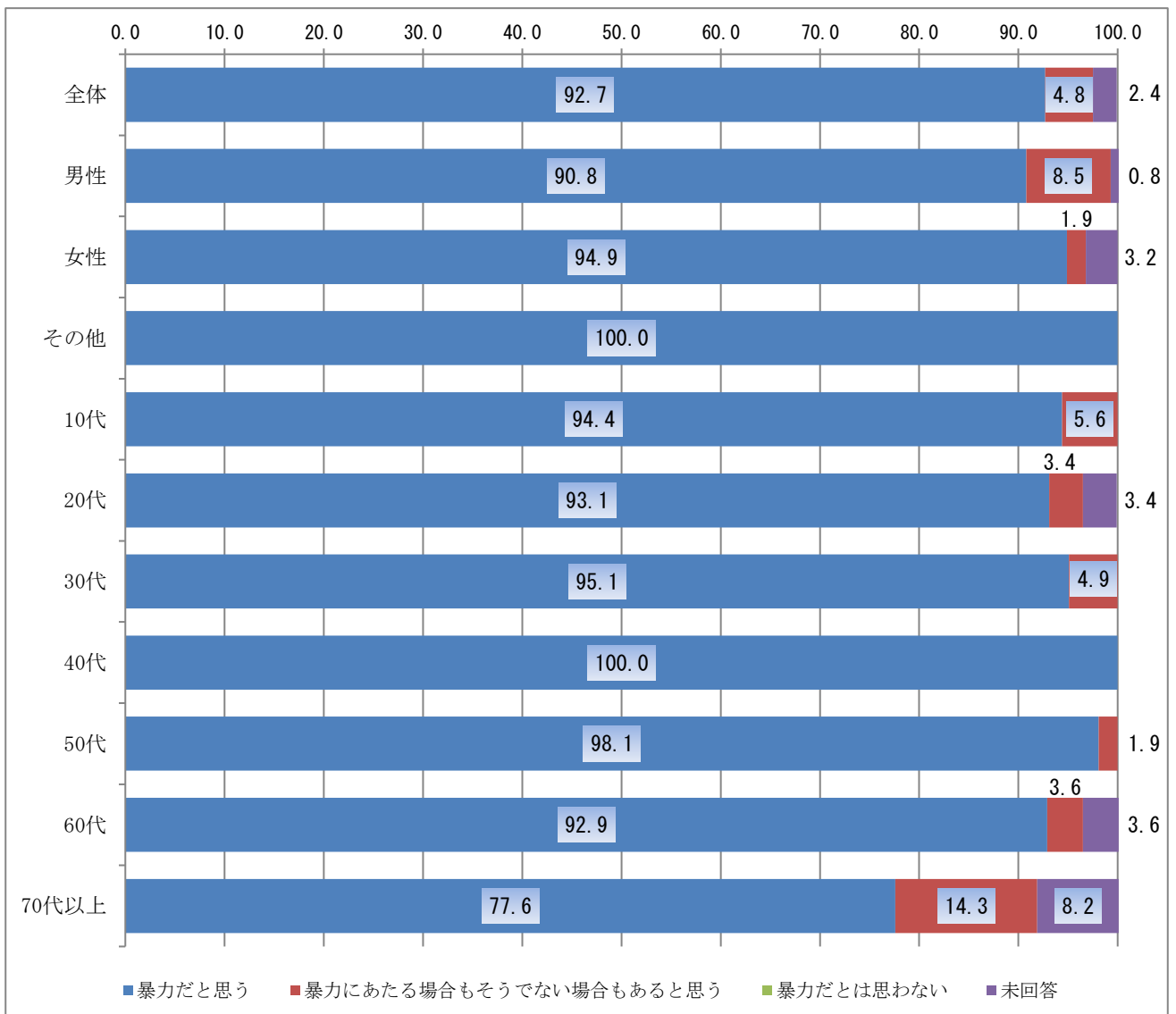


【子どもに悪口を吹き込んだり、子どもの前で暴力をふるう】

「暴力だと思う」は9割を超え、「暴力だと思わない」はいなかった。年代別に見た場合、70代以上において「暴力だと思う」が他世代より低くなっている。

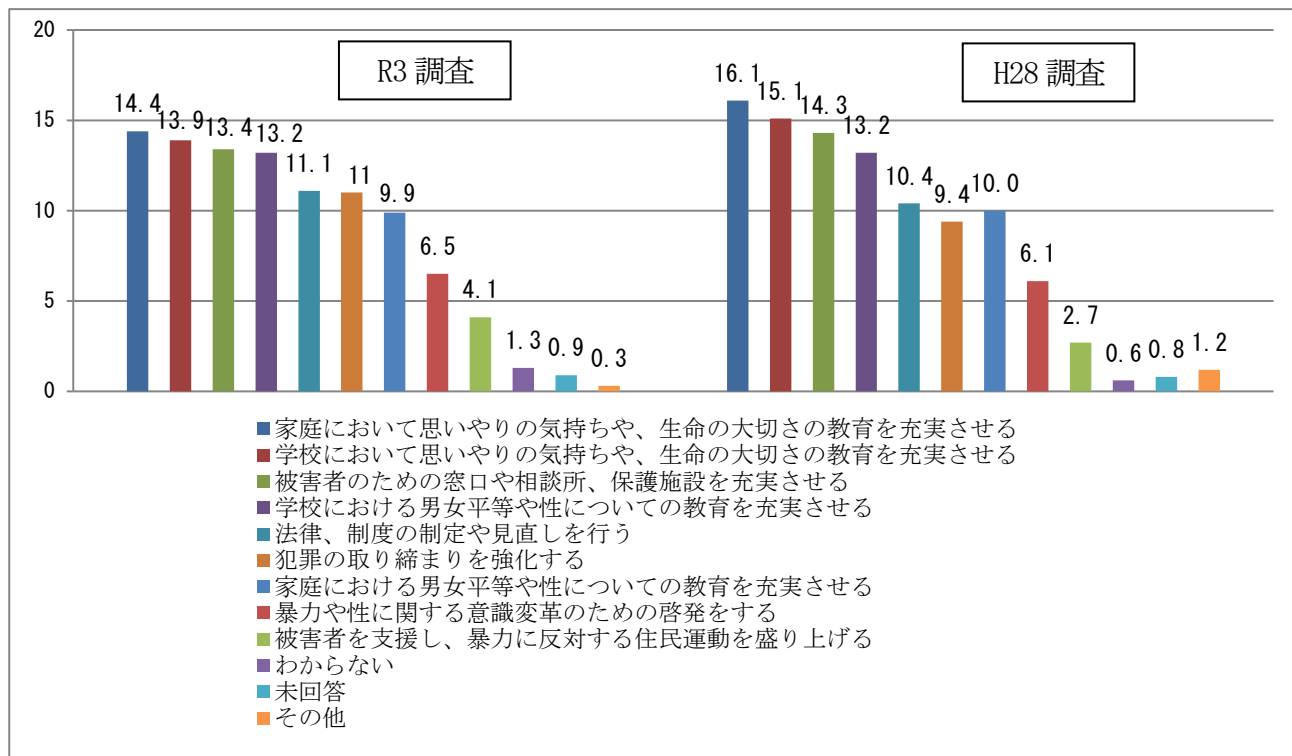


※県は「子どもに悪口を吹き込んだり、子どもを取り上げると脅す」に対する回答結果

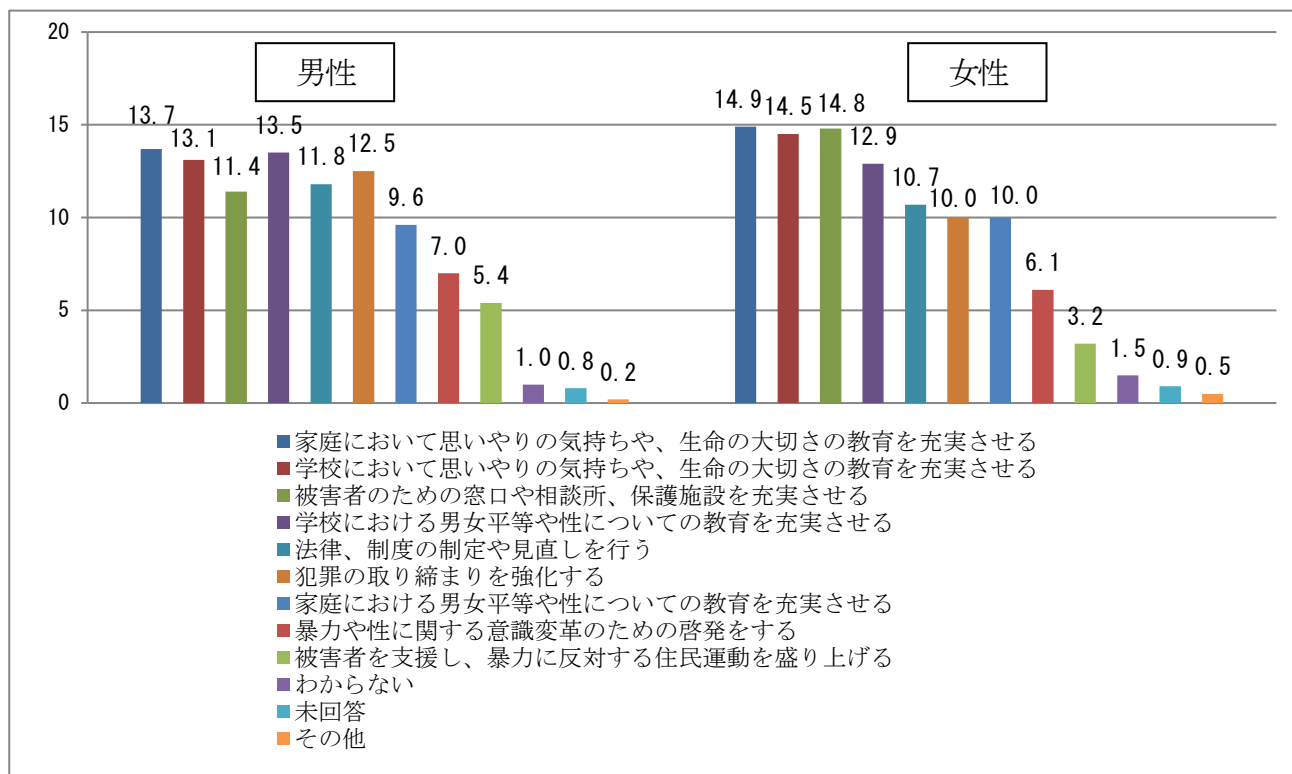


問16. デートDV(交際相手からの暴力)、DV(配偶者等からの暴力)、セクシュアルハラスメント、ストーカー、性暴力などの行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。
(複数回答)

【全体】



◎ 家庭や学校における思いやり、男女平等などについての教育の充実を求める回答が高い傾向にある。また、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を充実させる」との回答も高い傾向にある。男女別で見た場合、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を充実させる」との回答が、男性より女性の方が高くなっている。



※その他の方は、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を充実させる」「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」「家庭における男女平等や性についての教育を充実させる」「暴力や性に関する意識変革のための啓発をする」に回答